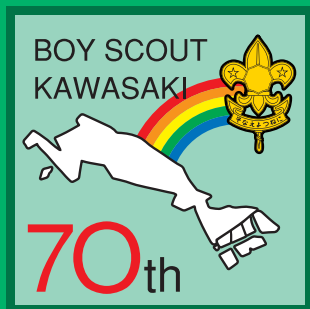


# ボーイスカウト川崎地区 創立70周年記念誌



ボーイスカウト川崎地区  
創立70周年記念

**KAWASAKI DISTRICT**  
**KANAGAWA SCOUT COUNCIL, SAJ**

**70th Anniversary**

つながる つなげる 今までも これからも

# ボーイスカウト川崎地区 創立 70 周年記念誌

## 目次

### 挨拶・祝辞

#### ボーイスカウト川崎地区

地区協議会長 . . . . . 2

地区委員長 . . . . . 3

地区コミッショナー . . . . . 4

川崎市長 . . . . . 5

#### ボーイスカウト神奈川連盟

理事長 . . . . . 6

県連盟コミッショナー . . . . . 7

#### 川崎市青少年育成連盟

川崎市子ども会連盟長 . . . . . 8

川崎海洋少年団団長 . . . . . 8

ガールスカウト川崎市連絡会会長 . . . . . 9

川崎地区賛助会会長 . . . . . 9

#### ボルチモア市

ボルチモア市長 . . . . . 10

ボルチモア地区 CEO . . . . . 11

ボルチモア第 3776 隊隊長 . . . . . 12

### 川崎地区のあゆみ . . . . . 13

川崎市・ボーイスカウトのあゆみ . . . . . 14

企業隊について . . . . . 26

ジャンボリー . . . . . 29

白梅隊 . . . . . 46

GATC . . . . . 47

ボルチモア - 川崎スカウト交流 . . . . . 50

地区賛助会 . . . . . 54

#### 活動施設紹介

青少年の家 . . . . . 58

黒川青少年野外活動センター . . . . . 59

国際交流センター・てくのかわさき . . . . . 60

座談会「われらが青春時代の話しよう」 . . . . . 61

70 周年記念表彰 . . . . . 70

シンボルマーク・応募作品紹介 . . . . . 72

### 川崎地区の団紹介（全団マップ） . . . . . 73

川崎第 22 団 . . . . . 74

川崎第 26 団 . . . . . 76

川崎第 38 団 . . . . . 78

川崎第 39 団 . . . . . 80

川崎第 43 団 . . . . . 82

川崎第 46 団 . . . . . 84

川崎第 49 団 . . . . . 86

川崎第 53 団 . . . . . 88

川崎第 54 団 . . . . . 90

川崎第 56 団 . . . . . 92

川崎第 57 団 . . . . . 94

川崎スカウトクラブ . . . . . 96

### 地区・各運営委員会

総務委員会 . . . . . 98

スカウト支援委員会 . . . . . 99

進歩委員会 . . . . . 101

国際委員会 . . . . . 102

指導者養成委員会 . . . . . 104

安全委員会 . . . . . 105

トレーニングチーム . . . . . 106

70 周年特別委員会 . . . . . 107

コミッショナーグループ . . . . . 108

### 川崎地区の記録 . . . . . 109

各団初期登録一覧表 . . . . . 110

団隊登録状況一覧図 . . . . . 111

70 周年小史（1951 ～ 2021） . . . . . 112

富士章・隼章・菊章受章者名簿 . . . . . 118

川崎地区役員名簿 . . . . . 121

### 編集後記 . . . . . 124

## ごあいさつ

日本ボーイスカウト川崎地区協議会  
会長 境 紳隆



三指 1950年3月、川崎市中原の児童養護施設「新日本学院」(現「新日本学園」)にボーイスカウト川崎第1隊(1958年以降は「団」)が発隊しました。そして翌1951年11月、ボーイスカウト川崎地区委員会が設立されました。(1958年以降組織名称は「川崎地区協議会」)

川崎地区では従来、川崎でボーイスカウトが始まって何年という基準で、1950年から数えて周年行事を行って来ましたが、2020年は新型コロナが蔓延し様々な記念行事が開催できないと見込まれたことから、当初の予定を1年繰り延べ、奇しくも川崎地区創立70周年に当たる2021年度に「70周年記念行事」を開催することと致しました。

私たちがこの活動を70年の長きに渡り続けてこられたのは、各団各位の情熱と頑張りはもとより、市当局を始め地域の皆様方のご理解ご協力あったのことに、深く感謝申し上げます。

さて、先般大学で教鞭を執る知人から「教員が直接子供達を指導するのではなく、子供達が子供達を指導する教育方法が世界的に注目されているが、それってボーイスカウトの教育方法だよね？ボーイスカウト教育の特長を研究し深めて行かなければ、新しく研究している人達にボーイスカウトの良さを持って行かれてその存在意義が希薄になってしまうかもしれないね。」と言われました。スカウト教育の根幹は「組」「班」と言った小グループをスカウト自身が自ら運営する体験学習にあります。スカウトは、そこでの失敗体験や成功体験を糧として、優しく逞しい大人へと成長して行くのです。

俳聖松尾芭蕉のことばに「古人の跡をもとめず、古人の求めたる所をもとめよ」というものがあります。尊敬すべき先達先輩方は私たちに沢山のものを遺して下さいました。「白梅隊」、「ゴールデンアックス・トレーニングコース」、「ボルチモア&川崎スカウト交流事業」、「地区賛助会」等々。それらを維持発展させて行く上でも「古人の求めたる所を求める」意識を忘れずに取り組んでまいりましょう。

弥栄

## 70周年を機にますますの充実を

日本ボーイスカウト川崎地区協議会  
地区委員長 北條 賢一



昭和25年川崎市に初めてボーイスカウトが誕生し、翌年8ヶ隊により川崎地区が結成されてから70周年を迎えました。創生期の多くの先輩諸氏の努力やスカウトの情熱により、40周年（平成2年）時には27ヶ団を数えるほどになりました。しかしその後の時代の変化もあり、50周年では22ヶ団、60周年で21ヶ団と減少傾向になり、地区として将来を見据えた再編成を実施し、平成27年に現在の11ヶ団として再スタート致しました。

令和2年に創立70周年記念事業が計画され、テーマを「つながる つなげる 今までも これからも」とし、「スカウトフェスタ」「記念式典」「記念誌」の実施、発行を予定しておりましたが、みなさまご存じの通り新型コロナウイルスの流行により緊急事態宣言が発令され、企画会議の開催も不可能となりやむなく平成3年への延期となりました。各団の活動も平成2年、3年と野外行事が行えずボーイスカウト活動の要とも言えるキャンプやハイキングが実施できない状況となりました。しかしながらインターネットを活用した「Web会議」による隊集会が行なわれたり、日本連盟の提案による「おうちスカウティング」が充実するなど、時代に合わせた新しい活動を見いだすことができたのは、スカウトの情熱と指導者の努力、ご家庭の皆様のご協力の賜物だと思っております。

1900年代初頭に創始者ベーデンパウエルによりイギリスで誕生したスカウティングは、世界中に飛躍し発展してまいりました。今後も時代に合わせた柔軟な方法で「思いを形にする力」を備えた「社会に貢献できる青少年の育成」に努めたいと存じます。

70周年を機に私たちのふるさとである川崎市にて、仲間である子ども会、ガールスカウト、海洋少年団と共に励み、ボーイスカウト神奈川連盟の一員としてこのスカウト運動をますます充実させていきましょう。  
つながる つなげる、今までもこれからも。



# 創立 70 周年記念を迎えて

～次代に向けた歩み～

日本ボーイスカウト川崎地区協議会  
地区コミッショナー 北村 岳人



この度、長年に渡り、川崎地区を支えていただきました多くの皆様の御支援と御協力により、創立70周年を無事に迎えることができ、心より感謝申し上げます。

本来であれば昨年度に周年事業を行う計画でありましたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい続け、私たちの活動は、繰り返し活動自粛によりリモート活動を中心とした制約をお願いしてまいりました。この間、特に隊指導者の皆様におかれましては、スカウト一人ひとりと向き合いながら、工夫した活動を積み重ねてこられ、感謝申し上げます。今後も新しい生活様式を踏まえた対応をよろしくお願い申し上げます。

さて、当地区の加盟員は減少傾向が長く続き、1,000人を下回る状況です。クラブ活動や様々な習い事など、現代の子ども達を取り巻く環境は多様化していますが、コロナ禍である今、私たちの活動に興味を示す多くの方々がいることも事実です。改めてスカウト運動の価値観とは何かを再認識し、チャンスと捉えて踏み出しましょう。

スカウト教育の最前線で携わる指導者の皆様、そして、スカウトが安全で安心した活動を裏方で支えてくださる団委員の皆様、これからもそれぞれの役割を務め、一人でも多くの子ども達がスカウト活動を経験できる環境づくりの推進に御理解と御協力をお願いいたします。

スカウトの皆さん、B－Pは私たちに「もっと広く見よ、もっと高く見よ、もっと遠くを見よ、そうすれば道が見いだせる」と物事の見方のヒントを残してくれました。

皆さんがこれから歩む道は、多くの困難が待ち構えていることでしょう。そのためにも、日頃から、様々な知識を蓄え、技術を身に付け、そして、スカウト精神を磨いていく事が重要となります。「ちかいとおきての実践」を通じて、真のスカウトであり続けてください。

社会から必要とされるスカウトを教育する信念を持ち続け、Scouting Never Stops! の合言葉のもと、より良い世界を創るために、いつの日も歩みを止めることなく、これからも前へ進んでいきましょう。

## お祝いの言葉

川崎市長 福田 紀彦



三指 日本ボーイスカウト川崎地区協議会の創立70周年を心からお祝い申し上げます。また、日頃から、本市の青少年行政にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。そして、なによりも子どもたちが「幸福な人生」を送れるようにと、奉仕の精神により情熱を注いでこられた川崎地区の先人たち、今まさに関わっていただいている全ての皆様に敬意を表するしだいです。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会や生活に大きな影響を与えました。野外を教場として活動してきたボーイスカウトも例外ではなかったと思います。このような状況にあっても、子どもたちのためにと、オンラインでの集会など様々な工夫を凝らして活動を止めない努力をされてきた指導者の皆様に重ねて敬意を表させていただきます。

私も中学生まで川崎第43団に所属していました。今も続いていると伺っている白梅隊に中学2年生の時に参加しましたが、その時の辛くも楽しい思い出は、今でも心に残っています。その後、父の仕事の関係で渡米し、アメリカでもスカウティングを続けてきました。このボーイスカウト活動を通じて、どんな困難な課題にも諦めずに仲間と共に挑戦することの楽しさ、地域社会に積極的に関わり奉仕することの素晴らしさなど多くのことを学びました。これらの学びとボーイスカウトを通じて得ることができた多くの仲間との出会いは、私の生き方に大きく影響を与えたと思っています。

来年には、ボーイスカウト日本連盟が創立100周年を迎え、その記念行事の1つとして、第18回日本スカウトジャンボリーが開催されると伺っています。新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで1つの会場に全国のスカウトが集まっていたジャンボリーが、全国6会場での分散開催となったとのこと。その内の1つが川崎の東扇島東公園を会場として開催されることは、川崎でスカウティングを続けてきた一人として、とても嬉しく思っています。大会の成功を心より願っております。

結びに、これからも、一人ひとりの青少年の幸せのためにご尽力いただくことをお願いさせていただきまして、創立70周年にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。

弥栄

## 創立 70 周年を祝して

日本ボーイスカウト神奈川連盟  
理事長 藤本 欣司



川崎地区協議会が創立70周年を迎えられましたことに心からのお慶びを申し上げます。70年の昔、ボーイスカウト運動への熱い思いで川崎の地に創立され、以来多くの青少年を育成し、社会に輩出してこられました。貴協議会を運営してこられました先輩諸兄、そして支援してこられました育成諸団体、行政などの皆さまに心より感謝と敬意を表します。

貴協議会は神奈川連盟の発足直後に創設され、常に神奈川連盟運営の基軸を担ってこられました。これは川崎市を豊かな地盤として、他から見てもうらやましく映る団結力と、計画性をもった運営の成果と拝察いたしております。特に、貴協議会がその力を発揮して推進されました団の再編は、その後の加盟員増加の傾向につながるものとなりました。改革の成功事例として今後とも地区や県連盟の施策モデルになるものと存じます。

2022年8月に予定されます第18回日本スカウトジャンボリーは、コロナ禍の影響を受け全国での分散開催となりました。神奈川連盟では川崎市の多大なご理解を得て、約1,000名の参加者を予定するサテライト会場を川崎市東扇島東公園で計画させていただいています。川崎市のご支援を得られましたのも貴協議会が行政との信頼関係を永年にわたり築いてこられたおかげであり、これに感謝し大会を成功させるべく努力してまいります。

世界は今、持続の可能性を問われる厳しい状況ですが、社会の変革を先頭に立って訴えるのは多くの若者です。私どもの運動は教育の多様化や少子化の影響を免れませんが、青少年を取り巻くこのような環境だからこそ実体験を基本とするボーイスカウト教育は社会の大きな期待を集めています。

今後とも次世代の人を作るこの運動をご指導いただけますよう貴協議会のますますのご発展をお祈りいたします。

## 川崎地区創立 70 周年を祝して

日本ボーイスカウト神奈川連盟  
県連盟コミッショナー 清水 裕



ボーイスカウト神奈川連盟川崎地区が創立70周年を迎えられたことを、衷心よりお慶び申し上げます。

川崎地区では、戦後間もなくボーイスカウトが再建されて神奈川連盟が結成された昭和25年、川崎市中原区木月の現新日本学園に川崎第1隊が発隊され、その翌年昭和26年11月に川崎地区委員会が結成されたことに始まるとお聞きしています。この年、昭和26年の前半では5こ隊が発団していましたが、11月地区委員会結成時には8こ隊、翌年昭和27年4月末には12こ隊に増加していたといえますから、まだまだ物資も不足し、生活も不自由な状態であったボーイスカウト黎明期の素晴らしい活力を感じます。初代地区委員長であった小清水黄二氏や地区コミッショナーの柏倉秀和氏をはじめとしてこの時代を築いたスカウト関係者の皆さまや青少年教育関係者の皆さまには心から敬意を表します。

もう少し歴史を振り返ってみれば、昭和33年に規約が改定され、「川崎地区協議会」が組織され、地区委員長であった小清水黄二氏が初代地区協議会長に就任されました。小清水黄二氏は、川崎市議会議員として、川崎市青少年補導連盟（現川崎市青少年育成連盟）副理事長からボーイスカウト運動に携わり、神奈川連盟理事長（後に連盟長）の要職を務められ、同じ頃に神奈川連盟理事長・副連盟長を務められた鈴木一夫氏とともに、昭和30年代の草創期のボーイスカウト神奈川連盟を名実ともに創り上げられた方々であります。

爾来川崎地区は、先人の意思を引き継がれた地区役員の皆さまに導かれて数々の素晴らしい指導者を輩出され、以て地域の皆様からの厚い信頼を勝ち得て、たくさんの優秀なスカウト・指導者を育てられた功績は誠に偉大であります。

昨今青少年を取り巻く環境は大きく変化し、少子化・情報化社会の進行、いじめや不登校の急増、生活習慣や家庭環境の悪化など、抱える問題が益々増大しています。このような状況にあって、川崎地区のボーイスカウト運動は地域奉仕活動や野外活動などの体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性と自立性、社会性を育み、異年齢の子供たちに仲間作りの場を提供し、また昭和60年から始まったボルチモア市スカウトとの国際交流活動など幅広く多様に富んだ活動を行っており、その役割はますます大きなものとなっております。

この70周年を機に、川崎地区委員長北條賢一氏をはじめ、境紳隆地区協議会長（県連副理事長）や北村岳人地区コミッショナー、森本正則事務長などのご指導のもと、木村耕三県連盟監事、濱田雅弘副理事長などの県連役員の皆さまの強いご支援によって、川崎地区のスカウト・指導者の皆さまがますますのご発展を遂げることができるよう、心からお祈り申しあげ、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。



## 日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎地区協議会 創立 70 周年に寄せて

川崎市子ども会連盟

連盟長 小笠原 茂春

ボーイスカウト川崎地区協議会創立70周年おめでとうございます、友好団体として心からお祝い申し上げます。

この70年間貴協議会の充実した運営と活発な活動振興にご尽力された、歴代の会長はじめ役員の方々各団関係皆様のご功労に改めて、川崎市子ども会連盟として、深く敬意を表し感謝を申し上げます。

特に現在の4団体加盟の川崎市青少年育成連盟の活動推進には、積極的な関りで友好団体が共に継続発展された事に大変大きく貢献され、今日の連携活動と輝かしい川崎地区協議会の取組みと実績があります。

この間、国際交流事業の推進目標を「世界の仲間とともに」を掲げて、川崎市姉妹都市であるボルチモア市にスカウト派遣事業で文化交流や現地生活体験も含め親善活動等に努められて、多くのスカウトや指導者が永年に亘り貴重な体験が実践活動の推進に繋がっている活動成果となっております。

今後も野外活動を基本に、青少年の自主性や社会性を高め、創造性や活力を培う体験活動を小グループの組、班等改革促進で繋がる活動が大切です。

2021年11月現在もコロナ禍が終息していませんが、今回70周年事業として「つながる・つなげる・今までもこれからも」テーマで再開活動の振興に期待されます。

今日の厳しい事変状況ですが、共に友好団体として活力のある活動推進を願って、お祝いの挨拶と致します。



## 70 周年記念を祝して 国際交流先駆者に感謝

川崎海洋少年団

団長 福田 武雄

ボーイスカウト川崎地区協議会が、70周年を迎えたことを、お慶び申し上げます。



川崎市の姉妹都市である、1979年6月14日に締結した、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市との、青少年育成連盟国際交流事業のパイオニアとして、2015年10月に交流事業が30周年迎えられ、誠に喜ばしい限りです。

社会情勢がグローバル化されていく時代の中で、未来を担う青少年の国際化は、貴協議会にとり重要な役割であり、青少年健全育成推進に貢献することが大切です。

コロナ過で社会情勢が不透明ですが、収束しましたら70周年を機に、貴協議会でのますますの国際交流事業が発展することを祈念して、お祝いのことばとします。

## 日本ボーイスカウト川崎地区協議会 70周年をお祝いして

ガールスカウト川崎市連絡会

会長 坂本 理恵子

日本ボーイスカウト川崎地区協議会が70周年を迎えられたこと、心からお祝いをいたします。

結成以来70年という長い年月にわたり、青少年の健全育成にご尽力された歴代の役員の方々、各団の指導者をはじめ関係者の皆様に対し深く敬意を表したいと思います。

私どもガールスカウト川崎市連絡会も1962年に川崎市青少年育成連盟に加盟してから共に活動させていただいておりますことを嬉しく思います。その中で、お互いの活動を理解し、協力していく青少年を見ていると頼もしくもあります。

さまざまに変動し、多様性を重視するこの時代に育つ青少年にとって、学校教育だけではなく、地域に根付き、また多彩な体験活動を行うスカウト活動は大変意義のあるものだと考えています。そのような活動を通して、ボーイスカウトの目的である「より良き社会人の育成」は成り立っていくものだと思います。また、さまざまな年代が活躍している中で、希薄になりつつある人間同志の繋がりを大切に、社会情勢に柔軟かつ的確に対応し、ご指導なされている皆様にも敬意を表します。それと同時にこれからも笑顔溢れ、わくわくする活発なスカウト活動を期待しております。

これからの日本ボーイスカウト川崎地区協議会の益々のご発展と会員の皆様のご健康とご多幸を祈念してお祝いのことばといたします。



## 創立70周年を祝して

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会

会長 木村 耕三

日本ボーイスカウト川崎地区協議会創立70周年おめでとうございます。

衷心よりお慶び申し上げます。

川崎地区は昭和26年（1951年）に結成され、この度目出度く70周年を迎えられました。

創立60周年を祝った後の10年間はボーイスカウト運動を取り巻く環境は大きく変化しました。川崎地区においても例外でなく、10年前の団数が10個団減少し11個団になり、登録人数も350名ほど減少し950名になりました。しかしながら川崎地区は、スカウト活動を充実するためボーイスカウトの基本である「進歩制度」「班活動」「野外活動」の観点から団の再編成を実行されました。その後も組織拡張、スカウトの進歩の促進、地区行事の充実、国際交流の実行など充実した地区運営に邁進され、地区は復活しつつあると強く感じております。

申すまでもなくボーイスカウト活動は青少年教育活動であります。川崎市の少年・少女が一人多くでもこの素晴らしいボーイスカウト活動に参加し、将来の日本を背負う有望な人材の輩出を願って止みません。

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会は1985年に設立されました。設立の目的は川崎地区のスカウト活動に資するために財政支援を行うことであります。この設立の目的を心に刻み、川崎地区と手を携えて次の新しい時代に向けて我々賛助会もなお一層の努力を重ねていく所存でございます。

今後日本ボーイスカウト川崎地区協議会が益々発展されます様ご祈念申し上げますとともに、重ねて創立70周年をお祝い申し上げます。



## Congratulatory Address from Brandon M. Scott Mayor of City of Baltimore

ブランドン M. スコット ボルチモア市長 挨拶

November 1, 2021

Dear Friends:

On behalf of the citizens of Baltimore, it is my distinct pleasure to congratulate the Kawasaki District of the Scout Association of Japan on the occasion of their 70th anniversary.



For more than thirty years, the cities of Kawasaki and Baltimore have maintained strong cultural ties through our Sister City Program. I look forward to the continuing this incredibly valuable relationship. The Baltimore Area Council of the Boy Scouts of America and the Kawasaki District of the Scout Association of Japan deserve a great deal of credit for planning special trips between our two cities. I appreciate the dedication, energy, and vision of the many volunteers who are involved with these distinguished organizations.

These young people are our leaders of tomorrow. The future of our cities is on their shoulders. I admire their commitment to bettering themselves as they broaden their cultural and educational horizons and enter new worlds of discovery. I'd also like to acknowledge and thank the families who open their homes to these Scouts, both here and abroad, for their noteworthy contributions and warm hospitality.

Once again, congratulations to the Kawasaki District of the Scout Association of Japan for 70 years of outstanding service. I am proud to join you in celebrating this historic anniversary and wish our partnership many more years of success!

Sincerely,

Brandon M. Scott  
Mayor  
City of Baltimore

ブランドン M. スコット ボルチモア市長 挨拶

親愛なる友人のみなさまへ

ボルチモア市民を代表して、ボーイスカウト川崎地区協議会が70周年を迎えたことをお祝い申し上げます。

30年以上にわたり、川崎とボルチモアの都市は、姉妹都市プログラムを通じて強い文化的つながりを維持してきました。この信じられないほど貴重な関係がさらに続くことを楽しみにしています。

ボーイスカウト米国連盟のボルチモア地域評議会とボーイスカウト日本連盟の川崎地区協議会は、2つの都市間の特別な旅行を計画したことに対して多大な功績を認めるに値します。これらの著名な組織に携わっている多くのボランティアの献身、エネルギー、そしてビジョンに感謝します。

これらの若者たちは私たちの明日のリーダーです。私たちの都市の未来は彼らの肩にかかっています。彼らが文化的および教育的視野を広げ、新しい発見の世界に入るとき、彼らが自分自身を改善するという彼らのコミットメントを賞賛します。また、これらのスカウトに家庭を開いてくれた皆様と、国内外で注目し値する貢献と温かいおもてなしに感謝いたします。

ブランドン M. スコット  
ボルチモア市長





## Congratulatory Address from Kendrick J.E. Miller

Scout Executive & CEO, Baltimore Area Council, B.S.A.



November 1, 2021

On behalf of the Baltimore Area Council, Boy Scouts of America, it is my pleasure to extend congratulations on the 70th anniversary of the founding of the Kawasaki District of the Scout Association of Japan.

This Scouting exchange program between our associations continues to be a wealth of culture and life-long friendships through the brotherhood of Scouting.

The Baltimore Area Council is honored to be a part of the Sister City programs between Baltimore and Kawasaki. We look forward to many more years of this international Scouting partnership.

Sincerely  
Kenn Miller  
Scout Executive/CEO

ボーイスカウトアメリカ連盟・ボルチモア地域評議会を代表して、ボーイスカウト川崎地区協議会の創設70周年を祝福いたします。

私たちのこのスカウティング交換プログラムは、スカウティングの兄弟愛を通して、豊かな文化と生涯にわたる友情であり続けています。

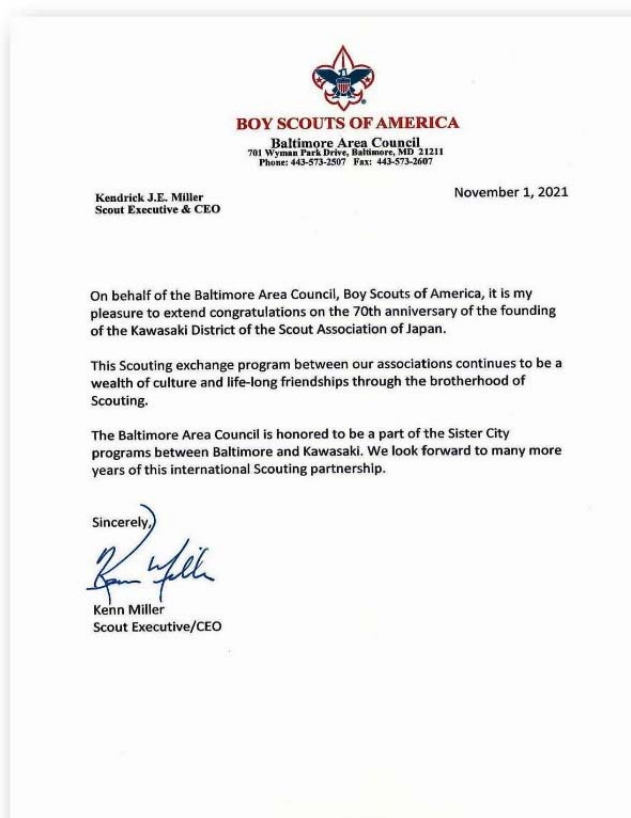
ボルチモア地域評議会は、ボルチモアと川崎の間の姉妹都市プログラムに参加できることを光栄に思います。

この国際的なスカウティングパートナーシップがさらに何年も続くことを楽しみにしています。

敬具

ケン・ミラー

Scout Executive & CEO  
BOY SCOUTS OF AMERICA  
Baltimore Area Council



**Congratulatory Address from Daniel E. Young**  
Crew 3776 Committee Chair, Baltimore Area Council, B.S.A.



Greetings,

It is with great pleasure that I extend Congratulations, on behalf of the current and past members of the Baltimore Kawasaki Delegation and Crew 3776, to the members of the Kawasaki District of the Scout Association of Japan.

Since 1985, scouts and their families from Kawasaki and Baltimore have shared unforgettable experiences through visits to each city.

The memories created by these exchanges are shared with others throughout these communities and serve to exemplify the ideals of the world scouting movement. It is the dedicated work and service of the many volunteers and professionals of the Kawasaki District over the past 70 years which have ensured that programs for the youth continue to develop the leaders of the future.

Congratulations on 70 years of scouting service. We look forward to many more years of working together.

Sincerely,

Daniel E. Young  
Crew 3776 Committee Chair  
Baltimore Area Council

ボルチモアカワサキ代表団とクルー3776の現在および過去のメンバーを代表して、ボーイスカウト川崎地区協議会のみなさまにお祝いの言葉を述べたいと思います。

1985年以来、川崎とボルチモアのスカウトとその家族は、各都市への訪問を通じて忘れられない経験を共有してきました。

これらの交流によって生み出された記憶は、これらのコミュニティ全体で他の人々と共有され、世界スカウト運動の理想を例示するのに役立つものです。

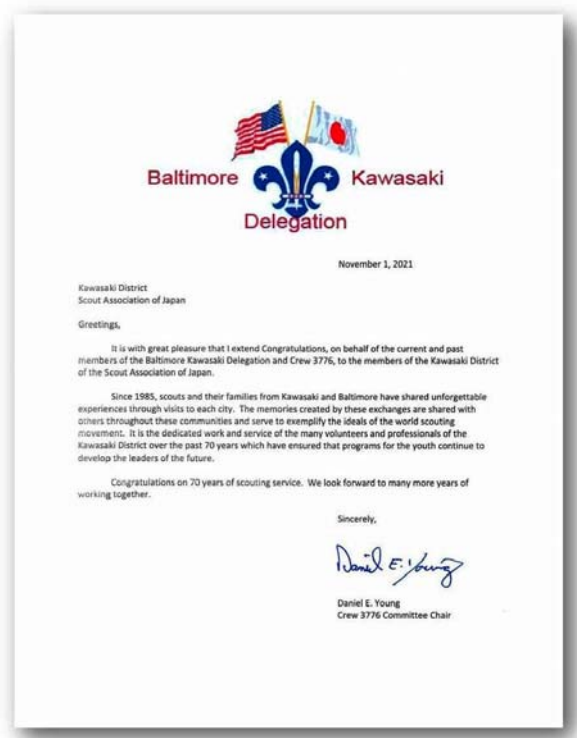
これは、過去70年間にわたる、川崎地区の多くのボランティアや専門家の献身的な仕事と奉仕の賜物で、若者向けのプログラムが将来のリーダーを育成し続けることができているものと思います。

70年間のスカウトサービスおめでとうございます。  
今後ともよろしくお願い申し上げます。

敬具

ダン・ヤング

Crew 3776 Committee Chair,  
Baltimore Area Council, B.S.A



# 川崎地区のあゆみ



# 川崎市・ボーイスカウトのあゆみ

## 1. 大日本少年団時代の活動

神奈川県ボーイスカウト運動に川崎市が登場するのは、昭和に入ってからである。↗

神奈川連盟 50 周年記念誌[神奈川連盟運動史] (2000 年発行)によると昭和 8 年から昭和 16 年にかけて大日本少年団連盟が解散するまでに加盟した団は次の通りである。

### (1) 大日本少年団登録

番号	登録日	団名	代表者	事務所所在地
1191	昭9.2	川崎市南幸町少年団	大塚 芳忠	川崎市南幸町1-1369
1511	昭12.6	川崎市塚越少年団	沼田 三之輔	川崎市塚越90
1581	昭12.12	大師禁酒少年団	青木 善市	川崎市中瀬町稻荷神社
1603	昭12.6	川崎市中幸町少年団	野口 梅吉	川崎市中奉町
1660	昭13.7	大師日之丸健児団	石井 新平	川崎市大師中町40
1730	昭14.3	鐵道前少年団	平野 道太郎	川崎市古川通24

### (2) 加盟登録者

・石井章夫氏

(前川崎第 44 団団委員長(地区相談役))は川崎市塚越少年団で、発団以来少年隊隊長を団が解散する昭和 16 年 10 月まで務めていた。

・山田利雄氏

(前副地区協議会長、神奈川連盟先達) 横浜愛国健児団に小学 5 年生で入隊以来、団員を経て隊指導とした活動した。

・渡邊 宗男氏

(前賛助会会長) 鶴見禁酒少年団に小学生で入隊して活動をした。

※禁酒少年団

昭和天皇が飲酒をしなかったため、それにならい全国で禁酒少年団が結成されたと言われている。県内では大師禁酒少年団の他に、鶴見、保土ヶ谷、茅ヶ崎に結成されていた。



川崎市塚越少年団(昭和13年)県連BS発展史より

## 2. 太平洋戦争終戦後の青少年活動

### (1) 子ども会のあゆみ

昭和 20 年(1945)4 月 15 日夜の大空襲により川崎駅周辺の中心部は焼払われ工場地帯は甚大な被害を受けていた。空襲で家を焼かれた子供たち、強制疎開先から帰郷した子供たちにとっては、寝起きする家があったわけではない。このような状況下で青少年の非行化、不良化、戦災孤児の存在など青少年の問題は重要な課題となり、戦後いち早く昭和 21 年(1946)10 月 4 日川崎市補導連盟が設立された。地域に



において不良化防止に立ち上がったのが教育関係者、成人ボランティアであった。これら有志によるボランティア活動はやがて組織化され、全市的な子ども会組織へと拡大されて、昭和24年(1949)川崎市連合子ども会が発足(3年後に川崎市子ども会連盟・理事長小清水黄二に改組した)市内に350余りの組織が子ども会と称して活動をしていて組織の実力としては全国に冠たるものであったが、モデルとなる子ども会は30数団体に過ぎず不良化防止という面では効果的ではなく、子ども会活動のゆきづまりに連盟幹部は苦しんでいた。特に問題だったのは、中・高校生に対する考え方・施策が子ども会ではなされなかったことであった。

## (2) 神奈川連盟のあゆみ

終戦後、ボーイスカウト運動が駐留軍総司令部情報局(GHQ)から再建の承認を得て昭和22年5月1日、日本連盟が設置された。当初は東京・横浜にモデル隊を設けて教育活動を開始していたが、昭和24年2月10日に法人化されてボーイスカウト日本連盟が発足した。

規定により登録隊10隊以上になると県連盟が結成されることになり、神奈川県では準備会が活動を始めた。隊を結成するには指導者を養成するのが先決であり、昭和24年3月第1回指導者講習会が主任講師・山田利雄氏で行われた。横浜、横須賀の隊結成が早かったが駐留軍の基地があり理解があったためであり、昭和24年9月神奈川連盟が創立された。

## (3) 川崎地区のあゆみ

神奈川連盟の山田利雄氏は組織拡張にも目を向けていたが、川崎市にボーイスカウト隊が無いと教育委員会で調べると子ども会が活発に活動していることが分かった。

子ども会の代表者は高校(県立横浜第2中学校、現翠嵐高校))の先輩である小清水黄二氏であったため、子ども会指導者講習会場に向

いてボーイスカウト運動の紹介を行った。

小清水氏は「当時のこども会活動のゆきづまりに悩んでいた時にこの話は大変参考になりました。(中略)この時に当たって注入されたボーイスカウト精神は、旱天の慈雨に等しいものでありました。」(創立30周年記念誌)このことが契機となり川崎にボーイスカウトを誕生させる機運が高まっていった。従って川崎地区の始まりは「子ども会」が母体と言える。

## 3. 各隊(団)のあゆみ

当初は隊組織で運営されたが昭和33年度(1958)団組織に変更された。

### ・第1隊(新日本ボーイスカウト隊)

昭和22年(1947)当時、中原の児童養護施設[新日本学園]には、戦災孤児、浮浪児と言われた少年が200名近く収容されていて、駐留軍から様々な援助活動がなされていた中で、ボーイスカウト活動が提案された。(GHQにBS経験者が複数名いたため)島田武三隊長によると「通訳にアメリカのスカウトブックを抄訳してもらい“ちかい・おきて”や三指の礼も教えてもらったと思う。ユニフォームなどなく旧軍隊払い下げの白作業着をカーキ色に染めて、米軍よりのキャップをかぶっていた。」日本連盟の結成により昭和25年(1950)3月“新日本ボーイスカウト隊”から川崎第1隊に生まれ変わった。昭和31年8月軽井沢で開催された第1回日本ジャンボリーにも参加した。昭和25年(1950)3月9日発隊、昭和43年(1968)3月休団した。



新日本学園提供

## ・第2隊 (BS 中原隊)

太平洋戦争終戦後の、昭和21年(1941)中原小学校教員の米田正文先生が担任した男子組の生徒は暗く覇気がないため元気をつけようと休日に山歩きなど始めた。生徒が活き活きと活動する野外活動やキャンプが好評で永續させる機運が高まる中で、米田氏がボースカウトを知り、昭和25年4月神奈川連盟第4回指導者公認講習会を受講した。担任をしていた生徒の父親である、東京農業大学BS隊初代隊長の小林英男氏を育成会長に迎えて、昭和25年(1950)5月24日発隊した。自隊の活動以外に地区行事、県連行事に積極的に参加を続け日本ジャンボリーには第1回～第11回まで連続参加をしている。米田隊長は絵画の先生で、地区B-P祭で使用していたB-P肖像画は米田氏の作品であった。新丸子地区を中心に活動を長年続けていたがスカウト募集に苦勞して、平成26年(2014)3月休団。64年間の長きに亘った活動に幕を閉じた。



発団50周年記念式典（平成12年6月4日）

## ・第3隊

小清水黄二氏（川崎市子ども会連盟理事長）がボーイスカウト隊を発隊させるため、子ども会や町内会の協力を得て大島上町に誕生した。小清水黄二隊委員長、柏倉秀和隊長、昭和26年(1951)3月20日スカウト25名で発隊した。高校生だった吉澤和雄氏は横浜第10隊から移籍して上級班長で3隊の活動を支えた。発隊して間もない昭和26年8月蔵王山麓で開催さ

れた第3回野営訓練大会に参加した。川崎から全国大会に参加したのは初めてであり3隊（団）躍進の始まりでもあった。川崎地区生みの親である小清水黄二氏は初代川崎地区協議会長を始め神奈川連盟理事長も務められた。本業は接骨医院長だが川崎市議員でもあり、ボーイスカウト活動を川崎市の社会教育活動の中心に置かれた功績は大きい。第3団は川崎地区では勿論、神奈川連盟の中核となる人材を輩出し続けていた名門団だったが、平成26年(2014)3月、地区再編計画により川崎区内3ヶ団を統合して、新たに第56団を発団したため、第3団は発展的に休団となり新団に移行した。



第1回日本ジャンボリー(昭和31年)

## ・第4隊

橘小学校（高津区）へ赴任した金子実先生がボーイスカウトを始めようと生徒から12名のスカウトを集め自ら隊長を務め、昭和26年(1951)4月活動が開始された。当時の橘地区は自然が多く学校周辺でキャンプが出来て、スカウトが隣の5隊と同じクラスにいたため、合同のプログラムで活動することもあった。

地区行事などにも参加するなどして活動が活発になってきた、昭和29年(1954)3月金子実隊長が他校に異動になり後継者もいなかったため4年間の活動で休隊となった。



りす班キャンプ（時期不詳）



## ・第5隊

小清水黄二氏と共に子ども会活動が続いていた塩原三男氏（太陽幼稚園園長）が小清水氏より「新城地区にボーイスカウト隊を作って欲しい」との依頼で、隊委員長塩原三男氏、初代隊長赤羽理一氏を中心にして昭和26年(1951)7月4日発隊した。昭和34年(1959)7月フィリピンで開催された第10回世界ジャンボリーに小川芳郎、福島国洋、奥山正男3名のスカウトが派遣されたのが川崎地区から初の海外派遣であった。当時の海外派遣は厳しい選考試験があったが、それを突破し続けて第12,13,14回世界ジャンボリーにスカウトを派遣している。昭和27年(1952)に育成会長の知人である映画俳優児玉一男氏が隊委員長に就任して情熱を持ってボーイスカウト活動に取り組む地区役員としても活躍された。団 motto “どのような活動にも常にスマートであれ” は児玉団委員長の影響からか。第5団「若鮎隊」は第1回日本ジャンボリー参加時以来団の愛称で使われていて、地区野営大会等ではダイナミックな活動を展開して赤いネッカチーフが躍動していた。平成26年(2014)3月地区再編計画により隣接する第39団に統合した。



北アルプス・燕岳をバックに(S29,7)

## ・第6隊～10隊

日本鋼管(株)川崎製鉄所企業隊（現 JFE スチール東日本）詳細は企業団編を参照。

## ・第8隊

企業団第8団は昭和39年(1964)3月休団したが、隊長依田功氏が自身の住んでいる[日本鋼管上小田中社宅]（通称鋼管住宅）で居住者子弟を対象に第8隊少年隊を結成して活動を開始した。昭和42年に年少隊も発隊して活発に活動していたが、会社の規定により社宅在住10年間で転出する必要があるため居住者子弟は減



発団50周年記念(2013.8)CS隊

少していったため、昭和46年(1971)隣の第5団より沓掛頼庸氏が団委員長に就任して中原区上小田中、下小田中地区を中心に地域団として活動を続けた。総員40名前後の小規模団だったが指導者はスカウトOBが務め、育成会の協力もあり充実した活動を展開していた。平成27年度(2015)を最後に休団した。

## ・第11隊

第3隊が定員オーバーとなり昭和26年(1951)11月分封した。育成会長鈴木一夫氏、隊委員長、野田藤吉氏、隊長萩野正行氏、川崎区大島一丁目地区に2ヶ隊が誕生した。

育成会が資金を集めて30名編成の鼓笛隊を結成して、第3隊ブラスバンド隊と共に消防署の防火宣伝や子ども会行事、運動会等の行事に参加をして地域に貢献した。昭和30年(1955)休隊して第3隊に吸収された。

## ・第12隊

第3隊、第11隊の大島一丁目地区に隣接する渡田一丁目地区に昭和26年(1951)12月、隊委



員長村越源造氏（市会議員）、BS隊長寺本博氏（地区コミッショナー）にて誕生した。

町内会の支援を受けて一時は第3隊と並び称される活動を行っていたが、昭和35年(1960)休団した。

#### ・第13隊

青年会議所小沢資好氏より発意されて中原地区上丸子山王町で昭和27年(1952)5月発隊した。育成会長小沢資好氏、隊委員長小沢資好氏、隊長石原広己氏等、指導者4名、スカウト15名で活動を開始したが指導者の確保で難航して、昭和31年(1956)休隊した。

#### ・第14隊

川崎区南幸町2丁目の有力者篠原真作氏（前川崎地区協議会副会長）を中心に、育成会長杉野嘉男氏、隊委員長篠原真作氏、BS隊長天野春雄氏で昭和27年(1952)6月発隊した。

横浜第10隊（鶴見区）の分身と言われる程で隊員は殆ど10隊から移籍をした者が多かった。隊活動は指導者金沢氏が永年に亘り支えたが、昭和51年(1981)休団した。

#### ・第15隊

カトリック貝塚教会の信徒子弟を対象にした隊であり、隊委員長木村二郎氏、BS隊長遊佐庸一氏により昭和28年(1953)5月発団した。遊佐氏は神父でありカトリック精神を生かした指導方法でスカウト育成に熱心に当たっていた。遊佐神父の異動により指導者が不在になり昭和32年(1957)休隊した。

#### ・第16隊

清證寺（本門仏立宗・始祖日蓮）は川崎区貝塚にあり信徒の子弟のみで編成された隊である。隊委員長川村英雄氏、BS隊長菅井千三氏で昭和29年(1954)5月発隊した。

地区への参加は後任の高梨隊長が積極的に参加していたが昭和37年(1962)休団した。

昭和60年(1985)頃、地区役員に復活したいとの相談があったが、スカウト対象者が信徒子弟5～6名であったため断念した。

#### ・第17隊

小田・浅田町地区から第3団に所属していたスカウトを中心に隊委員長田中明氏、BS隊長柴山善和氏で昭和31年(1956)11月第3団より分封して発隊、昭和36年休団した。



川崎市発行「かわさきのあゆみ」(S61.3発行)  
浅田町2丁目中央通りをパレードする第17隊

#### ・第18隊～20隊

富士通信機製造(株)企業隊（現・富士通）  
詳細は企業団編を参照。

#### ・第21団

川崎大師平間寺を中心にした大師地区に、育成会長池上貞治氏（県議会議員）団委員長に子ども会連盟副理事長として活躍されていた杉山武氏、CS隊長杉山晃氏、によりCS隊員24名を以って昭和33年(1958)4月発団した。この年から日本連盟では従来隊単位の登録だったが規約改正されて団単位の登録に変わり、団の中にBS隊CS隊SS隊が入る団家族という現在の団構成になり、川崎地区では第21団が最初の団登録になった。昭和35年4月BS隊発隊を機会に団委員長に宮川病院宮川貞治院長を迎えて団活動も充実していった。宮川貞治氏は昭和42年度(1967)から6年間、地区協議会長を務められた。二代目育成会長に斉藤文夫氏

(県議会議員・参議院議員) が就任された。

発団当初から若宮八幡宮にお世話になり敷地内に団ハウスを持ち、埼玉県東松山市山林内に 3,000 m<sup>2</sup>の訓練道場を有して隊活動を支えていた。川崎大師との関りも深く“降誕会”(開祖誕生行事)を始め寺行事の手伝いなども奉仕活動の一環として行っていた。平成 26 年(2014)3 月地区再編計画により第 56 団に統合された。



若宮八幡宮祭礼への協力

#### ・第 22 団

昭和33年(1958)5月中原区新丸子地区にBS隊長佐川直道氏を中心に発団した。プログラム展開と活動は活発で評価も高かったが、団委員会と意見の相違があり昭和43年(1968)休団となった。

昭和54年(1979)夏頃に中原カトリック教会司祭エリック・タンペ神父(アメリカ・イーグルスカウト)より「BS隊を作って欲しい」との希望が出されて信徒会長明石憲章氏、信徒佐川直道氏等を中心に準備を進め休団中の第22団



初代カブ隊長福島氏と最初のカブスカウト

を復団することになった。昭和55年(1980)4月育成会長明石憲章氏、団委員長佐川直道氏、CS隊長福島晃氏により新生第22団が活動を開始した。信徒子弟を主に活動を進めたがスカウト募集のため枠を広げて、教会を活動拠点として活動する団となった。現在も活動中。

#### ・第 23 団

川崎区姥ヶ森子ども会にCS,BSが発足して第23団となり、団委員長小林福三氏、隊長青木芳夫氏で昭和33年(1958)7月発団した。後の隊長大橋進氏(地区役員)が中心となり地区行事にも積極的に参加をしていた。大橋進氏は白梅隊運営にも協力していたが、昭和37年(1962)年休団した。

#### ・第 24 団

川崎市子ども会連盟殿町協議会(大師地区)が主体になりCS隊が結成されて、団委員長石井竜雄氏(川子連事務局長)隊長辺見久吉氏(子ども会会長)を迎え昭和33年(1958)10月発団した。昭和37年(1962)年3月休団した。

#### ・第 25 団

川崎区桜本地区の町内会が主体になり結成されて団委員長鈴木精氏(町内会長)、隊長村田信次氏で昭和34年4月発団した。桜本地区は青少年にとって環境の最悪地域であり、防犯対策としてBS運動を取り入れて発足した団だった。鈴木、村田氏等の努力によってスカウトの活動効果があり、悪環境が好転しスカウトを中心とした町作りにまで発展したと言われている。目覚ましい活動を展開していたが昭和38年(1963)3月休団した。

#### ・第 26 団

幸区古川地区にBS隊を発隊させるため、横浜第10団から移籍の馬場邦一氏を中心に6名が中原区新城の第5団で訓練を続けて5団から分封の形を取り、団委員長吉田尚弘氏、BS隊

長狩俣忠氏により昭和 35 年(1960)4 月指導者 4 名、スカウト 17 名で発団した。団関係者の協力を得て昭和 39 年(1964)CS 隊、昭和 43 年(1968)SS 隊、昭和 50 年(1975)RS 隊をそれぞれ発隊した。二代目団委員長馬場義三郎氏は家族中で BS 活動に取組み団隆盛期を作られた。昭和 46 年度(1971)に富士スカウトが誕生している。現在も活動中。

#### ・第 27 団、第 28 団

(株)三豊製作所(現ミットヨ)溝の口工場企業団、詳細は企業団編を参照。

#### ・第 29 団

川崎市役所前の宮前町地区に団委員長緒方虎雄氏、CS 隊長久保内三郎氏、BS 隊長長谷川雅秀氏で、昭和 35 年(1960)10 月発隊した。宮前町商店街の子弟が多く入団していた。昭和 51 年(1976)休団した。

#### ・第 30 団

川崎区大島地区町内会有志により「向小学校」学区内を中心に結成されて、団委員長小番佐助氏、BS 隊長山岸梅茂氏により昭和 35 年(1960)12 月発隊した。二代目団委員長小野太郎氏が元気一杯な方で団全体をリードしていた。地区行事や日本ジャンボリー、ボルチモア市スカウト交流派遣等少数精鋭団だが活動を積極的に展開して平成 22 年(2010)発団 50 周年を迎えて市立向小学校で記念式を行った。平成 26 年(2014)3 月地区再編計画により第 56 団に統合された。

#### ・第 31 団

日本電気(株)玉川工場、(現 N E C) 企業団。  
詳細は企業団編を参照。

#### ・第 32 団

川崎区大師東門前町地区に団委員長和田文男氏、CS 隊長藤井信光氏により昭和 36 年

(1961)12 月発団した。活動内容など詳細は不明だが、昭和 42 年(1967)休団した。

#### ・第 33 団

地区内のローバースカウトが合同で活動をする目的で RS (団) 隊を結成して、団委員長小林英男氏(地区副協議会長) RS 隊長柏倉秀和氏(地区委員長)で昭和 36 年(1961)発団した。当時では珍しい濃緑のユニフォームを揃えて活動を開始したが運営が難しかったためか発団して間もなく解散して、昭和 38 年(1963)3 月休団した。

#### ・第 34 団

日本オレフィン化学(株)(昭和電工関連会社)川崎工場企業団。詳細は企業団編を参照。

#### ・第 35 団

川崎区宮前町地区に団委員長楠原守氏、BS 隊長長谷川雅秀氏、SS 隊長伊藤昭之氏で昭和 38 年(1963)9 月発団した。発団には楠原団委員長の強い思いがあったと聞いている。第 29 団と同じ地域にあり関係があったと思われるが活動内容は不明である。昭和 42 年度(1967)で休団した。

#### ・第 36 団

中原区西丸子地区に BS 隊が欲しいとの父母の熱意が実り、団委員長近藤俊明氏、BS 隊長鈴木良雄氏により昭和 39 年(1964)4 月発団した。育成会員が積極的に協力していて会員が



カブ隊ハイキング



持っている特技を活かして隊活動を支援することもあった。指導者不足になり一時休団したが育成会員の努力で複団した。親子と一緒にスポーツ大会を実施したり、育成会員が提供している団で管理する農園の手入れ、収穫などもプログラムに取り入れたユニークな活動も展開した。昭和 54 年度には富士スカウトが誕生している。平成 8 年(1996)休団した。

#### ・第 37 団

幸区小向仲野町地区に団委員長山口譲氏、CS 隊長崎詰信友氏、BS 隊長星野陽一氏により昭和 40 年(1965)5 月発団した。活動内容は不明であるが、昭和 45 年(1970)休団した。

#### ・第 38 団

幸区加瀬地区に BS 隊を作るため、昭和 39 年(1964)1 月スカウト 4 名指導者 1 名で準備隊が活動を始めた。地元有志の協力を得て団委員長深瀬泰三氏、BS 隊長大谷重久氏により昭和 41 年(1966)4 月発団した。団委員秋山六郎氏(教育委員会社会教育課長)が発起人の一人でもあった。現在も活動中。

#### ・第 39 団

昭和 37 年(1962)頃「川崎市北部に BS 運動を広げよう」と長谷川雅秀氏(市教育委員会職員)山田利雄氏(県教育委員会職員、共に末長在住)が相談してスカウト 3 名、指導者 1 名で準備隊の活動を始めた。準備隊活動期間が長かったが末長町内会の協力を得て昭和 40 年(1965)10 月団委員長長谷川雅秀氏、CS 隊長橋本広茂氏、BS 隊長渡部公氏により発団した。昭和 45 年(1970)12 月長谷川団委員長の急逝により、山田利雄氏が二代目団委員長に就任して 31 年間務められた。現在は、団委員長以下各隊隊長をスカウト OB で運営している。育成会員の協力により末長に団ハウス、多摩川河畔に団キャンプ場を所有して、現在も活発に活動している。団設立目的の「川崎市北部に BS 運

動を広げる」では、昭和 42 年(1967)7 月第 42 団、昭和 44 年(1969)4 月第 43 団、昭和 49 年(1974)4 月第 47 団、が分封発団した。



発団 50 周年記念 平成 27.11.8

#### ・第 40 団

子ども会連盟小清水黄二連盟長と共に子ども会活動に携わっていた古尾谷盛太郎氏が地域の要請に答えて、中原区木月住吉地区に BS 隊を誕生させた。団委員長古尾谷盛太郎氏、CS 隊長藤岡栄氏、BS 隊長堀江康朗氏、CS 隊 20 名 BS 隊 20 名指導者 11 名で昭和 41 年(1966)6 月発団した。



発団式 昭和 41 年 6 月 2 日

活発な活動を行い 5 年後に SS 隊発隊、発団 10 年後に RS 隊も発隊した。同地区に姉妹団の GS40 団も発団して、昭和 46 年(1976)に誕生した。鼓隊では合同の活動を行うようになった。団として理想的な活動を展開して、発団 20 周年を記念して井田地区に第 55 団を分封した。団委員長を始め各隊リーダーも全員 40 団育ちのスカウト経験者で活動していたが、平成 26 年(2014)3 月地区再編計画により第 55 団と共に新たに第 57 団として新団に移行した。発展

的に第 40 団は 46 年間の活動に幕を下ろした  
ことになった。

#### ・第 41 団

川崎区浜町地区に団委員長石和田正氏、BS 隊長塚本敬治氏、により昭和 41 年(1966)11 月  
発団したが昭和 52 年(1977)休団した。

#### ・第 42 団

初代団委員長中村恒夫氏（川崎市役所職員）  
は、多摩区菅地区に BS 隊を作る意欲を持ち教育委員会職員長谷川雅秀氏に相談した。長谷川  
氏が団委員長を務めていた第 39 団で 6 ヶ月間  
程 BS 活動を体験した後、発団準備を進めて団  
委員長中村恒夫氏、CS 隊長向井和仁氏により  
昭和 42 年(1967)7 月発団した。中村団委員長  
の努力により第 42 団キャンプ場を山梨県長坂  
町に開設して夏期野舎営は団キャンプ場で実  
施出来ていた。国際交流にも力を入れ発団 10  
周年記念事業として昭和 51 年(1976)中華民国  
（台湾）を訪問、基隆市第 26 団と交流を実施  
して姉妹団締結を行った。この時「台北ジャン  
ボリー」には来賓として参加をした。



基隆 26 団姉妹団提携・昭和 51 年 3 月中華民国

その後数回台北を訪問している中で平成 2  
年(1990)には基隆市第 26 団スカウトが訪日し  
て交流を実施した。

スカウト教育にも熱心で富士スカウト 2 名  
を誕生させている。後に 2 名の富士スカウト  
が隊指導者、団運営者となり団活動の中心に  
なった。

小規模団で運営に苦勞して いたがスカウト  
減少により、平成 26 年(2014)3 月地区再編計  
画により平成 26 年(2014)3 月休団した。

#### ・第 43 団

昭和 41 年春頃、百合ヶ丘在住の並木浩氏は  
長男が第 39 団 CS 隊に入隊したことから BS 活  
動に興味を持ち、百合ヶ丘地区からスカウトを  
集めて第 39 団第 2 隊として活動して新団を作  
る準備を進めていた。昭和 43 年春に並木氏は  
転勤になったが、その後を引き継いだのが第二  
代団委員長の山口光雄氏である。父母の協力を得  
て、団委員長平川栄吉氏（多摩区在住）、CS 隊  
長山口光雄氏、BS 隊長篠崎正善氏（第 5 団よ  
り移籍）により昭和 44 年(1969)4 月発団した。  
当時この地区は住宅団地が建ち並び活気のある  
地域であり、子ども達も多く BS 活動には好  
条件が揃っていた。転入者ばかりで BS 活動は  
コミュニティ作りに最適であったため育成会  
を通じスカウト募集や活動資金作りで団の活  
動を側面から支えていた。



43団発団10周年記念パレード(1979/4/29)  
小田急線百合ヶ丘駅前

三田地区に昭和 47 年(1972)4 月第 46 団が分  
封した。現在も活発な活動を続けて令和 3 年度  
日本連盟の組織拡充顕彰《S ランク》（過去 3  
年間スカウト数 100 名、指導者数 40 名の設定値  
を上回っている）を受けている。隆盛の源は各  
隊のプログラム活動が充実しているのが最大  
の要因であると思うが、育成会の組織とは別に  
「よんさんゆりの会」の活動も大きい。平成 10  
年(1998)に結成されて、25 歳以上の OB スカウ

ト、途中退団した父母の有志で構成されて親睦を図る目的であるが物販等も行い団へ活動資金援助を行っている。令和3年度44名の会員が活動している。

#### ・第44団

幸区塚越地区に、育成会長沼田三之輔氏（元塚越少年団団長）団委員長市川嘉孝氏、CS 隊長成川誠氏、BS 隊長石井章夫氏、CS 隊 28 名、BS 隊 22 名により昭和 44 年(1969)4 月発団した。戦前の「塚越少年団」が復活した感もあった。隊活動以外に地域への奉仕活動も多く育成会員の応援も得て、祭礼時の交通整理、年末防火パトロール、新年かがり火奉仕等、地域に根ざした BS 活動と周囲からも評価されていた。スカウト 40 数名の少規模団になり後に団委員長を務めた石井章夫氏が孤軍奮闘して団を維持していた感があった。平成 26 年(2014)3 月地区再編計画により休団したが VS 隊員は第 39 団へ移籍した。

#### ・第45団

中原区上平間地区に第 26 団より分封して新団を結成した。団委員長伊藤恒助氏、CS 隊長宮本百子氏、BS 隊長渡辺博氏により昭和 45 年 3 月発団した。公営住宅が多く子供たちも多くスカウトも 70 名超になったこともあり各隊も活発な活動を展開していた。地域の高齢化が進み子ども達も少なくなりスカウト確保に苦労して少規模団になった。平成 26 年(2014)3 月休団した。

#### ・第46団

昭和46年初頭、新団を多摩区三田地区に作る準備を進めて谷純一氏等が第43団で第2隊として活動を開始した。昭和47年(1972)4月、団委員長古舘太郎氏、CS隊長津田喜典氏、BS隊谷純一氏によりCS隊35名、BS隊14名の第46団が発団した。育成会活動が非常に活発で団活動をしっかりサポートしている。現在も活動中。

#### ・第47団

第 39 団は昭和 47 年(1972)頃から登録人数が増え始めて CS、BS 共に 2 ケ隊となったため、49 年(1974)を目途に分封することになった。発展性のある高津区西北部を新団とし、東南部を第 39 団とした。第 47 団は団委員長後藤茂氏、CS 第 1 隊隊長高橋建治氏、CS 第 2 隊隊長近藤邦男氏、BS 隊長中馬宏氏により、昭和 49 年(1974)4 月発団した。人口増加地区で子ども達も多く活発な活動を展開した。昭和 57 年(1982)7 月宮前区が誕生して区主催行事にも協力して参加するようになった。後藤団委員長が急逝された後、後任団委員長、隊指導者、育成会も含めて意見の食い違いが生じたことを契機に団運営が行き詰まり、一部の指導者・スカウトは元の第 39 団に戻るグループ、新団（第 49 団）を結成して移籍をするグループも出たために平成 4 年度(1993)で休団した。

#### ・第48団

多摩区宿河原地区に第 42 団から分封して新団を結成した。団委員長金田幸之助氏、CS 隊長河合武夫氏により昭和 50 年(1975)4 月発団した。多摩川河川敷に集会場、キャンプ場を持ち、ここを拠点にして多彩な活動を展開していた。年を追うことにスカウトも増加して、BS 隊、SS 隊、RS 隊が順次発隊をして進級スカウトの受入れ体制も整ってきて、地区行事、日本ジャンボリーにも積極的に参加をするようになった。平成 26 年(2014)3 月地区再編計画により隣駅の第 46 団に統合された。

#### ・第49団

第 47 団から分封して昭和 50 年(1975)8 月団委員長倉又良行氏、BS 隊長高橋建治氏により第 49 団が発団した。宮前平・有馬地区を中心にして活動を開始した。住宅開発が盛んに行われて人口が増えたため高津区より分区して昭和 57 年(1982)7 月宮前区が誕生した。区主



催事業にも積極的に参加して活発な活動を展開して現在に至っている。

#### ・第 50 団

川崎区市役所傍の稲毛神社内にボーイスカウトが誕生した。団委員長市川緋佐麿氏、CS隊長福田富重氏により昭和53年(1978)1月発団した。神社の祭礼、七五三参拝者の駐車場交通整理、年末大掃除等、神社直属隊の奉仕活動もある中でそれぞれの隊がプログラムを持って活動を行っていたが、平成3年(1991)休団した。

#### ・第 51 団

聖マリアンナ医科大学第一  
外科学教室内の医科学生を中心  
にローバー隊が誕生した。  
育成会長矢後長純氏(第 46 団  
関係者)団委員長得平卓彦氏、  
RS 隊長村上正之氏、指導者 3



名、スカウト 16 名を以って昭和 53 年(1978)12 月発団した。医科学生ため年長者や女性隊員で構成されていた。隊プログラムの活動以外に地区健康安全委員会に所属してもらい、地区行事の救護室開設、日赤救急法講習会講師、少年救急安全講習会などの他にボルチモア市交流派遣隊にも同行して派遣隊員の健康管理をお願いするなど多大な貢献をしてくれた。派遣隊でお世話になった「有福孝徳医師」には第 51 団を離れてからも、来日したボルチモア市スカウト・川崎の派遣隊スカウトの健康診断・健康管理等をボランティアで終生携わっていただいた。

矢後先生、得平先生の異動により活動が低調になり平成 2 年(1990)休団した。

#### ・第 52 団

多摩区登戸地区に第 48 団より分封して、団委員長村上善四朗、CS 隊長小原厚氏、BS 隊長清水賢三氏、SS 隊長佐々木昇氏により昭和 54 年(1979)6 月発団した。分封したため発団当初

から活発に活動を展開出来て、発団当初向ヶ丘遊園に隣接した山腹に約 2,000 坪(私有地)の集会場を確保して活動地としていた。6 年後にこの地を離れて「市立生田緑地」で活動するようになった。団シンボルマークは「ログホーン」(角長牛)で「牛は馬のように速く走れないが、ゆっくり歩けば遠くへ行ける」を合言葉に、あせらずゆっくり長くスカウト活動が続けることを目指していたが、平成 8 年度(1996)を最後に休団した。

#### ・第 53 団

第 43 団は昭和 44 年(1969)発団以来、順調に活動を続けスカウト入隊希望者が多くなり入隊を希望しても中々入れない状態になった。発団 10 周年記念事業として柿生地区に新団を分封することになり昭和 53 年(1978)3 月 CS 隊、BS 隊各 2 隊を発足して準備に入り、団委員長永見次男氏(第 43 団兼務)、CS 隊長村田和男氏、BS 隊長須佐一美氏により昭和 55 年(1980)11 月柿生小学校で発団式を行った。関口靖邦氏(前団委員長)の土地を提供していただき昭和 59 年(1984)敷地 300 坪の広場に 28 坪プレハブ作りのスカウトハウスが完成した。活動拠点を心得て各隊のプログラムが充実して現在も活動を継続している。

#### ・第 54 団

宮前区平地区に昭和 60 年(1985)10 月団委員長貝塚義勝氏、CS 隊長山田光男氏、BS 隊長大塚清氏、総員 34 名で発団した。人口増加地区であったことや、二代目木村耕三団委員長の努力により徐々にスカウトが増えて発団 15 年後の平成 12 年(2000)には倍増の総員 71 名になった。団・育成会が協力して組織拡張に努めて、平成 23 年度(2011)スカウトのみで 100 名を超えて現在も増え続けている。令和 3 年度(2021)日本連盟組織拡充顕彰では“S”ランク(過去 3 年間、連続してスカウト数 100 名以上、指導者数 40 名以上の設定値を上回ってい



る)を獲得した。拡大の最大要因はスカウトの母親による口コミによる勧誘が最大の効果があり、このために各隊別に保護者会を(年間4回)開催して情報交換を行っている。

保護者会により指導者も鍛えられ一石二鳥の効果を得ている。CS 隊の活動として「ハンドベル演奏」があり、平成12年(2000)8月八ヶ岳で開催の「地区創立50周年記念キャンボリー」で見事な演奏を披露して以来、現在は近隣の福祉施設で定期演奏会を続ける奉仕活動を行っている。

### ・第55団

中原区住吉地区を中心に活動を展開していた第40団の人数が増えて来たため、発団20周年記念事業として新たに井田地区に新団を分封することになった。

昭和60年(1985)6月、団委員長 長瀬政義氏、CS隊長 町田良治氏、BS隊長 曾山仁之、スカウ

トCS隊11名、BS隊8名、指導者7名を以って長寿保育園で発団式を行った。昭和63年(1988)にBVS隊も誕生してからスカウトも増え始め発団10周年記念日にはスカウトのみで70名を超えるまでになった。

長寿保育園(園長:長瀬団委員長夫人)という恵まれた拠点に充実した活動を展開していた。

団行事では毎年1月に育成会員の協力を得て「新年餅つき大会」が恒例になっている。

住吉桜まつり、中原区民祭には毎年奉仕を続けている。団委員長長瀬政義氏は川崎市議会議員であり、ボルチモア市スカウト来川時等で市役所側との交渉のバックアップをしていただいたり、自身もボルチモア市訪問議員団の一員として渡米されていた。

平成26年(2014)7月、地区再編計画により親団の第40団と共に第57団を結成して新団に移籍した。

(文 渡部 公)

---

・情報提供者 吉澤和雄氏(第3団) 百木幹雄氏(第5団)

### ・参考資料:

[多摩川30年のあゆみ] 川崎地区30周年記念誌

[川崎市青少年団体30年のあゆみ] 川崎市青少年育成連盟

[あしあと] 岩崎貞氏

[はばたけスカウト新世紀] 川崎地区50周年記念誌

[川崎市社会教育50年史] 川崎市教育委員会

[少年の家から青少年の家へ] 川崎市青少年の家発祥50周年・改築10周年記念誌

[写真集・かわさきのあゆみ] 川崎市

[神奈川のボーイスカウト発展史] 日本ボーイスカウト神奈川連盟

[日本ボーイスカウト神奈川連盟運動史](50周年記念誌) 日本ボーイスカウト神奈川連盟

## 川崎地区で活動した企業（職域）隊

### 1. 企業がボーイスカウト運動を導入した背景

太平洋戦争終結後復興に向けて日本経済は動き始めたが、おりしも昭和25年(1950)6月朝鮮戦争が勃発したことにより、在日米軍による大量の物資調達が始まり、これを契機に経済活動が活発になり好景気がもたらされた。製造業では人手不足を補うため地方から若年労働者を大量に採用するようになってきた。日本鋼管川崎製鉄所には18歳以下の若年労働者が300名以上働いていて「養成工」として、中堅工となるべく高校と同等の3年間の教育を受けさせて、高校卒業資格者と扱っていた。「社会悪がもたらす影響や無秩序な生活から彼らを守ることが必要と考えて、日常生活の健全化、不良化防止、良き社会人、良き企業人を育て上げていく目的からボーイスカウト運動を取り上げた。」(斉藤平六先生談) 鋼管隊誕生に至るまでには小清水黄二地区委員長の働きかけもあり、後に訓練講師として第3隊柏倉秀和、堀川竹治氏が参加している。

昭和30年(1950)代に入ると高度経済成長期を迎え、どの企業も人手不足になり若年労働者が地方から都市部へ大規模な集団就職が盛んになり「集団就職列車」が運行され「金の卵」などともはやされたのもこの時代である。採用した企業は、社員教育・福利厚生に力を入れ退職者を出さないように努めていた。彼らは「独身寮」で生活していたために生活指導の必要から、日本鋼管のボーイスカウト運動導入の成功例を見て他企業も導入していった。

また行政として川崎市教育委員会は勤労青少年の社会生活向上を目指し、職場、社会との連携協力を目的に市内企業の社員教育を支援していた。教育の一環として職場レクリエーションリーダー養成、野外活動指導者養成講習会、勤労青少年キャンプ等を進めていてボーイスカウト指導者が手伝いで参加していたことから企業関係者が関心を持つ動機づけにもなっていた。

多摩川を挟んだ大田区下丸子、キャノン(株)下丸子工場では女子社員のガールスカウト隊が発隊したのが週刊誌に紹介された時代でもあった。

企業名	隊・団号	初期登録	隊種	終年	補足
日本鋼管(株)(NKK)川崎製鉄所					現JFEスチール東日本(株)
	川崎第6隊	S26(1951)/9	年長隊(VS)	S39(1964)/3	
	川崎第7隊	S26(1951)/9	年長隊(VS)	S40(1965)/3	
	川崎第8隊	S26(1951)/9	年長隊(VS)	S39(1964)/3	後に「鋼管寮」社員子弟対象の少年隊で継続
	川崎第9隊	S26(1951)/12	年長隊(VS)	S39(1964)/3	プラスバンド隊(全員)
	川崎第10隊	S26(1951)/12	青年隊(RS)	S39(1964)/3	
富士通信機製造(株)					現 富士通(株)
	川崎第18隊	S32(1957)/4	年長隊(VS)	S54(1979)/3	
	川崎第19団	S33(1958)/6	年長隊(VS)	S50(1975)/3	
	川崎第20団	S33(1958)/6	青年隊(RS)	S36(1961)/3	
(株)三豊製作所溝の口工場					現(株)ミットヨ
	川崎第27団	S35(1960)/9	年長隊(VS)	H9(1997)/3	
	川崎第28団	S35(1960)/9	年長隊(VS)	S37(1962)/3	
日本電気(株)玉川工場					現 NEC
	川崎第31団	S35(1960)/9	年長隊(VS)	S52(1977)/3	
日本オレフィン化学(株)					
	川崎第34団	S38(1963)/3	青年隊(RS)	S49(1974)/3	S41(1966)活動開始

### 3. 企業隊の活動

#### (1) 日本鋼管(株)川崎製鉄所 第6隊～10隊

養成工として3年間教育を受ける中で入社1年目は、ボーイスカウト活動が必修になっていた。地域の隊は少年隊活動が主流の中で「鋼管隊」(地区内の総称)は年長隊・青年隊であり非常に訓練されていて地区行事は「鋼管隊」が中心に実施されていた時期があった。



ブラスバンド隊

第9隊はブラスバンド部で社内行事の参加は勿論、昭和34年(1959)8月滋賀県饗庭で開催された第2回日本ジャンボリー大行進では、台風6号による大雨の中を先頭で演奏しながら整然と行進した姿は、今も参加者の脳裏に残っている。昭和40年福山工場(広島県)創業により主力指導者が異動になったことや「養成工制度」の廃止に伴いボーイスカウト活動も幕を閉じた。しかしながら第8団は会社から離れて地域団として活動を続けた。

#### (2) 富士通信機製造(株)川崎工場 (現・富士通(株)) 第18隊～20隊

企業隊では珍しく厚生課主管で社内部活動に位置づけられていた。中原警察署交通課の指導を受けて「交通指導員」の資格を取り、毎朝「武蔵中原駅」から「会社正門前」まで出勤す

る社員を手信号による交通整理を行っていた。昭和33年(1958)10月から歩道橋が出来るまで5年間に亘り続けられた。



武蔵中原駅前での交通整理

社内行事の支援や、第3回日本ジャンボリー、東京オリンピック、川崎地区創立20周年記念沖縄親善キャンプ、第13回世界ジャンボリー等、地区活動の主力として参加を続けた。

#### (3) (株)三豊製作所溝の口工場 第27団・第28団

社長がボーイスカウト運動の理解者であり、栃木県宇都宮工場内で発団したのを皮切りに、本社(東京都港区)、溝の口工場、広島工場と順次団を誕生させた。溝の口工場には前日本連盟職員を迎え入れ専任指導者として各工場の活動支援にあたらせていた。新入社員教育にボーイスカウト活動を導入したり、社内行事に参加することが多かったが、地区行事にもよく参加をしていた。



第6回「三豊ジャンボリー」昭和59年9月22～24

各工場の隊員を集めて「三豊ジャンボリー」を開催したこともあった。宇都宮工場団は地域

でも活発に活動して栃木県連盟の有力団であった。溝の口工場団は会社の都合で昭和 53 年(1978)休団したが 5 年後の昭和 58 年(1983)復活した。

#### **(4) 日本電気(株)玉川工場 (現 NEC)**

##### **第 31 団**

1 ケ隊だけの活動だったが、社員が出勤時 JR「向河原」駅の踏切を渡るため、毎朝ボーイスカウトが制服姿で交通整理を続けていたのが見受けられた。指導者は地区活動に積極的に参加をしていて、指導者養成委員会、野営行事委員会、地区コミッショナー等で活躍していた。

#### **(5) 日本オレフィン化学 (株)**

##### **第 34 団**

昭和電工(株)系列会社であり川崎工場内で発足した。第 3 団指導者だった吉沢和雄氏の勤務先であり、未経験社員に「少年の家」など利用しながら基礎から訓練を行った。徐々にレベルを上げて BS1 級移動キャンプ、1 週間移動キャンプ等ダイナミックな活動を行った。当時参加していた者は「活動はとても楽しかった」との感想もあったが、会社の都合で隊員確保が難しくなり休団した。指導者・隊員は、地域団指導者やレクリエーション協会のリーダーとして活動を続けた。



丹沢湖畔にて訓練

## **4. 企業隊の活動休止、その後**

それぞれの企業により理由はあるようだが、概ね会社の方針により活動を縮小したり、人事異動により主力指導者が不在になり活動休止になるケースが見られた。

日本鋼管の場合は、昭和 39 年頃に「養成工制度」が廃止されて、それに伴い「鋼管隊」も姿を消していった。川崎地区の各種委員会では主力が企業隊指導者だったこともあり、企業団から地域団へ移籍をして活動を継続した者も多かった。第 8 隊(団)は工場内の隊が休隊後、中原区新城にある「日本鋼管上小田中社宅」在住指導者、依田功氏が社員子弟を対象に少年隊を発隊して活動を開始した。依田氏の異動や社宅在住期限もあり、周辺からスカウトを募集して地域団として活動を継続していた。

(文 渡部 公)

# ジャンボリー物語

## 第1回 日本ジャンボリーの思い出

近江 廣之

1956年（S31年）8月3日～7日に長野県軽井沢・地蔵が原にて開催の日本ジャンボリーに参加しました。今、手元にある記念品は、参加章・大会バッジが付いた皮のチーフリング、記念の集合写真が1枚、あとは私の記憶の中にあるものと資料が少しです。



当時私は新潟県の東蒲原第3隊

に所属しておりました。新潟県からは427名の参加でした。（神奈川は524名）全国では1万3千名、外国からは13ヶ国からの参加がありました。参加スカウトの輸送は臨時列車で、各県連が合同して運行されました。私の3隊は、隊長1名、スカウト20名3コ班で私はクマ班班長で次長に今も一緒にスカウティングを続けている鈴木實さんで6名の班でした。隊の初仕事は会場で使用するテーブルの作製でした。工作物は全部自分達で持参しなければなりませんので運搬、組立や強度が必要であり、考えたのが冬の雪囲いに使う竹の"すだれ"(2.5cm前後の幅で高さ1.8mの竹をすだれに編み2mの長さのもの)、これをバラバラにして幅60cmに切った竹を1本1本節やケバをなくし、針金3本ですだれに編み、2mの長さにして、一人で持参できるように丸めました。炊具は隊では殆どなく、全員が持って行った飯盒が主で殆ど賄いました。

## 大会およびジャンボリー年表

回数	開催年月	開催場所	参加人数	国数
<b>全国大会</b>				
1	昭和24.9.24～25	東京 皇居前	4,000	1
2	昭和25.8.18～20	東京 新宿御苑	5,000	1
3	昭和26.8.4～6	山形 蔵王	8,000	1
<b>日本(スカウト)ジャンボリー</b>				
1	昭和31.8.2～6	長野 軽井沢	13,000	12
2	昭和34.8.6～10	滋賀 あいばの	17,000	16
3	昭和37.8.3～8	静岡 御殿場	26,000	16
4	昭和41.8.5～9	岡山 日本原	30,000	12
5	昭和45.8.6～10	静岡 朝霧高原	32,600	13
6	昭和49.8.1～6	北海道 千歳原	26,700	12
7	昭和53.8.4～8	静岡 御殿場	26,270	15
8	昭和57.8.2～6	宮城 南蔵王	30,144	17
9	昭和61.8.2～6	宮城 南蔵王	30,173	16
10	平成2.8.3～7	新潟 妙高高原	31,972	32
11	平成6.8.3～7	大分 久住高原	30,914	22
12	平成10.8.3～7	秋田 森吉山麓高原	26,740	34
13	平成14.8.3～7	大阪 舞洲スポーツアイランド	20,588	37
14	平成18.8.3～7	石川 珠洲	20,652	38
15	平成22.8.2～8	静岡 朝霧高原	19,382	42
16	平成25.7.31～8.8	山口 きらら浜	14,340	54
17	平成30.8.4～10	石川 珠洲	13,000	
18	令和4.夏	(全国各地で分散実施予定)		

臨時列車は座席と床に分かれて睡眠を取りましたが、夜中に軽井沢に到着しました。それから映画館で仮眠を取り、朝になって会場に入りました。設営を終え、自由時間になった時に1人のスカウトがテントの張り綱に足を引っ掛け前腕を骨折し町の病院に入ることになり、私はその付き添いで同行しましたが、骨折は尺骨と橈骨の2ヶ所で折れてうまくつながらないので、新潟大学病院に行くように言われ、親が迎えに来るまで病院に泊まることになりました。

貸布団屋で布団を借り2泊して、親に引き渡して大会会場に帰りましたが途中のどこかで財布を無くしてしまい、ポケットにあった小銭



が全財産になってしまいました。自分の注意力のなさを知った2日間でした。

このジャンボリーのプログラムでは、行進をした位であとは全部忘れてしまいました。

プログラムにある自由参加行事"大営火"も何をしたのか?と考えてしまいました。

大会が終わって撤収した後、大きなテントで1泊して列車で帰途につきましたが、スカウト1名が列車の窓からハットを飛ばしてしまいました。

その後、彼の父親の転勤で岐阜県へ移りましたが、1972年(S47年)神奈川連盟第1回GATCの場で、彼と会うことが出来ました。彼は東京連盟で活動していましたが、その後何かと会う機会があり彼は会社定年後、山中野営場々長を何年か務めました。15年ぶりに再会し、直ぐ昔に戻れることはスカウティングの力であると思いました。私にとっての日本ジャンボリーは、第1回から始まって1990年の第10回までの(第3回は欠席)9回に参加、スカウト、指導者、SHQ,GHQなどに奉仕をして妙高高原で幕を閉じました。

### 懐かしのジャンボリー

百木 幹雄

第1回は長野県軽井沢高原で1956年(S31年)8月3日~7日で開催され、川崎地区からは小林英男団長以下129名が参加しました。

"空は青いぞホーイホーイ、山は高いぞホーイホーイ、僕らは兄弟だつなげ手を、世界は一つだジャンボリー"……の大会歌にのせて62年前、浅間の山裾に広がる高原に集いました。

#### 1. 憧れのジャンボリーへ

上野駅より特別夜行列車[ジャンボリー号]へ乗車。神奈川、千葉、東京などのスカウトの夢を乗せ一路軽井沢へ。当時は備品をトラック輸送するなど無く、隊のテント、工具、炊具全

て持参での参加で結構混んでいましたが、スカウトは笑顔でした。翌朝7時頃軽井沢駅に到着、全国から到着ですごい活気。改札で年少のスカウトを見ながら後方で出ようとしたら切符が無いことに…現在なら絶対に通用しないのが、旧国鉄はBSなら問題なしと無事通過。即、ずらりと並んだ自衛隊の大型トラックに分乗、隊旗をなびかせ野営地へ。何か違う場所へ向かうような雰囲気でした。会場到着、雄大な浅間山を仰ぐ小高い丘にサイトを設置、川崎5隊のシンボル「若鮎隊」の幟旗を立て活動開始です。



#### 2. 日本連盟記録映画への出演(モノクロ版)

大映チームが制作する記録映画「ジャンボリー」のトップシーンを撮るということになり、リハーサルが始まりました。隊長が各班テントを回り、起床—集合整列—隊列を組んで出発、という一連の流れに制作チームは演技指導に真剣でした。現在、日本連盟に1本存在しますが、最近までYouTubeでも少しカットして流していました。後日談として、川崎地区生みの親小清水黄二氏(川崎3隊隊委員長、元県連理事長)が「なぜ、5隊なのか」とご立腹だったとか。実は5隊児玉一男隊委員長が、松竹、新東宝の映画俳優時代から大映撮影チームの監督と旧知の仲で起用されたとか…。

#### 3. 中央アリーナでのエキスカッション

午前中、三笠宮殿下が訪問され地元のガールスカウトを迎えフォークダンスが始まりました。丁度立って見ていた私の横に殿下が来られ手をつなぐことに、心臓バクバクのままGSと共に踊りました。その光景が昼のNHKニュースで放送され、帰宅後近所の人達からの話に「え!なに?」とビックリでした。



#### 4. 外国スカウトとの交流

全体行事のない時、外国スカウトが訪れ交流が始まりました。当隊にはシカゴのティム・ミノ君（私と同年の高校生）がアルミの箱を下げてやってきました。英語を話せる先輩スカウト（大学生）が通訳し交歓が進むと、ティム君がチーフをひろげアルミの箱からチーフリング、各種ワッペンなどを並べて物々交換が始まりました。私が持っていた黄色の箸を差し出すと、ジョージ・ワシントンのメダルと交換（今もしっかり保有）。各人が何とかチェンジしながら楽しい一時を過ごしました。

#### 5. 鳩山一郎首相の激励のこぼ

神奈川サイトの近くの森で小営火が始まりました。軽井沢に避暑中の鳩山一郎首相が右手に杖を持ちながら登場。マイクなどの放送機器もなく、静寂な森に枝のささやきだけの中、ゆっくりとした口調での言葉が響いた。「今後の日本はやがて皆さんが中心になる。活動をしっかり進めて欲しい」と。あの光景は今もしっかり覚えている。

#### 6. 大キャンプファイヤー

しっかり組まれた枕木が燃え盛る中、日本各地の伝統の祭り、秋田の竿燈、鯛踊り、鹿踊り等、そして米国の勇壮なインディアンダンス、フィリピンのバンブーダンス等が披露され感動の瞬間でした。

ジャンボリーとはどのような大会か？を考えながらの10泊11日、全く雨は降らず、食料の配給、水汲み、トイレ・シャワー等生活面

を捉えながら各種技能へのトライ・交歓、など数々のシーンを思い出しながら記してみました。

遠く65年前、高2の上班として参加、受験と部活を控えながら取り組んだ初めての日本ジャンボリーは第6回までのNJ。その後のスカウターとして活動に、この上ない貴重な経験として心の中に生き続けております。Learning by doing そのものです。



#### 第2回日本ジャンボリーの思い出

元川崎第5団 団委員長 百木 幹雄

第1回軽井沢大会に引き続き第2回大会について振り返ります。

昭和34年(1959)8月6～10日、滋賀県琵琶湖畔饗庭野（先般のニュースとなった自衛隊演習地）にて開催、参加者

17,000名、外国スカウト350名、川崎地区は





14ヶ団（隊）224名、前回同様各団（隊）の参加となりました。

横浜から県連スカウトが夜行の特別列車"ジャンボリー号"に乗車、翌朝米原經由今津駅下車、憧れの会場入りで21歳の新米副長として活動開始。比良山の麓に灯る松明のもと久留島連盟長の発声でスタート。



翌日、台風6号接近で雨の中パレード開始、テント内の皇太子殿下（現天皇陛下）・連盟長の前を全スカウトが行進、先頭には我が川崎地区が誇る日本一の銅管隊ブラスバンドが白いスパッツを巻き颯爽と登場（当クラブの26団佐藤氏がトロンボーンを担当）強風と真横に降る雨の中、ずぶ濡れでドロコ道を足首までつかりながら一点集中でのパレードは今でも鮮明に覚えています。

その夜台風襲来、事前にBSを小学校へ避難させシニア・指導者が野営、午前4時ごろ強烈な風と雨でテントの支柱が弓のようになる、何回か続いた後"バキッ！"の音で折れ、雨を十分に含んだ重いテントが"バサッ"、雨続きで海パン着用もさすがに冷たく寒い中、障害物競走しながら手のかき分けて脱出。B-Pは健康について「鍛えられた肉体よりもいつも持続性のある体力が必要」と語っているが、まさに体力勝負となった。

朝を待って復旧作業開始。台風一過のサイトを整備、それにしても久万隊長はいつも余裕の笑顔と大きな声、苦しい時の隊長の姿に感心しました。午後は第10回世界ジャンボリー（フィリピン）に参加していたスカウトが神戸港か



ら直行、5団から参加の当クラブ会員小川氏ら3名も元気に到着、サイトは喜びに溢れました。

夕方より大営火のもと"秋田の竿灯""鹿踊り"や外国スカウトの楽しい演技に、大変な盛り上がりでした。大会も終盤に県連の計らいで希望者は会場から近い"京都観光"へ出発、修学旅行以来の"清水寺""銀閣寺"等を巡り、疲れも飛ぶようなひと時でした。

いよいよ撤営、欠損と汚れのひどい装備をまとめて帰路へ。今津～米原へ着く頃スカウトは夢の中、私もとくに静岡辺りと思いきや目を覚ますと米原駅のまま、豪雨の影響で不通だった。さあ大変、県連役員が駅弁売りの様に籠で炊き出しの"おむすびとたくわん"を各地区へ配給して呉れて一安心。とてもおいしいものでした。隊長と私は、父母への連絡に走ったが公衆電話は長蛇の列で、家に電報で「レンラクタノム」がやっとでした。

### 少年スカウトの第3回日本ジャンボリー

井村 修治

昭和37年（1962）8月3日～8日に富士の裾野、現在の東富士演習場で開かれた第3回日本ジャンボリー（第1回アジアジャンボリー）に無事参加



できました。焼けるような炎天下に避難できる涼しげな木陰の一つもなく、火山灰で足元の覚束ない斜面を簡易水道とキャンプ地との間で何往復もしたのが、今となってはよい思い出です。自衛隊が敷設してくれた（簡易階段：登山道）この施設がなければ水の運搬はさらに大変だったと思います。砂防ダムのように固定された間伐材のおかげで踏ん張りが利いたからです。火山灰に足を取られることも少なく済みました。この時代は家の暖房が火鉢やコタツからしゃれた石油ストーブになって来たところで、我

が家にもアラジンのブルーフレームがやって来ました。燃料はもちろん灯油で、その入れ物は長らくブリキの一斗缶だったような気がします。ところが、ジャンボリーでの水運びは現在のポリ缶そのもの、ポリ塩化ビニールのポリタンクだったような記憶があるのです。事実なら、蓋つきのタッパウエアが何万円もした時代ですから、超高級品のはずです。気のせい、ポリタンの中の水の「ポチャポチャ」跳ねる当時の音まで聞こえてきました。各団の野営地は何本もあるこの仮設の階段の道をそれぞれ中に挟んで、左右に展開されています。

東京山の手地区の野営地だと思います。周囲に新宿の近隣団で顔なじみが居ました。僕は155、201 団合同隊での参加です、隣は179 団です。敷地は広く、集会のできる広場まで割り当てられていました。隣のテントも程よい距離感で、目に付くほどの近さではありません。開会セレモニーが夕刻より始まりました。そして地響きのごとく沸き出る歓声の渦の中に、「スカウトになってよかったな！」「参加できてよかったな！」と感嘆している自分が居ました。特に、年に何人も誕生しない富士スカウトの所作は憧れでした。白のストッキングが僕には眩しすぎました。



隊サイト訪問の外人スカウターと

開会式が終了し、いざキャンプ地に帰る段になって、突然すごい恐怖に襲われました。辺りはすでに暗くなっています。格好な目印などあ

りません、何万というスカウトはみな同じ服装で区別する術がありません。これが一斉に動き出したのです、それぞれのテントに帰るために。先頭を行くであろうマスターの姿など闇の中です。はぐれたら一巻の終わり、帰るべき野営地をそもそも知らないのです！隣の西田に死んでも付いて行こうと必死になりました。

僕は初級スカウトだったので、参加資格の二級章取得が喫緊の目標です。小学5年の秋に月の輪からBSに進級してまずは初級へ、中1の春、小学校を丸々お借りした試験会場で兄弟団合同の進級試験を受けました。各教室に試験官のリーダーがおいでになり、実技なり、口頭諮問なりと結果がすぐ出ます（スカウト手帳に判こ）。校庭での手旗試験が最難関ですが、その日のうちに二級章を手に入れることができました。今でも手旗は読めます。落水救助を想定したもやい結び・綱引き競争などもありました。今も早いと思います。火山灰地対策でしょうか、初めて、スカウト手帳に記載のない立ちかまどを習いました。近代的だと思いました。後日、ジャンボリー会場で合同キャンプをしたミンダナオ島のアメリカ軍スカウト隊はケロシンストーブを使用していました。上には上が居るかと拍子抜けです、なべ釜さえも満足に持ち合わせない日本隊はさぞ貧乏に見えたでしょう。

丸一日、地区本部に手伝いに行きました（行かされました）。本部に表敬でおいでになった老イギリス人リーダーがきれいな杖（スカウトスティック）をお持ちでした。初めて拝見しました。実際に持たせていただきました。2回目が近江さんのスカウト杖です。

同じ位に素敵です。僕もリーダーになったら作ろうと思っていましたが、かなわぬ夢に終わってしまいました。

## 第4回日本ジャンボリーの思い出

稲葉 正明

思い出すのは閉会式を終え、前を歩く隊長の懐中電灯の明かりから離れまいとして、必死に歩いていた自分の姿である。中学1年生だった。

その後も馬場儀三郎隊長に引率・指導されながらスカウティングを続けてきたことをいつも思う。

第4回日本ジャンボリーは1966年(昭和41年)8月5日～8月9日まで、岡山県勝田郡日本原で開催された。サウジアラビア・韓国・アメリカなど海外11カ国から500人が参加し、3万人の参加者がキャンプを張った。閉会式が終えたのは夜9時、閉会式からサイトに戻った数十分の間のことがジャンボリーの記憶として一番強く残っている。翌日は川崎に帰れると思いながら歩いた。少し情けないが体力が無かった。3日目から体調を崩し、自衛隊救護所のベットで半日ほど坐臥していた。川崎地区の旅程にあった鳥取砂丘見学にも行けず、その日は5団のサイトで面倒を看ていただいた。東京～新大阪までは既に新幹線が開通していたが、その先の日本原までの移動があるため、川崎地区では貸切バスで移動した。途中、前年開通したばかりの名神高速道路を利用した。初めての高速道路だった。

東名高速道路は未だ開通しておらず、国道1号線を下った。暑かった。途中、覚えているのはバスの中で先輩が面白い話を沢山聞かせてくれたこと。そして、忘れられないのは、途中食事で停まったどの地点でも"親子丼"だったことである。だが、浜名湖で食事の時、同じ休憩所で食事をしていた横浜地区派遣隊は"鰻"だったと記憶している。全国のスカウトが日本



原に集結した。設営後、先輩と共にスカウトショップでサイン帳を購入した。外国のスカウト・リーダーと交流する絶好の機会だが会話ができないので、「サイン・サイン」と発声する。サインをもらおうと次に「サンキュー」と伝える。左手3本指で握手、そして敬礼をする。ドキドキしながら、サイン帳のページを開いていった。

韓国・中華民国・USA・Canada と書かれた海外からのスカウトのサインが残っている。USAのスカウトの中には、ハワイの日系スカウトのサインもある。



4日目に開催された「大行進」

しっかりとした筆致で、沖縄那覇市大道という住所と共に、首里校1年 山城 進と記録されたページがある。山城さんはアメリカ連盟の制服を着用していたので、アメリカの派遣スカウトと思い、サインをお願いした。沖縄については殆ど何も知らなかった。サイン帳の住所も沖縄県とは書かれていなかった。

カブスカウトからボーイスカウトになった1965年に山中野営場で開催された川崎地区野営に参加し、翌年に第4回日本ジャンボリーに参加した。カブスカウトに入隊しようと思ったのは、第3回日本ジャンボリーが御殿場で開催された年だった。その年、NHKの“みんなの歌”にボーイスカウトがパトローリングをしている姿が映し出されていた。憧れた、みんなの歌は“線路は続くよどこまでも”だった。

4NJ, 1970年の5NJ、1971年第13回世界ジャンボリー(13WJ)にスカウトとして参加した。期間中、ばてることもなくプログラムを楽



しんだ。13WJには横浜地区派遣隊と共に参加した。馬場隊長は団委員長になっていた。馬場団委員長には楽しかったプログラムのことや、海外から派遣されたスカウトとの交流についてお話をした。とても楽しそうに聞いていただいた。



閉会式 [かがりび]

## 第5回 日本ジャンボリーの思い出

百木 幹雄

今から 50 年前、  
1970 年（昭和 45）  
8 月 6～10 日静岡県  
朝霧高原において  
第 5 回日本ジャンボ  
リーが開催されま  
した。この大会は第

1 回（軽井沢）～第 4 回（岡山・日本原）迄の  
原隊参加と異なり、翌年に控える第 13 回世界  
ジャンボリーを想定しプレ大会的に、初めてサ  
ブキャンプシステムの導入で合同隊としての  
参加となりました。

私は、神奈川第 1 隊（川崎 2, 5, 8, 40 団で構  
成）隊長として参加、3 回の事前集会（訓練）  
では、定番の立ちカマドの作り方、竹を利用し  
た冷蔵庫、全方向移動可能なテーブル（兼食卓）  
の作成をはじめ、今大会のメインテーマ [相互  
理解] に関連し初めて取り組む混成隊を考え、  
同じ団のスカウトにせず柱のグリーンバーを  
決めた後は自由な意見交換と班活動の展開が



出来るように、ラグビーWCのトレンド「ワン  
チーム」につなぐことを進めました。全員にジ  
ャンボリー参加の意義、プライド、規律など話  
したことを覚えております。



設営も順調に進み夕暮れの開会式、途中から  
霧が発生し周囲では「朝霧なのに早くないのか」  
など冗談を言うリーダーもおりました。



第5回大会 1970年（昭和45年）

第 3 日、朝礼で健康状態をチェック中、皇太  
子（現上皇）・妃殿下が神奈川から視察に入ら  
れるとの情報を受け「スカウトらしく楽しい活  
動を」などと話している時、私の横で突然副長  
が倒れる事態が発生、一番驚いたのは私でした  
が口にタオルを入れ舌を噛まないように、スカ  
ウトの手前冷静を装い対応しました。とにかく  
ビックリでした。実は癲癇（てんかん）を発症



したのですが、健康調査表には無表記であったため把握しておらず、第1隊スカウトに迷惑をかけてしまった事を今も思い出します。期間中は好天に恵まれ雄大な富士を仰ぎつつ「今日も元気だぞ」と選択プログラムに参加、何とか全員にと考え見事にクリアできたことを喜び合いました。今回は、給水、配給、その他の運営面も順調で、友好を図り高原のさわやかな風の中、第1回大会以来の楽しい野営でした。翌年の世界ジャンボリーへの期待も高まりましたが、まさか台風襲来で最高の苦しみを経験することなど予想も出来ずに・・・。

"87ヶ国23,000名に弥栄!"

### 第6回日本ジャンボリーの思い出

境 紳隆

第6回日本ジャンボリーは、遡ること46年余、1974年8月1日(木)～6日(火)にかけて、北海道千歳市にある「陸上自衛隊東千歳駐屯地に隣接する北海道大演習場東千歳地区(約380ha)」において「大自然」をテーマに開催されました。



当時中学3年生で原隊(川崎40団)では班長を務めていた私は、「派遣隊では班長かな?次長かな?」等と妄想していたのですが、加藤隊長から「シニアスカウト(SS)隊(現ベンチャースカウト隊)に空きがあるようだ。折角だからSS隊で行って鍛えて貰え。」とご託宣を戴き、SS隊の一番下っ端として参加することになったのでした。後でこの話を地区内でしたところ、同期で現川崎56団の池村君から「俺も近江隊長に似たようなことを言われてSS隊だった」と聞きました。因みにこのジャンボリーには川崎地区からSS隊2個隊、BS隊2個隊が参加しました。

7月30日(火)夕刻、上野駅で背もたれが略垂直の貸切列車に乗車。深夜に青森駅到着。青函連絡船に乗船し、4時間程掛かって函館に着きました。恐らく函館からは貸切バスで現地入りしたのだと思いますが、7月31日(水)現地到着。生憎の雨の中設営したことを覚えています。

8月1日(木)18:30より開会式、2日(金)の午前中には「友情ゲーム」が行われました。



このゲームは隊毎?に同じ文字の書かれた紙が配付され、見ず知らずのスカウトに話しかけて「少年よ大志を抱け」の一文を作成して決められた受付場所に駆け込むものです。私は「少」の文字をつけ、「年」大阪・「よ」東京・「大」滋賀・「志」静岡・「を」群馬・「抱」北海道・「け」福井のスカウトと一緒に完成させました。

8月3日(土)の夜は「大営火」。連盟歌や



大会歌は勿論、様々なスカウトソングを大合唱しました。「大営火」が終了してもスカウト達

はアリーナを離れず更に唄い続けます。伴奏を担当された自衛隊音楽隊の方々も残ってそれに付き合ってたこと、キャンプサイトに戻ったらテントの中で大營火に感激した高校生達が多く泣いていたことが思い出されます。

貸切列車の中では通路に鏡を置いて、車内販売のお姉さんを困らせていたような悪ガキ達にもそんな純粋な面があったのですね。

8月6日(火)の閉会式と撤営は、当時ジャンボリーには付きものであった豪雨の中で行われました。撤営後自衛隊のシェルターの中でバスを待つ間、某リーダーから「雪山に消えたあいつ」という山の歌を皆で教わりました。今では私の愛唱歌となっています。

### 苦しくも楽しかった第7回日本ジャンボリー

川崎地区国際委員会 長谷川 博之

暴風雨の中で屋根だけのマーキーテントが見えた。先発隊が持参してきた荷物も散乱している。1978年に御殿場で開催された第7回日本ジャンボリーの第一印象だ。



8月3日、暴風雨のこの地で、これから5泊6日の

キャンプが始まろうとしていた。周囲でテントが立っているところはほとんどなかった。この状況ではフライテントの設営は困難と判断した隊長はテントの設営を優先したが、結果的に40人分のテントはことごとくポールが折れ、最後の一手だと隊長が我々に教えた吹き流し式の設営方法で何とか2張りのテントを立て、さらにフライテントを仮設して全員を収容した。この設営方法は今でも忘れない。

このジャンボリーは8月4日～8月8日にかけて静岡県御殿場市・東富士演習場滝ヶ原駐屯地で開催されてもので、私は当時26歳で神奈川第1隊(BS隊)の副長だった。ちなみに川崎からはシニア隊も1個隊が派遣されていた。

我々の隊は隊長：大西(47団)、副長：長谷川(39団)、原田(21団)、副長補：五十嵐(39団)、高橋、以下総勢40名(スカウト4班)で構成され、通称「武蔵隊」と呼ばれていた。偶然かどうか7名の指導者は全員が野営行事委員会の強力スタッフで、大西隊長(当時30歳)は知識・実力豊富な日大ローバーOBとしても全国的に有名な方で、私の師匠の一人でもある。このキャンプで特筆すべき点を挙げると、こんなことが思い出される。

- 1) 4日のカレーの配給が間違っていて、カレーがなくて全部福神漬けだった。(^^;)



- 2) リヤカーを引いていた坂本隊付がジャンボリーを訪問されていた福田首相(当時)に声をかけられたこと、リヤカー対談!!





- 3) 派遣訓練からジャンボリー終了まで、現地でガリ版刷りの隊新聞「武蔵」を毎日発行して配っていた。これは今見ても当時の雰囲気伝わってくる。(長谷川所蔵)
  - 4) 毎晩恐怖？の赤丸反省会を全員で実施、恐怖というものの毎晩大爆笑の反省会だった。
  - 5) 近隣のフィリピンやインドネシアの隊と交流していた。
  - 6) トイレの目隠しベニヤ板は自由落書きコーナーで訪問者喜ぶ！
- 隊長も副長も、副長補も隊付も、そしてスカウトも笑顔が絶えない隊でした。

## 第7回日本ジャンボリー(7NJ)カラーチーム

稲葉 正明

7NJ カラーチームは1978年3月27日に神奈川県立中央青年の家で結隊式を行いました。

7NJの開会式まで130日余りとなっていましたが、そのミッションを果たすために結隊式に続いて7日間の訓練を始めました。



7NJ カラーチームは湘北地区(24名)、川崎地区(12名)のシニアスカウトから編成され、隊長には横須賀健治氏(当時横浜地区副コミッショナー)、副長には上之園洋一さん(湘北地区)と私が任命されました。カラーチームは神奈川連盟のシニアスカウト隊としての位置づけでしたが、日本連盟行事部に配属され、行事部のサイト内で設営をしました。神奈川連盟か

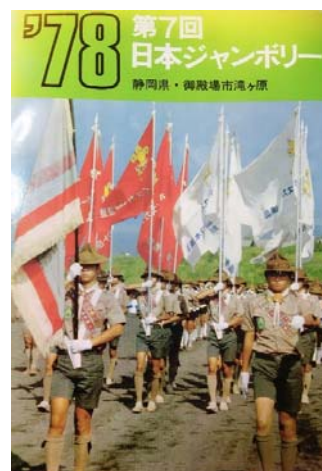
らはGHQ 特別奉仕シニア隊も行事部に配属されましたが、全員がゴールデンアックストレーニングチーム(G.A.T)に参加していたシニアスカウトでした。すでに、G.A.Tの活動は広く知られており、行事部の関係者からも注目される存在でした。

7NJ カラーチームは8月4日の開会式に先立ち、8月1日午前10時にサイト入りし、7NJ会場での現地リハーサルを行っています。このリハーサルは、結隊式直後の訓練から数えて第6次(最終)となるものですが、その間、基本ドリルとパターンの組立てを繰り返し練習してきました。

相模原地区および川崎地区の訓練会場を歩き来しながら、練度を上げていきましたが、小学校の体育館や自衛隊分屯地での訓練を準備するにあたっては、両地区の指導者から多大なるご支援をいただきました。川崎地区のスカウトはいずれもG.A.Tに参加し、近江廣之隊長の薫陶を受けた精鋭ばかりでしたが、チーム編成のために選ばれた一員としての気概がその行動の端々に表われていました。稲葉睦美氏(当時神奈川連盟副コミッショナー)も訓練の場に足を運ばれ、カラーチームのスカウトを鼓舞していただきました。横須賀隊長とともに、素晴らしい指導者に恵まれた訓練プログラムだったと実感しています。

ファンファーレがこだまする中で開会式が始まりました。7NJ カラーチームの先頭を進み、栄えある日本連盟旗の正・副旗手を

つとめたのは中村敦君(写真左川崎42団)と河合成治君(写真右川崎48団)でした。



その瞬間、鍛錬の成果がアリーナ全体に展開され、その堂々とした様子は"深い深い森におたけび響きわたる今ぞ躍動のキャンプ、、、"

(7NJの歌「明日に向かって」の冒頭)をそのまま体現するかのようでした。

7NJの期間中、カラーチームは多くの参加者に感動を与え、その雄姿は記念アルバムの表紙を飾るほどのものになっていました。

本記事をまとめるにあたって43年ぶりに横須賀隊長にも連絡を取らせていただき、貴重な資料やエピソードを教えていただきました。

激しい雨が国旗掲揚エリアに通じる道をふさいでしまったことを知ったカラーチームのメンバーが、朝食前の時間を使って道普請を行い、笑顔で戻ってきたことに感銘を受けたと話されていました。

アリーナから離れていても、奉仕という旗印を掲げ続けていた7NJ カラーチームの一人一人を誇りに思います。

## 第8回日本ジャンボリー

鈴木 秀明

昭和57年(1982)8月2日から6日まで「友情と躍進」をテーマに宮城県白石市蔵王山麓で3万名が参集した[第8回日本ジャンボリー]へ指導者として参加してから既に40年近い年月が流れました。ちょうど台風が北上中で、泥まみれでサイトを設営、まるで田んぼにテントが浮かぶような状態が何日も続きました。

スカウト時代に参加した滋賀県饗庭野で行われた、第2回日本ジャンボリーも大雨、9NJは隊長役で参加しましたが又々台風に遭遇、私が参加したジャンボリーは全て大雨と強風との戦いでした。



思い出の8NJ神奈川第22隊に所属、現在地区などでご活躍の若き30歳の長谷川博之隊長の下、私と同年代の橋本氏が副長、隊付の若きローバースカウトや副長補を含めた隊編成は、悪天候の中抜群のチームワークを発揮、まさに苦あつての結束が隊全体に広まり派遣スカウトから落伍者や泣き言を吐く者はひとりも出ませんでした。

このジャンボリーで"スカウト魂"を間近に感じる貴重な体験をさせていただきました。

当時私も38歳、現在の半分の年齢で仕事を



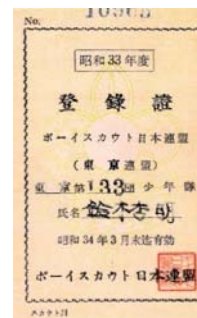
やり繰りして参加したので、残念ながら閉会式まで留まることが叶いませんでした。

特に残る思い出は、所属団43団の団委員長を務めていた山口光雄氏が軽トラックを運転し、予告なしにサイトを訪問されたことです。暖かい激励の言葉は、悪戦苦闘の最中であって感激一入でした。

また、帰り道には私を助手席に乗せて下さり、長い道のりを黙々と一人で運転して下さいました。横にいる私は、キャンプ疲れで失礼とは知りながらも爆睡状態のまま自宅まで送って下さいました。

振り返ってみても、当時の団委員長のタフでパワフルな行動を忘れることが出来ません。

既に17NSJを終え「スカウトジャンボリー」と名称





が変わりましたが、スカウトの祭典は永遠に続きます。スカウトや指導者にとってジャンボリーへの参加は生涯忘れられない思い出となります。

追記：鈴木さんは小学生から東京第 133 団（現、世田谷第 10 団）少年隊スカウトでした。隊長は、神奈川連盟で GATC（ゴールデンアックストレーニングコース）、カラーチームの創設期から大活躍した県央地区 稲葉睦美氏でした。

（渡部）

### 初めての日本ジャンボリー(12NJ)

賛助会理事 梅原英毅

私にとって初めてのジャンボリーは第 11 回の九州久住高原で、8 月 3 日から 5 日間行われました。（参加



者は 8 月 1 日から 9 日間）集まったのは日本及び世界各国の代表 3 万余に皇太子殿下（現在の天皇陛下）が出席された盛大なものでした。

ボーイスカウト活動の世界に入っている人であれば、4 年に一度しかないこのイベントへの参加を夢見るもので、特に主役として参加するのは一生にただ一度のチャンスなのです。

何と幸せなことに、この九州で行われた夢のジャンボリーに私たちは親子で参加出来ました。私は野営管理班として奉仕し、息子は神奈川 3 隊のスカウトとして参加しました。

野営管理班の仕事は、都市設計（テント村のスラム化防止）、警察、清掃局を併せ持ったかなりハードなもので、1 年前から綿密な計画を進めながら、体力的に不安を覚えるほどのものでした。そして 8 月 1 日、ついにジャンボリーが開催されました。連日雲一つない晴天が続き、日中は 35 度を超え夜は 20 度以下になる高

原特有の気候は救護班に多数のスカウトを送り込むことになりました。

そんな中、我が息子もいつ救護班のお世話になるかと心配しましたが時々見かける様子ではその必要はなさそうです。しかし野営管理班と言うのはかなりハードで、特に警察の仕事は夜警もあるし、テントサイトに不審な人物が入るのをチェックしたりで大変でした。

しかし本職が警察官の人が野営管理班にいて、笛や警察手帳もどきの小物を持ち込んで班員に配布し、教育をしてくれたのでありがたかったです。ただ時々「それは本当か」と職業的にギョロッと目をむかれると、やはり警官は怖いと思いました。

ジャンボリーが終了に近くなって息子が神妙な顔で「パイオニア賞」のメダルを首にかけてもらっているのを見かけました。その後日焼けした顔をしてメダルを持ち上げ「パイオニア賞をもらったよ」と楽しそうに言ったので「よかったな」と答えました。

最後に帰りのバスが集結した「火の国ランド」でも息子を見かけ「ジャンボリーの感想は」と聞くと「素晴らしかった、ありがとう」なんて言うものだから「胸にジーン」と来ました。



## 第10回世界ジャンボリーに参加して

元第5団BS隊副長 小川 芳郎

1959年（昭和34年）7月17日から26日まで第10回世界ジャンボリーがフィリピン・ラグナ州のマッキリン山で開催された。世界44カ国から12,203名が参加した。日本からは519名が参加し、川崎地区からは5団の福島国広、奥山正夫、小川芳郎の3名が代表として参加した。



福島、小川は高3、奥山は高2である。小学5年から仮入隊し、7年半スカウト訓練を受けた。

水泳章 1955年8月、救急章は1956年4月、野営章は1958年4月合格、審査は島田武三技能章審査委員長であった。1957年川崎地区白梅隊、1958年1月4日～5日神奈川連盟年長スカウト睦月隊（山下精章隊長）にも参加し1級、菊スカウトと進級した。

1959年6月14日神奈川連盟派遣隊結隊式の通知が神奈川連盟鈴木一夫名であり川崎市民会館へ出かけた。7月8日派遣団は首相官邸を訪問し激励を受ける。午後1時川崎5団児



玉一夫団委員長、久万英二隊長、百木幹雄副長、スカウト、父兄に見送られ白山丸に乗船。竹芝栈橋に溢れんばかりの見

世界(スカウト)ジャンボリー

回数	開催年月	開催場所	参加人数	国数	日本代表
1	1920.7.30～8.8	イギリス ロンドン・オリンピック	8,000	34	3
2	1924.8.10～17	デンマーク エルメルン	5,000	32	32
3	1929.7.31～8.13	イギリス アローパーク	50,000	69	28
4	1933.8.2～15	ハンガリー ゴドロ	25,792	33	10
5	1937.7.30～8.14	オランダ フォーゲレンザン	28,750	54	11
6	1947.8.9～16	フランス モアッソン	24,152	71	0
7	1951.8.3～13	オーストリア バトイスル	12,884	61	2
8	1955.8.18～28	カナダ ナイアガラ・オン・ザ・レイ	11,139	71	14
9	1957.8.1～12	イギリス サトンパーク	31,426	82	22
10	1959.7.17～26	フィリピン マッキンリーパーク	12,203	44	520
11	1963.8.1～11	ギリシア マラソン	11,398	89	138
12	1967.8.1～9	アメリカ アイダホ	12,011	105	320
13	1971.8.2～10	日本 静岡県朝霧高原	23,758	87	7,783
14	1975.7.29～8.7	ノルウェー リリハマー	17,259	91	141
15	1983.7.4～14	カナダ カナナススキス	14,752	106	42
16	1987.12.30～1988.1.1	オーストラリア カタラクトスカウトパーク	14,434	84	548
17	1991.8.8～16	大韓民国 雪岳山国立公園	19,083	135	2,675
18	1995.8.1～11	オランダ ドロンテン	28,960	166	1,236
19	1998.12.27～1999.1.6	チリ ビカルキン	31,534	157	227
20	2002.12.28～2003.1.8	タイ サッタヒップ	24,000	147	1,250
21	2007.7.27～8.8	イギリス ハイランズパーク	37,868	155	1,510
22	2011.7.27～8.7	スウェーデン リンカンビィ	40,061	146	966
23	2015.7.28～8.8	日本 山口県きらら浜	33,628	155	6,651
24	2019.7.22～8.2	米国 サミットベクトルリザーブ	40,000		

送り人と別れの五色の紙テープが飛び交う中出航 7月9日神戸港に入港し、神戸市内をパレード、同日出航し東シナ海を航行。神奈川・長野悌団は小田原地区の佐藤隊長、中津川隊長、平野団委員、横浜地区の加藤武副長、鎌倉地区の東郷、長野県の平林、中沢各団員等々と我ら3人であった。

船内の食事が終わると、蒸し暑い下層船室を逃れて上部デッキに移動して毎日談笑し、絆を深めた。船上では毎日朝礼があり、その後、久留島団長からジャンボリーに関する講義があった。



フィリピンに近づいた頃、戦争犠牲者に対する慰霊を行った。ジャンボリー会場の裏山でも慰霊する団員がいた。戦後14年、まだこういう時代ではあった。台風の影響で2日間余分

の航海をした後、7月17日午前11時30分無事マニラ港に接岸。梯団毎に軍用トラックに荷物を積み込むと2名ずつの荷物番を置いて、独立運動家ホセ・リサールの像、マニラ大学の見学に出て行った。

荷物番を引き受けた私が昼飯を食べていると運転手達がペプシコーラを手話で話しかけてきた。初めてコーラを知った。すっかり気に入ったのでジャンボリー中はペプシばかり飲んだ。

市内見物を終えた日本派遣団は幌無しのトラックに分乗し、ルソン島のマニラから会場のあるラグナ州まで街道を3時間ほど南下した。

街道の両側には椰子の木陰に高床式のニッパハウスが点在し、人々が出て歓迎の手を振ってくれた。この中にゼネラル山下と叫び首を切る動作をする人を何人も目にした。翌7月18日午後3時会場でのパレードの後開会式に参加。ガルシア大統領の挨拶があった。会場はマ



ッキリン山の  
中腹に位置し、  
キャンプサイ  
トは窪地でこ  
れを囲んで周  
遊道路がある。

この道路に沿って飲料水の売店があり、スカウトショップがあった。私達のキャンプサイトの近くにニッパハウスで宿泊していたフィリピンのバルデビノという名前のスカウト隊長と指導者及びその家族と私は仲良くなり夕食後夜遅くまで話し込んだ。

またアリーナショーでバンブーダンスを見た際には年少スカウトとも親しくなり、マガンダンハポン（こんにちは）などタガログ語で挨拶した。

彼がくれた甘酸っぱい果物に因んで彼をサントリーとも呼んだ。さらに、見学者の中で私にサインをくださいと言って来た母親を伴っ

た女学生など3人の学生とは住所を交換し文通に発展した。特にミラグロス・イダルゴという名前の学生とは3年ほど文通した。夏目漱石の「坊ちゃん」の英訳本を贈ったり、日本の文化・風習を伝えたりした。知り合ったスカウトの家族が後年フィリピン特有の礼服バロンをみやげに来日した。

キャンプサイトでの食事はパン、クラッカーの他に、飯盒炊飯もした。おかずは鶏肉の水煮缶詰が美味かった記憶がある。おやつに蒸したバナナを買い、パイナップルをくれたスカウトもいた。フィリピンのスカウトと交換した品の中で、日本占領時代に日本政府が発行した10ペソ紙幣があった。フィリピンの対日感情がまだ心配された時期に日本派遣スカウト519人による友情と親善の発揮は決して小さいことではなかったと思っている。7月26日大会は終了、帰国の途についた。マニラ港で見た夕日は忘れられない。

8月3日神戸港に帰港。神戸からそのまま滋賀県饗庭の第2回日本ジャンボリーに合流した。

### 第13回世界ジャンボリー

賛助会理事 仁藤 祥仁

私は昭和46年（1971年）8月2日から10日まで静岡県霊峰富士山の裾野の朝霧高原で参加国88か国、参加人数約



24,000名を迎え FOR UNDERSTANDING（相互理解）のテーマのもとに開催された第13回世界ジャンボリーに参加しました。日本で開催されたので運良く参加することができました。今から50年も前、大昔のことです。キャンプサイトの名称は日本の年号で区枠され、私の参加隊名は神奈川飛鳥11隊でした。



開催中には当時の皇太子殿下、美智子妃殿下（現在の上皇様、上皇后様）、アメリカからアポロ 11 号の船長で、人類で初めて月面に立つ



たニール・アームストロング氏も来場しました。

開会式は歌手の藤山一郎氏が歌うテーマソング「明るい道を」の大合唱で大いに盛り上がりました。

♪明るい道をパンパンパン(拍手)  
開こう開こうパンパンパン(拍手)  
ジャンボリー ジャンボリー♪

開会式後の最初のワイドゲームは、世界の仲間と文字合わせパズルゲームで一人一人に一字が与えられて、それを首から下げて仲間を集め課題の文を作するゲームでした。

確か課題は そなえよつねに？ せかいのなかま？ 両方とも違いました？ どっちでした？

今まで参加したキャンプとの一番の違いは食事の献立でした。オートミールて何？、鳥のもも焼き、パンとクラッカー、牛乳とコーンフレーク、みそ汁はないの？など今でもなんとなく覚えています。

開催中には台風 19 号の通過により会場は暴風雨に襲われ、テントサイトは浸水、倒壊するなど大変な状況で他のサイトでは避難した隊もありましたが、わが隊は避難せずに、火の見張りをしながらサイトでみんなで凌いだことは、まさに'そなえよつねに'の実践でした。（日本連盟の記録映像がそのように述べています。）

雨上がりの夜の月がとても綺麗だった事を今でも覚えています。

また、参加の外国スカウトたちのサイトへの相互訪問、チーフリング、記念バッチ等の交換などの交流、日曜日には宗教行事が行われたこともとても印象に残っています。

そして閉会式前夜の富士の裾野での大営火はとても壮大で、そのスケールの大きさに感動し気持ちが高揚したまま、みんなで大きな声で歌いながら行進してサイトへ帰りました。

♪行こうぜ行こうぜ川崎スカウト  
ワンツウー ワンツウー  
スリーフォー スリーフォー  
ワンツウー スリーフォー  
ワンツウー スリーフォー♪

あれからあっという間に 50 年あとの時のスカウト達のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

## 第 24 回世界ジャンボリー

日本連盟派遣隊 第 7 隊隊長 境 紳隆

2019 年 7 月 21 日から 8 月 5 日にかけて、第 24 回世界スカウトジャンボリー（以下「24 WSJ」）に参加して参りました。24WSJ には川崎地区からスカウト 5 名、指導者 2 名が参加しました。

会場は、U S A ウェストバージニア州の「サ



ミット・ベクテル・ファミリー・リザーブ」という B S アメリカ連盟最新（2011 年開場）のキャンプ場（広さは約 60 km<sup>2</sup>程あり、山手線内側の面積と粗同じ広さです。）の北西の一角を使用して開催されました。



常設のキャンプ場なので、既設のクライミングウォールや 1km もあるジップライン等大掛かりなプログラムがたくさん体験できる大会でした。その他、電子名刺交換システムともいうべき「Novus（ノーバス）」や電子化された食料購入システム、キャンプサイトどこでも通じる Wi-Fi 等、最新機器が導入された前衛的な大会でした。

全世界から集う 4 万人余のスカウトが、共に様々なプログラムを体験し、日々交流を重ねた日々は、スカウトならではのとても貴重で有意義な時間だったと思います。

### 第 24 回世界ジャンボリー

日本連盟派遣隊 神奈川第 8 隊  
川崎第 46 団 BS 隊 原田愛莉

今年の夏、一生忘れられない思い出と、一生に一度の経験をアメリカの地でさせていただきました。私は中学 3 年生なので高校入試も迫る中、塾の夏季講習ももちろんあったのですが、この機を逃したら人生で経験することは 2 度とない。そう思い、迷わず参加しました。初めての飛行機、初めての海外、向こうの地で見るもの食べるもの、すべてが特別に感じました。そして、サミットベクトルリザーブでの実際のアクティビティーは、とても日本では経験することのないスケールの大きいものでした。



アクティビティーが全てではなく、隣のサイトの国のスカウトとの交流から始まり、ノーバスを通して世界中のたくさんのスカウトと友達になることができました。世界中から想像も出来ないほどの沢山のスカウトが集まり、住ん

でいる国や風習、話す言葉が違っても、お互いにそれぞれの文化を尊重し合い、認め合うということ。それがどれほど素晴らしいものなのか、私はそれを身をもって感じる事ができ、この機会を与えてもらえたことに本当に感謝します。これこそが、24WSJ に参加したスカウトの誰もが感じる事ができたであろう、世界ジャンボリーというものの素晴らしさだと思います。

最後に、私はこの 24WSJ に参加して、ボーイスカウト活動をしていて本当によかったなと改めて感じました。ボーイスカウトとは何か。



人それぞれかける思いは違うでしょう。一人一人が、自らが思うボーイスカウトの形を追求する。これこそがスカウト活動の醍醐味なのではないでしょうか。世界中の様々な境遇の中で同じスカウトとして活動している仲間がいる素晴らしさ、24WSJ はまさにそれを肌で感じるきっかけになったものでした。

この経験を生かしながらこれからもスカウト活動に励んでいきます。一生に一度の素晴らしい夏を本当にありがとうございました。

この章の掲載画像は、各執筆者にご提供いただいたもの以外に、長谷川博之氏よりご提供いただいたものも追加しています。

日本(スカウト)ジャンボリー開催一覧・川崎地区参加隊隊長

開催回	期間	会場	隊長(川崎地区)
第1回全国大会	1949.9.24-25	東京都・皇居前広場	
第2回全国大会	1950.8.19-20	東京都・新宿御苑	
第3回全国大会	1951.8.4-6	山形県・蔵王	
第1回日本ジャンボリー	1956.8.2-6	長野県・軽井沢	(各隊参加)
第2回日本ジャンボリー	1959.8.6-10	滋賀県・饗庭野	(各団参加)
第3回日本ジャンボリー	1962.8.3-8	静岡県・御殿場	(各団参加)
第4回日本ジャンボリー	1966.8.5-9	岡山県・日本原	(各団参加)
第5回日本ジャンボリー	1970.8.6-10	静岡県・朝霧高原	(以降派遣隊参加)
第6回日本ジャンボリー	1974.8.1-6	北海道・千歳原	
第7回日本ジャンボリー	1978.8.4-8	静岡県・御殿場	大西 弘昭
第8回日本ジャンボリー	1982.8.2-6	宮城県・南蔵王	長谷川 博之 濱田 雅弘
第9回日本ジャンボリー	1986.8.2-6	宮城県・南蔵王	第1隊 大谷 実 第2隊 花形 勝 第3隊 鈴木 秀明 第4隊 長谷川 博之 第5隊 橋本 博
第10回日本ジャンボリー	1990.8.3-7	新潟県・妙高高原	第1隊 大山 貞義 第2隊 遠藤 博之 第3隊 安藤 徹 第4隊 藤田 泰男 第5隊 曾山 仁之
第11回日本ジャンボリー	1994.8.3-7	大分県・久住高原	第1隊 安藤 徹 第2隊 田島 宣彦 第3隊 水野 英明
第12回日本ジャンボリー	1998.8.3-7	秋田県・森吉山麓高原	第1隊 前山 幸雄 第2隊 田島 宣彦 第3隊 水野 英明
第13回日本ジャンボリー	2002.8.3-7	大阪府・舞洲スピーツアイランド	第1隊 境 紳隆 第2隊 木村 寿宏 第3隊 武 慎一郎 第4隊 荻原 泉 奉仕隊 北條 賢一
第14回日本ジャンボリー	2006.8.3-7	石川県・珠洲市りふれっしゅ村	第1隊 山川 信一 第2隊 大内 茂樹 第3隊 水野 英明
第15回日本ジャンボリー	2010.8.2-8	静岡県・朝霧高原	第1隊 荻原 泉 瀧野 真悟 第2隊 服部 考浩 第3隊 山川 信一
第16回日本ジャンボリー	2013.7.31-8.8	山口県・山口市きらら浜	第1隊 水島 一誠 第15隊 山川 信一
第17回日本スカウトジャンボリー	2018.8.4-10	石川県・珠洲市りふれっしゅ村 (※代表隊長)	(以降各団参加) 第1隊 保坂 陽太 第2隊 黒田 信 第3隊 鈴木 秀和
第18回日本スカウトジャンボリー	2022.8.5-10他	分散開催(神奈川サテライト会場)	

## 白梅隊について

「白梅隊」はその名の通り「初春訓練」として、川崎地区独自の活動を実施してきた。「1958年(昭和33)に多摩川河川敷にて実施した」記録が残っている。

初期には「シニア(現ベンチャー)白梅隊」「ローバー白梅隊」などもあり、「白梅隊」はボーイ部門の専売特許ではなかったが、シニア向け集合訓練としてGATC(ゴールデン・アックス・トレーニング・コース)が導入されるに伴い、「ボーイ隊のグリーンバー(班長・次長)訓練」の位置付けで長らく実施されてきた。

しかしながら、進級制度の改定に伴い多様なプログラムにチャレンジすることが求められるようになり、現在では移動野営をベースに様々な進級課程を体験するものに変化してきている。スタッフ確保の面でも、秋の連休を中心に実施することで原隊からの多様な人材の参画を得られるようにしている。活動名称は、既に地区内に定着している「白梅隊」をそのまま継承した。

昨年度(2020)は、新型コロナ感染拡大の影響でやむなく開催を中止したが、今年度(2021)は、「第49期白梅隊」として宮本隊長(第49団)のもと開催した。

(文 境 紳隆)



年度	実施年月日	期	実施場所(野営等)	隊長	所属
S33			多摩川河川敷	島田 武三	第1隊
S36	1962/3/10～11		少年の家		
S38	1964/3/15～16		少年の家		
S39	1965/3/13～14		少年の家		
S40	1966/3/26～27		県立社会教育会館前	山田 利雄	第39団
S41	1967/1/4～6		山中野営場		
S43	1969/3/22～23		市立青少年の家		
S44	1970/3/14～15		市立青少年の家		
S46	1972/3/18～20		五日市町		
S47	1973/3/29～4/1		那須野営場		
S49	1975/3/27～31		那須野営場		
S50	1976/3/28～31		那須野営場		
S52	1978/3/27～30		那須野営場		
S53	1979/3/31	第8期	県立足柄青年の家	中馬 宏	第47団
S54	1980/3/27～31	第9期	52団野営場	近江 廣之	第3団
S55	1981/3/26～30	第10期	米軍南多摩R.C.	堂本 暁生	第3団
S56	1982/5/1～3	第11期	米軍南多摩R.C.	近江 廣之	第3団
S57	1983/3/30～4/3	第12期	米軍南多摩R.C.	清水 賢三	第52団
S58	1984/3/24～27	第13期	米軍南多摩R.C.	清水 賢三	第52団
S59	1985/3/28～31	第14期	米軍南多摩R.C.	清水 賢三	第52団
S60	1986/3/27～30	第15期	米軍南多摩R.C.	清水 賢三	第52団
S61	1987/3/26～29	第16期	米軍南多摩R.C.	佐藤 秀男	第39団
S62	1988/3/26～29	第17期	海老名第3団野営場	佐藤 秀男	第39団
S63	1989/3/25～28	第18期	39団宇奈根野営場	田島 宣彦	第38団
H1	1990/3/24～27	第19期	米軍南多摩R.C.	田島 宣彦	第38団
H2	1991/3/30～4/2	第20期	御所見の森野営場	田島 宣彦	第38団
H3	1992/3/28～31	第21期	御所見の森野営場	山田 光男	第54団
H4	1993/3/26～29	第22期	御所見の森野営場	立花 悦雄	第52団
H5	1994/3/31～4/3	第23期	御所見の森野営場	田島 宣彦	第38団
H6	1995/3/31～4/3	第24期	御所見の森野営場	小池 隆一	第8団
H7	1996/3/28～31	第25期	御所見の森野営場	水島 一誠	第53団
H8	1997/3/27～30	第26期	御所見の森野営場	大橋 信明	第3団
H9	1998/3/28～29	第27期	御所見の森野営場	荻原 泉	第21団
H10	1999/3/26～29	第28期	御所見の森野営場	栗田 哲郎	第40団
H11	2000/3/25～28	第29期	御所見の森野営場	木村 寿宏	第54団
H12	2001/3/24～27	第30期	御所見の森野営場	木村 寿宏	第54団
H13	2002/3/26～29	第31期	御所見の森野営場	多賀 譲治	第46団
H14	2003/3/27～30	第32期	御所見の森野営場	多賀 譲治	第46団
H15	2004/3/26～29	第33期	御所見の森野営場	山川 信一	第49団
H16	2005/3/26～29	第34期	御所見の森野営場	水野 英明	第30団
H17	2006/3/25～28	第35期	御所見の森野営場	池村 重信	第3団
H18	2007/3/24～27	第36期	御所見の森野営場	中村 豊	第39団
H19	2008/3/27～30	第37期	御所見の森野営場	服部 考浩	第38団
H20	2009/3/26～29	第38期	御所見の森野営場	境口 剛	第8団
H21	2010/3/27～30	第39期	御所見の森野営場	瀧野 真悟	第8団
H22	2011/3/26～29	第40期	御所見の森野営場	安藤 聡	第43団
H23	2012/3/24～27	第41期	御所見の森野営場	岩永 成央	第40団
H24	2013/3/29～31	第42期	39団宇奈根野営場	藤田 陽太	第39団
H25	2014/3/28～30	第43期	地藏山野営場	大和田 敦史	第43団
H26					
H27	2015/7/19～20	第44期	足柄→金時山→強羅	井上 景	第39団
H28	2016/10/9～10	第45期	足柄→金時山→強羅	井上 景	第39団
H29	2017/7/16～17	第46期	足柄→金時山→強羅	井上 景	第39団
H30	2018/10/7～8	第47期	足柄→金時山→御殿場	井上 景	第39団
R1	2019/11/23～24	第48期	足柄→金時山→桃源台	宮本 琢也	第49団
R2				中止	
R3	2021/11/13～14	第49期	元箱根→湖尻→御殿場	宮本 琢也	第49団

## 川崎地区 GATC について

川崎地区の伝統あるプログラムの一つに、GATC（ゴールデン・アックス・トレーニング・コース）があります。このGATCは、元々神奈川連盟のシニアスカウト（現在のベンチャースカウト）向け合同訓練として開始されました。その経緯は、「神奈川連盟50周年記念史」に詳述されていますが、ここでは掻い摘んで紹介します。

昭和46年（1971年）7月に、朝霧高原で第13回世界ジャンボリーが開催されました。この第13回世界ジャンボリーに、シニアスカウトで編成された「安土21隊」隊長として参加した稲葉睦美氏（県副コミッショナー）は、その事前訓練を通してシニアスカウト達が、国際的マナーを身に付け、心身共に成長する様を見て、ジャンボリー終了後に、県連名主導によるシニアスカウトの合同訓練を提案します。県連理事会の承認を得て昭和47年（1972年）、県下の年長隊（シニアスカウト隊）に募集をかけたところ、64名の応募があり、これを2個隊に編成して開始されました。当時は「ゴールデンアックス・トレーニング・チーム」と呼ばれ、GATと略されることが多かったようです。

このGAT第1期には、川崎地区から指導者として第2隊副長に近江廣之（当時川崎第3団）氏が、スカウトとして濱田雅弘氏、柴修氏（共に当時川崎第3団）が参加されています。

翌昭和48年（1973年）にもGAT第2期が開催され、3個隊（第3隊～第5隊）が編成されました。近江廣之氏は第5隊隊長として、濱田雅弘氏も第5隊上級班長として参加されました。

県連が主催したのは第2期までで、第3期移行は地区開催に移行し

たようなのですが、第3期・第4期の資料が全く集まらず、内容不明です。第5期（昭和52年・1974年）については、「結隊式」の日付が確認されましたが、それ以外の情報は皆目分っておりません。

地区で開催を引き継いだのは、川崎地区・横浜地区・湘北地区の3地区でしたが、横浜地区と湘北地区のGATはその後「カラーチーム」としての活動に軸足を移し、県内行事での活動は固より日本連盟諸行事でも広く活躍を続けて行きます。しかしながら、GAT（GATC）としての活動を続けているのは、川崎地区のみとなっています。

地区主催となってからは、隔年で開催され、2021年度に「第27期GATC」が井上隊長（川崎第39団）の下で活動中です。

前述したように、GATの開始から深く関与された近江廣之氏（現川崎第56団）が、川崎スカウトクラブ機関紙「杖」に「GATCのはじめ」を寄

GOLDEN AX TRAINING TEAM COURSE (GATC)

和暦	西暦	開催主体	開催期	隊		隊長
昭和47年度	1972	神奈川連盟	第1期	第1隊		佐藤 達郎
昭和47年度	1972	神奈川連盟		第2隊		稲葉 睦美
昭和48年度	1973	神奈川連盟	第2期	第3隊		船津 浩平
昭和48年度	1973	神奈川連盟		第4隊		増井 幸春
昭和48年度	1973	神奈川連盟		第5隊		近江 廣之
和暦	西暦	開催主体	開催期	結隊日	結隊式会場	隊長
			第3期			
			第4期			
昭和52年度	1977	川崎地区	第5期	1977/5/29		
昭和54年度	1979	川崎地区	第6期	1979/8/26	中小企業婦人会館	
昭和56年度	1981	川崎地区	第7期	1981/5/10	幸市民館	大西 弘昭
昭和58年度	1983	川崎地区	第8期	1983/9/4	南多摩米軍R.CAMP	大谷 実
昭和60年度	1985	川崎地区	第9期	1985/4/28	青少年の家	河合 武夫
昭和62年度	1987	川崎地区	第10期	1987/5/31	太陽第一幼稚園	大谷 実
昭和64年度	1989	川崎地区	第11期	1989/5/7	中原市民館	田島 宣彦
平成3年度	1991	川崎地区	第12期	1991/6/2	青少年の家	田島 宣彦
平成5年度	1993	川崎地区	第13期	1993/6/13	青少年の家	小坂 大吉
平成7年度	1995	川崎地区	第14期	1995/6/18	長寿保育園	長谷川 博之
平成9年度	1997	川崎地区	第15期	1997/9/19	幸区原町会館	立花 悦雄
平成11年度	1999	川崎地区	第16期	1999/10/16	南加瀬辻町会館	井上 景
平成13年度	2001	川崎地区	第17期	2001/5/26		北條 賢一
平成15年度	2003	川崎地区	第18期	2003/5/24	青少年の家	北條 賢一
平成17年度	2005	川崎地区	第19期	2005/5/28	青少年の家	林 剛一郎
平成19年度	2007	川崎地区	第20期	2007/9/23	こどもの国	山川 信一
平成21年度	2009	川崎地区	第21期	2009/9/20	青少年の家	池田 司
平成23年度	2011	川崎地区	第22期	2011/9/25	等々力緑地催し物広場	境 紳隆
平成25年度	2013	川崎地区	第23期	2013/9/22	黒川野外活動センター	池村 重信
平成27年度	2015	川崎地区	第24期	2015/9/19	青少年の家	渋谷 健太郎
平成29年度	2017	川崎地区	第25期	2017/9/16	黒川野外活動センター	渋谷 健太郎
令和1年度	2019	川崎地区	第26期	2019/8/31	黒川野外活動センター	保坂 陽太
令和3年度	2021	川崎地区	第27期	2021/10/10	青少年の家	井上 景



稿されていますので、転載させていただきます。

(文 境 紳隆)

## G.A.T.C のはじめ

### 近江廣之

〔神奈川県連盟運動史〕（2000年発行）は、GOLDEN AX TRAINING TEAM, ゴールデンアックス（GAT）となっておりますが、私は初めから、GATCと言っており、チームではなく“コース”呼んでおりましたので、今回の呼び名はGATCとします。



1972年（S47）の秋に県連より「年長隊指導者会議」の案内が届きました。この集まりは2回にわたって開催されましたが、川崎地区から参加した指導者は私ともう1人の2名だけでした。会議の内容は、県連コミッショナー陣よりの提案で、第13回世界ジャンボリーで、神奈川県連より8コ隊参加の内の「安土21隊」の隊長を務めた稲葉県副コミッショナーより、参加するための事前訓練によってシニアスカウト達が国際的マナーを身に付け心身共に成長するのを見て、ジャンボリーが終わってもシニアスカウトのやる気を引き出し、ファイトを盛り上げていく方法はないかと考え、県内コミッショナー研修会議にシニアスカウトの合同訓練を提案しました。年長隊指導者会議での決定に続き、県連理事会の決定を経て隊員の募集へと続けました。

当時、私の所属していました川崎第3団では1970年（S45）、やっと年長隊が継続できる見込みが出来、発隊しました。川崎地区では進歩委員長で奉仕し、年長隊としてとしてスカウトとの話し合いでは、高校生になるとボーイスカウトをやめる人が多い。その少ない上進したスカウトは、殆どがシニアスカウトとしてではなく、団の中で準指導者として活動しており、スカウトとしての技能、進歩課程などの活動がなく止まっている。また指導者も少なく、研修所も開かれていない。

このままでは将来も明るいとはとても思えない。

県連主催で、県正副コミッショナーが直接指導に当たり、県内シニアスカウト32名、2コ隊の訓練コースで行事を行うことになりました。

第2隊の指導者は、隊長：稲葉睦美（県副コミッショナー、湘北地区）、副長：鶴飼要三（横浜地区）、副長：近江廣之（川崎地区）、隊付：RS 2名、上級班長：RS 1名の隊編成でした。

私が副長で入ることは、どの様な話があったのか思い出せませんが、とにかく、湘北・横浜・川崎の3地区で行うことになり、川崎地区協議会にてこの訓練会についての県連の方針と、スカウトの募集について説明をいたしました。この時私は32歳、地区進歩委員長でした。

川崎地区は24コ団で、SS隊は15隊150名おりましたが、会社関係の4コ団の参加は望めず、地区内の申し込みは、3団より4名、44団より1名の進歩委員関係の2コ団のみでした。私は自分の力のなさに落ち込みましたが、今日、地区行事として続いていることを思うと、現役の指導者の方々の努力であると、頼もしく思います。

結隊までの間に隊長の稲葉さんとお会いして考えを確認し、より良いお手伝いができるようにするため、何度か“南林間”に伺いました。

初めてお会いする方でしたが、歯医者さんであり、話好きで情熱があり、スカウトの育成に自分で考えあげた意見を持っておられる方でした。この出会いから稲葉さんとの「おつきあい」は何十年も続くとは、この時は思いませんでした。

話はそれますが、何回目からの稲葉宅にて、懐かしい人に会いました。第1回日本ジャンボリーに私のクマ班の班員で参加した酒井君に稲葉宅でお会いしたのです。彼は、日本ジャンボリーの翌年に岐阜の方に引っ越しましたので15年ぶりに会いました。日本大学ローバー隊の立上げの中心で活動したとの事でした。

このような中でGATCへの理解を深め、そして原隊（SS隊員14名のうち4名が参加）の残りの10名のスカウトのプログラムなど準備が整うようまとめ、隊活動と各自の進歩の行程表を作りました。

隼を取る者、富士を目標にする者など各自の目標を決めて活動できるようにしました。

GATCについては、特に新しいものと言うより、各自の考え・発言など落ち着いて行動することが主で、今までの隊活動と同じであり全体の中で他の人と自分を見て、どこをどうなおすか。16WJの隊内の面接会を基にと4人に伝えました。

昭和47年(1968)3月に横浜市婦人コーナーにて結隊式が行われ、全体の流れの説明がありました。第1次訓練は日本連盟那須野営場にて3泊4日で行われました。2コ隊合同プログラムは殆どなく、第2隊としてプログラム展開が行われました。最初の訓練は隊形ドリルであり、これは皆で合わせる気持ちになれば合ってくるものでありますが、一つ気になることが発生しました。少しの休みでもズボンのポケットに手を入れる“くせ”があるスカウトが何人かおり注意しても直らない。最後の日までポケットに手を入れるのは禁止とし、度々注意を行いました。そんな中でも班のチームワークは徐々に良くなってゆきました。パイオニアリングでは起重機を作りうまく仕上がったのですが、私を荷物の代わりに乗せ左右に大きく振ると、吊り下げのロープが切れ、高さ3m位で3～4m飛ばされましたが、そのままうまく受身を取れましたので、何もなかったように起き上がり、

安全についての話をして無事に終わることになりました。

あと、夜の作業としてはテーマに沿った話し合いなどが行われました。

このキャンプが終了後、隊行事で清正公でのリンツ作りや話し合いなどが行われました。

そして夏に韓国行きになりました。下関からフェリーで釜山に渡り、バスで仁川に行き、スカウトは2泊の民泊に参加しましたが、ホテルに戻った時は下痢にかかっており、外国に来たと感じました。

又、韓国ジャンボリーが行われており、そこでジョン・ミトワ<sup>(※)</sup>さんとお会いしました。

小さな思い出は別として、秋に無事終了することが出来ました。全体を見ますと、川崎地区の白梅隊のシニア版で、期間が6ヶ月と長いので、注意して展開すると共に、地区によってシニアに対する対応の仕方が異なり、歴史があるようでない、もっと私自身が実践の中から一步一步前に進むべきと思いました。

あと1年、県連はGATCをやります。

(※)ジョン・ミトワ氏：昭和25年～28年頃に、神奈川連盟理事を務めた方。



## Baltimore-Kawasaki 姉妹都市スカウト交流の誕生秘話

長谷川博之      濱田 雅弘      堂本 暁生



川崎地区の特徴を代表する米国 Baltimore 地区との姉妹都市スカウト交流が今年で 37 年になるが、その生い立ちを振り返ってみたいと思う。

### 何故ボルチモア交流派遣が提案されたのか？

そもそものきっかけは、一つや二つではなく、多岐にわたるもの。

当時の記憶を辿れば、「外国かぶれの、イケイケ集団であった長谷川博之・濱田雅弘・堂本暁生」の3名が川崎地区独自で海外派遣を実行したいと考えていたこと。いつか、「必ず海外のスカウトと自由に交流することが出来る」の思いを、地区委員長である近江廣之氏に相談したところ、興味ある提案であることから、川崎市に太いパイプを持つ古尾谷盛太郎協議会長に繋がり、川崎地区の新たな活動として具体的な検討に入ることとなった。



肝心の交流先については、川崎市の後援を得ることを前提にすることから、姉妹都市でありボーイスカウト活動が盛んな米国メリーランド州ボルチモア市を選定した。

当時の近江地区委員長の回想録には「1984 年 10 月に当時のボルチモア市長であった Mr. William Donald Schaefer 氏（後に州知事）が来川したパーティーに招待もされていない近江が会場に乗り込み直談判してボルチモア市の姉妹都市委員会担当者の Ms. Jean Jan Buskirk さんを紹介され、後日川崎市を通じて話を進めることで一致した。」とあります。

推進する立場の関係者が、今では考えられない少々強引とも思える手法で目標に突き進む古き良き時代であったのでしょう。

偶然なことに、長谷川・濱田・堂本は川崎地区の野営行事委員として活動しているかたわら、それぞれ海外プロジェクトエンジニア・貿易業務・旅行代理店の担当者として勤務しており、比較的海外との接点が多い事も手伝い、交流派遣構想準備は順調に進むことができた。

近江地区委員長も含め我々は 30 歳代であり開拓精神旺盛な時期だったこともこの困難な事業が実現にこぎつけられた要因の一つだったと思う。

このようにして、関係者の想いを行動に変え、周囲の強力な援助を得てこの交流派遣が始まることになる。

現在ほど、通信手段が便利でない時代、海外との通信は高額であり、十分な英語力もないまま、手探りでボルチモア市役所、ボルチモア地区の協力を受け様々なプログラムを立案する。その一つひとつが、スカウティングそのものであったと今でもそう思う。

まさに、自分達のニーズを自分達の手で具現化する作業は苦難の連続でもあったが、そのこと自体が楽しくもあった。

### どのような方法で実現したか？

多くの計画は「目的」「体制」「予算」「日程」等が重要な要素となるが、第一回目の川崎地区の海外派遣、海外渡航が一般的になりつつある時代と言っても、まだ為替は 250 円/\$ くらいであり特別なプログラムであると言っても過言ではなかった。したがって単なる「想い」だけでは実現は難しく、最も大きな課題であったのが、予算の策定であった。

せっかくボルチモア訪問をするのであれば、米国ナショナルジャンボリーが最寄りの AP Hills で開催されるためジャンボリー会場の訪問もしたい、交流したい、米国周辺都市の視察もと盛りだくさんにしたい、しかし、参加費は安くしたいと



の板挟み状態となり、川崎市へ助成をお願いすることにした。

幸い、その当時は川崎市にも姉妹都市委員会が設置されていたことから、市長メッセージを持参のうえ、ボルチモア市を訪問とすることにより川崎地区のボーイスカウト単独のプログラムとならない形式、すなわち姉妹都市交流としての位置づけでスカウト交流ができることになった。

本プログラムを実現するには、当然のこととして、今までのような「勢い」だけで突き進むことはできず、多くの方々の援助と協力を得ていよいよ具体的な派遣隊の編成となる。



記念すべき第一回の派遣隊隊長には井上一彦（故人）、副長には堂本暁生（現・国際委員）、また隊員には現在でも地区役員や団委員長として活躍しているが、実に多士済々の顔ぶれであった。

堂本副長は、その実旅行会社の社員であり、添乗員として業務渡航であったがこの点も費用を削減する苦肉の策として取り分け隊の通訳や移動時には大変な役割を果たしたことは言うまでもない。

ここで第一回派遣隊の堂本氏による思い出の一端を紹介しよう。

## 第1回派遣時の苦労エピソード

第1回派遣から35年のもの歳月が経ちますので記憶が薄らいでいますが思い起こすと、とにかく毎日が初めてのことであり緊張と重圧の連続でした。

ボルチモア在住日系Dr.カシマ氏邸での歓迎会、アダミアックMS達のホームステイやプログラムなどの献身的なホスト、ボルチモア側公式行事、市庁舎ヘドナルドシェファーマー市長の表敬訪問、雄大なアメリカナショナルジャンボリー見学、DRフルカワご夫妻の滞在中のご協力などが記憶によりみあがります。満足な語学力もないまま、異文化に戸惑い井上隊長と何度も汗をかいた事を思い出しました。

特に記憶があったのは、公式行事の最終ボルチモア市庁舎へ表敬訪問をした日でした。

ボルチモア市長へ川崎市市長の親書を井上隊長がお渡しさせて頂き、スカウトには、ボルチモア市長からボルチモア名誉市民賞をひとりずつ渡され感動と緊張が続きました。



第一回派遣隊 1985年

この日の公式行事を無事に終えホームステイ先に戻ったら井上隊長は、何も言わず制服を着たままベッドに倒れ寝てしまいました。夕食時間になっても全く起きる気配がなく、朝まで寝ていました。緊張の連続で大役を果たし、精根尽き果て寝てしまったと思いました。

今改めて思い起こすと、この派遣がスカウト相互交流の基礎を作り、三十数年間の歴史を作ったと確信しました。

## 軌道に乗るまでの苦労と喜び

第1回の派遣隊の指導者は前述のように緊張と重圧の連続であったわけであるが、経験が生かされて第2回の受け入れプログラムが展開されることになる。

しかし、地区としても初めての経験であり、HFへの説明も、滞在中のプログラムも、受け入れる体制も今思えば十分ではなかった。だからこそ、ボルチモア側も川崎側も互いの立場を尊重し、一つひとつ解決し成功に導いた。このお互いの立場を尊重し何事にも対処してきた歴史が、現在にも生きているのだろう。



この後我々は 10 周年までの成功を目指し、第 3 回に近江隊長以下 15 名、第 4 回に Robert Williams 隊長以下 15 名、第 5 回に濱田隊長以下 15 名、第 6 回に Howard Rutherford 隊長以下 16 名、第 7 回には長谷川隊長以下 13 名、第 8 回には Ray Allen 隊長以下 12 名、第 9 回には小池隊長以下 20 名、第 10 回には Eugene Ruhl 以下 17 名という派遣隊の相互訪問が毎年繰り返された。



その結果、訪米時には Broad Creek Memorial Reservation キャンプ場での合同キャンプとホームステイ、来日時には Funny Bear Camp と呼ばれる合同キャンプと富士登山ならびにホームステイが定着化し、現在もこれが基本プログラムとなっている。



それでも、このプログラムを長く継続させるためには、相互に遠慮があってはならず、推進する原則として、「カイゼン（改善）」に取り組み、そのためには相互の意見を出し合い、理解し合うことが合意された。現在も行われている訪問地での「Leader's Meeting」はその一つである。

現在のスカウト

交流派遣は、少しの変更はあるのだろうが全体的なプログラムは完成形に近づきつつあると考えている。



本プログラムを推進してきたコーディネーターの一人として軌道に乗るまでの苦労については、その時々に対応に追われ、最善と思われる選択をしてきたことがそれにあたるのかと思うほどに苦労と感じていない。

## 国際社会への飛躍

さて、草創期を 10 周年までと位置付けるとするならば、そこに参加したスカウトが国際社会へ飛躍した一部を紹介したい。

第 8 回（1992 年）

派遣隊の参加スカウトであった Chris

Yakaitis 氏は二年後に指導者として再来日、日本文化に興味

を持ち、大学を卒業後英語教師として岡山県で教鞭をとった。



また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。

また、第 9 回（1993 年）派遣隊に参加した折笠

彰氏は、自分の夢を追って留学のために渡米、その後インダストリアル・ライト & マジック（I L M）に就職しジョージ・ルーカスの映画スターウォーズの制作にテクニカル・ディレクターとして携わり、家族を持ち米国で活躍をしている。



この二人の例のほかにも、このプログラムをとおりて国際社会に飛び出し、留学・就職・国際結婚など自己の人生に大きな影響があったスカウトも多い。それぞれが自身の人生指針を求めた結果であろう。

この素晴らしいプログラムに参加した沢山のスカウトは、人生に残る特別な思い出を持ったと思う。

それは多分に「思い出は時間の経過と共に美化される」からなのかも知れない。

## 限りない未来に向けて

世界的に大流行している COVID-19 の対応はこの活動を展開するにあたり、新たな脅威、悩みとなっている。

現代のキーワードとなっている「持続性」、SDGs

の開発目標、Safe from Harmなどの取り組みなどは現代社会で求められている重要な項目となっている。

2021 年に延期された東京オリンピックのビジョンの一つに加えられた、多様性などを含めた従来にない様々な事項を考慮することが新たな課題となるのだろう。

私たちの喜びは、スカウト自身が異なる環境、文化、考え方を体験し、それを自分自身で考える良い機会の提供ができることである。

且つ、スカウト自身がこのプログラムを通して互いを認めあうこと、そして更なる成長にとつな

がる場となれば、それに代わる喜びはない。

当時から現在まで変わらないモットーとして「より良い試行錯誤」がある。このところのコロナ騒動で 2020 年から 2022 年の間の相互訪問が延期となっているが、双方の指導者とスカウトが協力してバーチャル WEB 交流を実施している。

これまでも、そしてこれからもこの試行錯誤の気持ちを持ち続けたい。

そして今年こそ第 29 回 Baltimore/川崎 姉妹都市スカウト交流が再開できることを、関係者一同が望んでいる。

(完)



30 年目の再会 (2019 年 11 月)

Rutherford 家 来日歓迎会にて



# 賛助会の歴史 設立～現在に至るまで

日本ボースカウト川崎地区賛助会

## 1. 設立の時代背景

1984年(昭和59年)当時は川崎地区の個人登録費は100円/年でしたが、県内の他地区では500円が中心でした。そこで、川崎地区の目標を第一段階で300円(1984年より)、第二段階で500円(1988年より)に値上げすることが近江地区委員長を中心に検討されていました。

同時に財源を地区登録費のみに頼るのではなく、地区の財政を支援する構想として「賛助会」を発足することが検討されていました。

当面は登録費の値上げにより、地区財政は安定してゆくことが可能と判断されましたが、その登録費で運営が難しくなるまでの間に、賛助会の運営を大きくし賛助金の収入を図るという計画が地区内で話し合いされました。

古尾谷協議会長や近江地区委員長や伊奈財政委員長が中心となり賛助会設立の構想を進めるため会合を重ねて基本構想を確立することができました。

## 2. 賛助会設立

1984年(昭和59年)4月に地区委員会にて近江地区委員長から「賛助会」の設立を発議し、5月から設立準備委員会として財政委員会を中心にメンバーを組み、伊奈財政委員長を準備委員長として、名称・位置づけ・目的・組織などを検討後、会則が作成されました。

地区委員会と財政委員会のメンバーが議論を重ね、同時に先輩方の力をお借りし1985年(昭和60年)7月7日に設立総会を開催し、正式に「日本ボースカウト川崎地区賛助会」が発足することができました。

設立総会は1985年(昭和60年)7月7日に川崎市総合自治会館にて開催されました。

総会当日では会長として石井英夫氏、副会長に堀田利則氏、出竹東吾氏、事務局長に伊奈忍氏、次長に萩原伸咲氏、会計に楠明氏、その他の理事を含め役員20名が選出されました。

議題では、活動5ヶ年計画を提出し、賛助会基金として一千万円を目標とし、これの運用益は年間60万円(金利6%)を見込みその運用益で川崎地区協議会に賛助する高い目標を立てました。

設立時の会員は、個人66名、9団体、2法人でスタートして川崎地区のボースカウト活動の発展に寄与できるとの信念と未来への期待を膨らませてのスタートでした。

## 3. 賛助会の活動(収益事業)

賛助会と地区協議会は、賛助会ができてからすぐに共同の行事を行うようになります。

1986年(昭和61年)4月から62年3月より、賛助会の事業は地区協議会の協力を得て、地区ラリーの会場での売店運営、第1回のゴルフコンペ、第2回の地区ニューイヤーパーティーでのアトラクション、地区広報紙「たまがわ」への一般広告、本格的ダンスパーティーなど次々と実施することができました。

### (1) 第1回 ビッグバンド DE ダンス '87

最大のイベントは、伊奈事務局長(当時)の発案で「第1回 ビッグバンド DE ダンス '87」を2月に開催したことであります。当時、国内では最も有名なビッグバンドであった「原信夫とシャープス・アンド・フラッツ」や「ブルーコーツ」の生演奏で本格的なダンスパーティーを開くと言う画期的な発案でありました。

場所は武蔵小杉にあった「中小企業婦人会館」でした。そして多くの参加者があり盛大に開催され収益面でも大成功でした。

この行事によって一般の方々がボーイスカウト活動を少しでも理解していただくと共に、ダンスを楽しんでいただけたという満足感、神奈川連盟の理事長やアメリカ大使館のボーイスカウト隊関係者の方々も何回かご招待できましたこと、また奉仕の隊指導者やローバースカウトが毎回約20名もお手伝いいただいたことへの感謝の念を強く持ちました。そして1986年から1992年の7年間も開催することが出来ました。

この7年間におけるダンスパーティー開催収益は合計で4,911,944円になりました。



ダンスの様子



原信夫とシャープ&フラッツ

## (2) アゼリアカップ・ゴルフ大会

資金造成のため当時盛んにおこなわれていましたゴルフ大会を行う企画が立てられました。第1回は1986年に小田急藤沢ゴルフクラブで開催されました。

その間東名カントリークラブ、厚木国際カントリー倶楽部などで5組(20名)が参加して盛大に行われました。表彰式の後の懇親会ではゴルフ談議に花が咲きとても楽しい親睦ゴルフ大会でした。

しかし参加者の高齢に伴い2011年の厚木国際カントリー倶楽部を最後に本大会は残念ながら終止符を打ちことになりました。収益金は開催された26年間で2,537,268 円になりました。

## (3) 地区ラリー・ビーバー祭りの売店

1985年の秋の川崎地区ラリーに売店を開きたいとの希望を地区にお願いし、テーブル・イス・マーキーテントを設置していただき売店を開くことができました。

地区ラリーおよびビーバー祭りに売店を出させていただき売り上げを計上、2010年まで地区行事に売店を出すことができました。商品は手製の革製のチーフリング、BSAのボースカウトグッズ・シャツ、ボルチモアのグッズ、記念行事のワッペン、木工の小さなナイフの飾り物などでした。



## (4) ニューイヤーパーティー

地区協議会と1986年から共同開催してから現在まで続けられており、毎年1月に開催しております。賛助会はこの会の一時間半を使わせていただき、参加の方々の提供品をオークションにかけ賛助会の資金造成の場として利用させていただ



いており大変ありがたいことです。

その収益を平均してみますと、1988年に13万8千円、1999～2002年に20万2千円、2003～2019年は15万4千円と30年間安定した財源になっております。

オークションは日用品、手芸品、観葉植物、酒類、ボースカウト用品など様々な品物、また米田先生のパステル画など高価なものもあり、参加者はセリ上がりを楽しみながらまた他団の指導者との交流の場として新年に相応しい行事です。

#### 4. 基金の推移

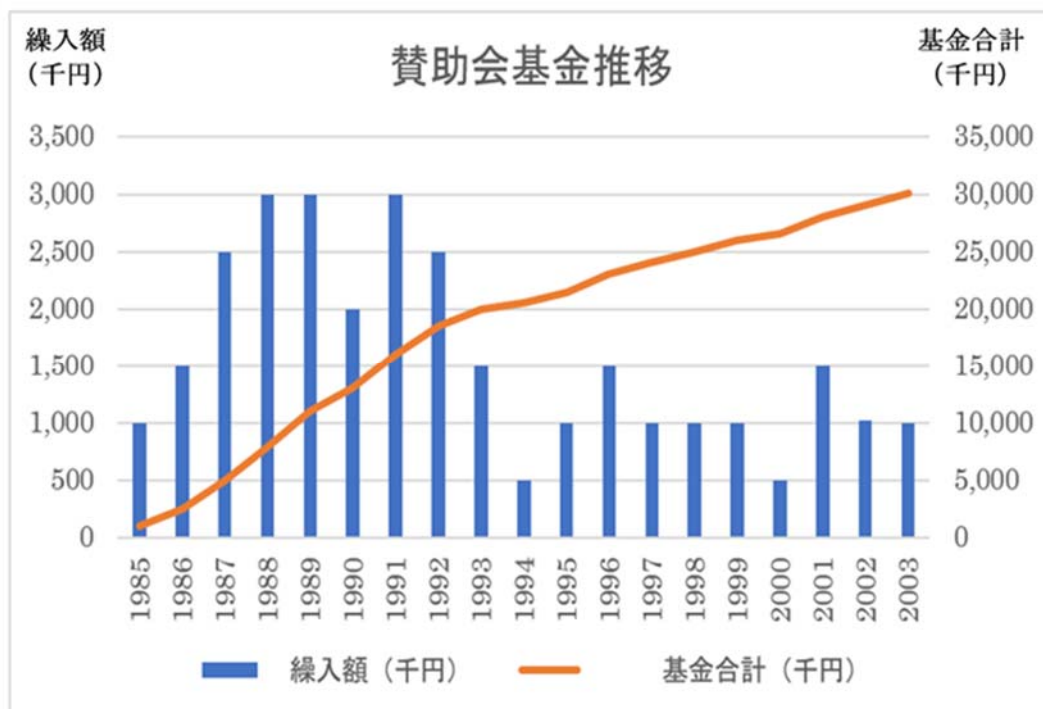
前述の通り1985年の総会で活動5ヶ年計画を提出し、賛助会基金として一千万円を目標とし、これの運用益は年間60万円（金利6%）を見込みその運用益で川崎地区協議会に賛助する高い目標を立てました。

その後に、賛助金基金を3,000万円の目標を立てました。そのころの金利は6%前後でありその運用益を180万円と想定し一日も早く3,000万円の積み立てに向かって全員で力を合わせて走り出しました。

その結果4年後に1,000万円、8年後に2,000万円、18年後（2003年）に3,000万円の目標を達成することができました。

これもひとえに川崎地区協議会のご協力会員の方々のご努力の賜物と占紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

下記表は2003年までの賛助会基金の推移です。以降この基金を維持しながら川崎地区へ援助を継続しております。



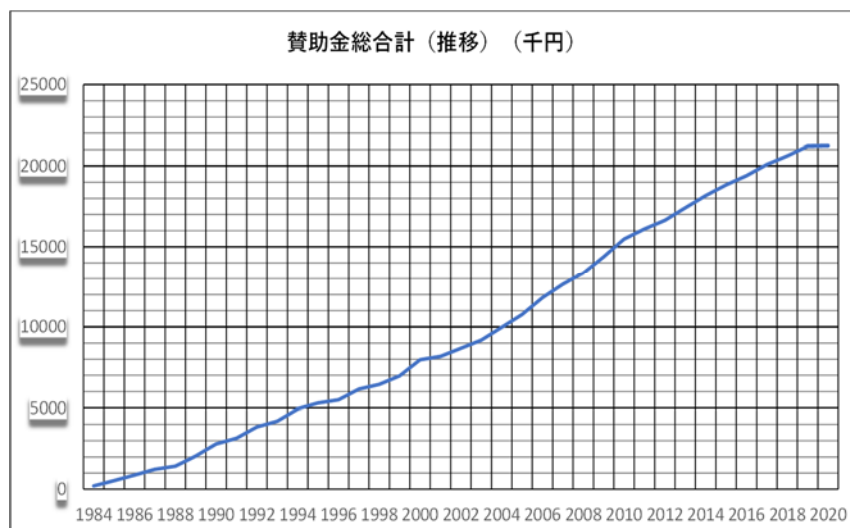


## 5. 賛助金総合計（推移）と主な賛助事業について

1985年に本会が発足以来、今日まで賛助してまいりました金額は約2,146万円となり、以下のような推移を示しております。

私共の主な賛助事業は以下に示します。

- ① Baltimore—川崎  
スカウト交流
- ② AKSC
- ③ ジャンボリー、  
キャンボリー
- ④ ビーバー祭り
- ⑤ 地区ラリー
- ⑥ 各種記念事業
- ⑦ 白梅隊
- ⑧ BP祭
- ⑨ 各種講習会・勉強会
- ⑩ その他



今後も皆さまのご協力を賜り、川崎地区協議会の運営に対し有効な賛助を実施して参ります。

## 6. 主な出来事

1984年	賛助会設立準備（昭和59年）	
1985年	ボースカウト川崎地区賛助会設立（昭和60年）	
	初代会長 石井 英夫 就任	
	第1回ボルチモア市交流派遣隊特別賛助金	100,000円
1986年	AKSC(全川崎リーダー合同研修会)特別賛助金	150,000円
1989年	第10回神奈川キャンボリー(10KC)特別賛助金	300,000円
1989年	基金10,000,000円達成	
1990年	川崎地区協議会創立40周年記念事業特別賛助金	500,000円
1993年	基金20,000,000円達成	
1994年	地区ラリー 賛助会創立10周年特別賛助	300,000円
2000年	川崎地区創立50周年特別賛助金	600,000円
2001年	2代目会長 渡邊 宗男 就任	
2003年	基金30,000,000円達成	
2004年	パソコン用液晶プロジェクター1式 創立20周年特別賛助金	300,000円
2015年	3代目会長 木村 耕三 就任	
2016年	機関紙「ブーメラン」第1号発刊	
2020年	コロナの影響により地区行事が縮小され、BS講習会のみに賛助	

# ボーイスカウト活動と川崎市青少年の家

## 1. 川崎市青少年の家の歩み

- ・昭和17年(1942)秋、東部62部隊が600町歩(600ha)に通称「溝の口演習場」を開設。後に「少年の家」になる建物は“将校集会所”として建設・利用された。
- ・昭和22年(1947)11月～昭和34年(1959)3月「川崎市立宮崎学園」
- ・昭和34年(1959)7月～昭和38年(1963)3月「少年の家」川崎市教育委員会学校教育課所管。夏期に児童生徒の宿泊訓練場、中学生カウセリング場に使用された。
- ・昭和37年(1962)プール(15m×8m)完成。当時は学校プールが未整備で人気があった。
- ・昭和38年(1963)4月～川崎市教育委員会社会教育課所管(青少年育成連盟所管課)児童生徒の宿泊訓練場、勤労青少年宿泊研修場として企業が多く利用した。
- ・昭和41年(1966)旧新館1階完成、昭和42年(1967)旧新館2階完成「青少年の家」に改称。
- ・昭和63年(1988)7月現建物竣工「川崎市青少年の家」に改称、現在に至る。

(川崎市青少年の家50周年史より抜粋)

昭和38年4月から「少年の家」が社会教育課の所管に替わり秋山六郎課長がその責任者となった。加瀬地区の団創設を応援し、川崎第38団の発団を果たした。

社会教育課職員の長谷川雅秀氏は昭和41年6月から少年の家専従になり後に初代所長を務めた。川崎第39団発団時の団委員長、地区事務長、コミッショナーを歴任した。



(左端) 長谷川雅秀氏、(中央) 秋山六郎氏

## 2. ボーイスカウトの関り

川崎地区で指導者講習会を開催した記録が残っているのは昭和35年度(1960)からである。当時の講習会は1泊5日(3日間夜間2時間座講、土曜日夜集合1泊、日曜日座講、ハイキングがあり午後遅く修了式)で行われた。少年部(BS)、年少部(CS)に分かれていて内容は違っていたが日程は同じだった。現在の研修所で行っている同レベルの内容を指導者講習会で教育していたと言われている。1泊2日の指導者講習会場に「少年の家」が利用されているが、特に昭和38年(1963)4月社会教育課所管に替わってからBSの利用が多くなっている。指導者冬季訓練会、少年隊(BS)、年長隊(SS)、青年隊(RS)と隊毎の指導者訓練や、各白梅隊訓練等の宿泊研修に(当時の白梅隊は1泊2日で行われていた)



利用されていた。地区の宿泊研修の利用回数は年間5～8回程度であり、地区行事以外に個々に団、隊の利用があったが把握できていない。現在の施設になる以前のことである。

「少年の家」へ初めて行ったのは、昭和37年(1962)10月受講した指導者講習会で1泊2日の最後の研修だった。建物(旧将校集会所)の研修室は、50畳、70畳の和室で長机を出して座って受講した。食事はその部屋で食べて、寝る際には机を片付けて個々に押し入れから布団を出して雑魚寝だった。朝は布団を片付けてから掃除で、長い廊下の雑巾がけは小学校の掃除を思い出させた。外へ出ると草むらの中に馬小屋や馬の洗い場があり“お化け灯籠”の傍には高射砲のコンクリート製台座が残っていた。

(文 渡部 公)

## 川崎市黒川青少年野外活動センター

昭和 57 年（1982 年）、川崎市立柿生小学校黒川分校は、近隣に栗木台小学校が開校されたことに伴い閉校。昭和 58 年 4 月に「(仮称)黒川青少年野外活動センター」として暫定的に開所した。

この頃、ボーイスカウト川崎地区にも話があり、野営行事委員会メンバーを中心に、体験宿泊を兼ねて下見。当時の野営行事委員会のメンバーは、委員長が長谷川さん、副委員長が濱田さんで、堂本さんや境が所属していた。現地区委員長の北條さんは、丁度この頃、野営行事委員会に参加されたように記憶している。

小学校（分校）が廃校になった直後で、黒板はそのまま、教室には学習机が沢山残っており、その机を並べて寝床にした事を覚えている。

その後川崎市は、暫定利用を続けながら関係各所に諮り、利用方針の検討を続け、平成元年 5 月に「(仮称)黒川青少年野外活動センター基本計画策定委員会」を設置、平成 2 年夏の利

用を最後に「旧柿生小学校黒川分校」を解体、平成 3 年 8 月 1 日、現「黒川青少年野外活動センター」が完成・オープンした。

長らく「財団法人川崎市生涯学習振興事業団」が管理されていたが、管理方式の変更に伴い平成 17 年 4 月に川崎市に返還され、翌平成 18 年 4 月より川崎市の指定管理者として「特定非営利活動法人国際自然大学校」が管理を受託し現在に至る。

地元の川崎第 43 団は親しく利用され、施設整備等奉仕にも積極的に参加している。地区としても、B&K 交流「さよならパーティー」会場として定期的に使用している他、各種地区行事の会場として活用させて頂いている。

最近では、神奈川連盟が主催するウッドバッジ（WB）研修所スカウトコースの会場としても利用する等、私達の活動に不可欠な存在となっている。

(文 境 紳隆)



現在の施設外観



ボルチモア交流・さよならパーティー



自然体験フェスティバル(センター主催)奉仕



43団スカウトフェスティバル



## 川崎市国際交流センター

川崎市国際交流センターは、中原区木月祇園町にある国際交流施設である。川崎地区では国際交流プログラム(ボルチモア&川崎スカウト交流派遣事業等)を中心に広く利用させて戴いている。

1994年(平成6年)10月に、「市民と在住外国人との交流、外国人を対象とした支援活動や講座等を行う施設として開館した。それ以前は法政大学のグラウンドであった。平成初期頃に法政大学から川崎市が用地を取得した。今、コンビニエンスストアのある辺りに昔法政大学水球部のプールがあり、夏休みには近隣の子供達に僅かな金額で開放されていた。数十円を握りしめてプールに通った思い出のあるスカウト関係者も居る。

2011年(平成23年)から指定管理者制度が導入され、現在は(公財)川崎市国際交流協会・(株)東急コミュニティ共同事業体が管理・運営を担当している。

近隣団の活動場所としても活用されている。

(文 境 紳隆)



施設外観



施設外観



ボルチモア歓迎会



育連事務室

## てくのかわさき

ボーイスカウト川崎地区が加盟する川崎市青少年育成連盟の事務所が所在する市の施設。平成18年4月に南武線 JR 武蔵中原駅前のエポック中原から現在地に移転している。

川崎市青少年育成連盟は、川崎地区の黎明期より、市内の青少年団体相互の交流と、行政をつなぐ組織として活動している。公共の建物の一角に事務所を提供していただいていることは、大変恵まれた活動環境といっている。

事務室での地区各種委員会の小規模なミーティングから、平日の遅い時間まで利用できる会議室、ホールなどでの大規模な会合と、地区の様々な活動で利用させていただいている。

最寄りの溝の口駅からも近く、調理室もあり自前で調理することができることから、近年、ボルチモア歓迎会の会場としての利用も計画されているが、コロナ禍のため交流の延期が続いているのが真に残念である。

(文 杉浦正明)

# 座談会「われらが青春時代の話しよう」

## 出席者（敬称略）

濱田雅弘（司会）：地区副委員長、  
第 56 団 団委員長（元第 3 団）  
境 紳隆：地区協議会長、  
第 57 団 VS 隊長（元第 40 団）  
北條賢一：地区委員長、  
第 39 団 RS 隊長  
木村寿宏：地区副コミッショナー、  
第 54 団 VS 副長  
林剛一郎：地区スカウト支援委員長、  
第 39 団 RS 副長（元第 5 団）  
井上 景：地区スカウト支援委員会スカウト担当長、  
第 39 団 CS 隊長  
森本正則：地区事務長（元第 44 団）

## オンライン参加

北村岳人：地区コミッショナー、  
第 46 団 RS 隊長  
栗田哲郎：地区副コミッショナー、  
第 57 団 BVS 隊長（元第 40 団）  
渋谷健太郎：地区進歩委員長、  
第 46 団 VS 隊長

## 編集担当：総務委員会

鈴木貞弘（第 22 団）、  
渡辺悦男（第 43 団）、  
竹ノ内博美（第 56 団）



川崎地区を牽引する中心メンバーの多くは、  
かつてスカウトとして川崎の団で活動し、青春時代を過ごした。  
そのスカウト時代の絆はいまも続き、地区を支えている。  
今回一同に会して、スカウト時代の思い出を語っていただいた。  
そこにはボーイスカウトの「川崎らしさ」があり、  
これからも受け継がれてゆくべきスピリットがあった。

## ボーイスカウト、川崎地区との出会い

**濱田** スカウトとして川崎で育って、川崎地区を支えてくれているみなさんに集まっていただきました。今日はいろんな話をできればと思います。まずはスカウト活動の始まりと地区での活動のきっかけから。



**境** 昭和 43 年 6 月に御岳山でカブ隊入隊。地区はローバーになって野営行事委員会に入った。委員長が長谷川さん、副委員長が濱田さん、そして堂本さんがいた。



**北條** 昭和 48 年に小 2 で 39 団に入団。地区の活動は中 2 の時にオーバーナイトハイイクで市内を歩いたのが最初。多摩高校に 50 人くらい集まった。大人になってからは、長谷川さんから声がかかり、39 団のスカウトハウスに呼び出されて野営行事委員会に。毎週のように集まってずいぶんいろいろ教わった。境さん、池村さん、小坂さん（故人 3 団）、いろんな人と出会って、そしてあっという間に今の時代になった。



**木村** 昭和 56 年、小 6 の時に西宮から 47 団に転団、その後 39 団に移籍。佐藤隊長、北條副長だった。そして 54 団ができて再び移籍。地区との関わりは白梅隊が最初。大学 1 年の時に国際委員会。長谷川委員長、濱田副委員長、北見方のハウスで活動した。そして進歩委員会に。



**森本** 木村君と同期で、44 団。でも入団した記憶がない。何故かというと 4 つ上に兄がいて、幼稚園の時からカブについていて、舎営なども行っていた。



**北條** 森本さんの家はスカウト一家だからね。

**森本** 家が団会議の場所だった（笑）。

**森本** 地区の活動は白梅隊の隊付が最初。

**井上** 北條さんの下で昭和 49 年に 39 団カブ隊に入隊。地区はゴールデンアックスから。海上自衛隊に行ったのが最初。ローバーで地区の広報、2 年で委員長になり、10 年近くやって、その後ゴールデンアックスの隊長に。それからベンチャー委員会に所属した。



**林** 井上君と同期。小 5 のシカから入隊。白梅隊とは縁がなかった。地区の活動はゴールデンアックスから。ゴールデンアックスで井上たちと知り合って。当時富士章を取ったらシニア特別委員会って決まってて、以来ゴールデンアックス、白梅隊にずっと携わっている。



**栗田** 小 2、ウサギから。白梅隊が地区の活動の最初。ローバーでボーイ隊の副長になり、隊長を 15 年くらいやった。地区ではずっと進歩委員会に所属して活動してきた。





**北村** リスから。ウサギの時に山中野営場で地区の 30 周年キャンポリーに参加した。何度も行った山中との出会い。土砂降りで記憶が鮮明（笑）。

ローバーの時に指導者登録をして、ボーイ、ベンチャー、カブ、ローバーでリーダーを続けている。地区の活動参加はゴー



川崎地区 30 周年キャンポリー

ルデンアックスから。40 周年の時から進歩委員会に所属して栗田さんと一緒に活動した。進歩委員会には田島さん、内田さん、大橋さんがいらして、大橋さんにはトレーニングの道をつくっていただいた。

**渋谷** 僕は北村さんのひとまわり下で、シカから。地区との関わりはスカウトとして白梅隊に参加したのが最初。翌年隊付をやって、それ以来白梅隊の奉仕がいちばん多い。ゴールデンアックスも 4、5 回リーダーをやった。隊長も 2 回。ローバーの時に指導者登録をしてベンチャー隊でリーダーをやっている。地区では野営行事委員会、進歩委員会両方とつながりがあって、今に至っている



## ジャンボリー、ボルチモア、地区ラリーなど

**濱田** こうやってみると、白梅隊、ゴールデン

アックスというのが地区とつながるきっかけではあるね。他にも地区ラリーやボルチモア派遣、ジャンボリー、地区キャンポリーなどもあるよね。

**森本** ジャンボリーは 9NJ と 10NJ で副長補、副長をやった。木村君は 9NJ で隊付。境さんは？

**境** 8NJ で GHQ 奉仕、9NJ で橋本隊の副長をやった。13NJ で木村君たちと一緒に隊長をやった。

**木村** 13NJ の隊長やった時は、水はけが悪くて。突飛な発想で床上げして。座敷みたいに。畳敷きみたいな雰囲気だった（笑）。

**渋谷** 12NJ の時はほとんど雨。土砂降りだった。ジャンボリーは雨が多いからビーチマット持って行って。斜面にテント張って、雨を流して（笑）。雨を楽しむことって大事。

**栗田** 8NJ、9NJ も台風で。夜中ずっとポールを押さえていた（笑）。



8NJ の参加カード

**北村** 10NJ に参加。選ばれてジャンボリーに行くという誇りがあった。受験勉強どころじゃない（笑）。

**森本** 地区ラリーは等々力、白梅隊は南多摩、インディアンズラリーもあった。



インディアンズラリー (1986 年)

**井上** インディアンの格好をして、部族をみんなで作って。写真が残ってる。看板作りが間に合わなくて、その場で作っていた。夜のうちに作ったり…。ジャンボリーは 9NJ、11NJ に参加している。

**北條** 11NJ のテレホンカード。(と持参した大分県久住高原のテレホンカードを見せる)井上景ちゃんからおみやげにもらった。

**森本** 電話かけるテントがあったよ。公衆電話が。川崎の隊同士も有線で引いていた。懐かしい。

**境** ハンドルを回して電話をかけるやつだったね。

**境** 長谷川さんが電線会社勤務だったからどこかから見つけて持ってきたらしい。

**北條** 郵便局があって、その消印があったね。

**林** 第 1 回のボルチモア派遣に井上と一緒に参加した。貧乏旅行だった。一人 5 ドルで夕飯食べて。

**北條** ケンタッキーでナインピースを 9 (きゅう) ピースと言ったり (笑)。結構貧乏旅行だったね。安いタコスとかばかりだったなあ。

**境** 池村と「米国建国 200 年祭記念派遣」に参加した時 (昭和 51 年) は当時のお金で 40 万位かった。1 ドル 360 円だったかな。



ボルチモア派遣 (1987 年)

**濱田** ボルチモアは川崎市に支援していただけて行くことができた。貧乏旅行というけど、当時は海外派遣が特別なものだった。ある意味、豪華旅行だよ。川崎からリムジンバスで、成田の特別室で壮行会をしてくれた。ディズニーランドもついていた。川崎地区に勢いがあったね。古尾谷さん、近江さんなどががんばって。僕は 3 団の近江隊長のスパルタ指導の下で育ってきた。ゴールデンアックス第 1 期の時は 72 年、高校 3 年でシニアスカウトだった。神奈川連盟としての取り組みで、副長が近江さん。そういえば粗食の日なんてのもあったな。夜豪華にやりたいて言ったら、近江さんに怒られて。近江さんのひと声で粗食の日。

**北條** 朝昼、食パンだけ。食べられないという経験。

**境** 「粗食の日」は原隊のプログラムにあった。

**濱田** 粗食の日、もともとはカネがなかったただけけど (笑)。当時、その定義は理解できなかった。

**北條** 濱田さんが近江さんに雨プロを相談したら、「そう言うから雨が降るんだ」と怒られて、雨プロなかったという記憶が (笑)。

**濱田** 「雨は降らねえんだ」で決まってしまった（笑）。地区ラリーの運動会、近江さんはトラック競技を五角形にしようって。走れないのが面白い、転んだりするのが面白いと（笑）。突飛もないことをやるプログラムが多かった。我々はそういう中で育った。



GATC9 期のオーバーナイトハイク

**井上** 大人も大工、運送屋、いろんな人がいたね。体が動く人がたくさんいて、どんなこともやってしまう。今はサラリーマン化してしまったけど。体が動く人がいて、思いつきがかたちになってしまって、それが面白かった。

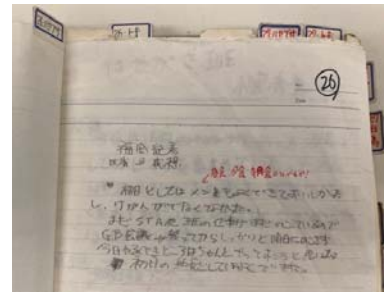


GATC17 期のファイル

**境** 川崎チームで全部、建築工事も電気工事もできた。人材が揃っていた。

**濱田** ダンスパーティーもやったりした。伊奈さんのおかげでシャープ＆フラッツが来てくれて、結構資金を稼げたと思う。チケットを2500 円くらいで、ダンスの人たちにすると、演奏が生なんてすごい。青少年のために安いギャラでね。勢いがあった時代だね。

**木村** 昭和 62 年、南多摩でやった白梅隊の時の毎日の反省文を持って来たんだけど。僕は上班で、班のスカウトに福田紀彦がいた。まさか 20 数年後に彼が市長になるとは。そして一緒に仕事することになるとは夢にも思わなかった（笑）。



福田市長の白梅隊初日の反省文

**林** あのころの白梅隊、厳しかったよね。

**北條** 手元にプログラムが残っている。4 泊 5 日、南多摩。52 団の野営場。清水さんのお父さんが隊長。

**森本** 石井団委員長が昭和 33 年、白梅隊の第 1 期？ 1 団の島田さんが隊長。試験的にやってる。

**北條** 白梅隊は第 1 期を確定するのが難しくて、「紀元前」って呼んでる。

**北村** 昔は合同のキャンプやオーバーナイトハイクが多かった。ボーイの隊長はみんな 20 代で。怖いけどカッコいい。憧れた。早く班長になりたかった。



白梅隊の歴代の参加章



## 団を超えた付き合い

**濱田** 3 団、5 団、39 団、一緒に活動していたね。ローバーが大きかったの。宇奈根のキャンプなど。野営行事委員会から派生して、ファミリーレストランにいつの間にか集まるように。行けば必ず誰かがいる、団ハウス化してたね（笑）。

**井上** 携帯がないから、そうやって集まって会うしかない（笑）。

**北條** 5 団の赤いジャンパーがうらやましくて、39 団も作った。ローバー年代、当時は大学のサークルみたいにスタジャン作る感じだった。

**井上** バス旅行企画してマザー牧場や水族館にいったり、大学のサークルの感じだったね。

**境** 学生寮にいたけど、週末は活動のために帰ってきていた。

**濱田** 横浜にハーバートップというローバーを大人にした人たちがいて。それに対抗して川崎でもリバーサイドというのを作って。流行っていたアイビーに倣って、エンブレムやブレザーを作って。5 団の井上さんが、「社会人になるにあたって趣味がボーイスカウトでは通用しない、特技縄結びでは通用しない。もっと勉強しなくちゃダメなんだ」ってダンスを覚えたりとかね。そういう非公式なグループもあった。

**北條** 長谷川さんと井上さんがギター持ってきたら、濱田さんが不良外人かと思ったんだって（笑）。

**境** アメリカングラフィティの世界だった。

**木村** 野行グループと進歩グループがあった。進歩委員会は田島、水野両巨頭が教育係で。

**栗田** 野行のメンバーと進歩のメンバーって個



地区ラリー（1994 年）

性は違うけど、仲がいいんだよね。今日の面々を見るとよくわかる。

**井上** 野行はイベント系と土方系。平和公園に舞台作ったりした。

**北條** キャンボリーで構造物をその場で作っていた。体育館ででかいの作って、出せなくなったり（笑）。4 トン車で運んだよね。朝霧の 11KC（神奈川キャンボリー）だったかな。

**井上** テレビ制作の専門学校にいたので、若い自分は面白かった。好きなようにできたし。いろんな演出をやらしてもらった。



地区ラリー（1991 年）

**北條** 40 周年キャンボリー、面白かった。松居直美が来てね。30 周年の時は山中野営場でボーイ以上が野営。若い世代が面白くて。好きなようにできた、セットとかも。20 代で経験できないことができた。はまったなあ。50 周年の時は八ヶ岳でやったね。歌を作ったりした。若手ががんばってくれた。

**境** 結婚式はボーイスカウトだらけだったなあ。どこの団もね。

**濱田** 新婚カップルができると、

**境** ビデオ作って。

**北條** 実家とかに撮りに行って、バラエティ番組みたいにロケやって、音楽入れて、結婚式、二次会で映写して盛り上げていたなあ。

**濱田** 純粹にみんな楽しんでいたよね。

**北條** 8NJ は濱田さんが隊長で、新婚だった。

**濱田** ジャンボリー終わったら、

**井上** 人の家と自分の家がわからない人がいた（笑）。

**北條** 人の家で風呂入って、ご飯食べてた。濱田さんちも長谷川さんちもそうだったね。

**井上** ご飯ある？って来る人いたもんね。長谷川さんの家とか、帰りに寄ったら北條さんが風呂に入ってた（笑）。

**北條** 不思議なもんで、用意されてたなあ（笑）。

### 「川崎らしさ」を次の世代、次の時代へ

**北村** 川崎地区って川崎市という行政と一致してるせいもあるけど、団を超えた交流があって風通しがいい。それぞれの団のカラーが混ざって新しい個性になる。それが「川崎らしさ」につながっていると思う。

**栗田** 新しい人にどんどん出てきてほしい。次の世代を育てるのが我々の使命だと思う。

**北村** 「人材」じゃなくて「人財」。川崎にはこの「人財」がたくさんいた。その土壌の上に、新しい「人財」が出てきてほしい。

**井上** 我々の次の世代に上手くつながらなかった反省がある。

**境** 最近のメンバーと古いメンバーと個性が違う。

**北條** 数の論理もあるだろう。ローバーが10人、15人いたから。

**井上** 多様化を許されない雰囲気があるのでは？研修とか厳しくなっているし。大人もだけど、サラリーマン化しているように感じる。

**木村** 景さんみたいな人でなければダメだけど。

**北條** 景の言った自分の企画が通る楽しさ、最近ないかもしれないね。新しい人たちでそういう雰囲気をつくってほしい。

**井上** 成功体験になるしね、自分の企画が通ると。

**北條** 濱田さんを中心に近江さんたちのスカウト魂が受け継がれ、自分たちの企画が通ることが将来につながっていく。



40年前の濱田さん

**井上** スカウトも大人も面白い人がいてほしい。技術を持った人も手伝ってほしい。

**渋谷** 今日のメンバーの中では最年少だけど。同じ世代の仲間をつくっていきたい。スカウト経験者もカムバックして、地区で活動してほしい。

**栗田** 地区にスカウト経験者が少なくなってきたよね。スカウトの経験と社会に出てからの経験を活かして後輩たちを育ててほしい。

**境** 地区コミッショナーだった安藤聡さんは「こんな、研修制度が充実している、たくましくして異業種交流できる団体、他にない」と言っていた。親としての目線で。小さい時からやっていると、どんな場所、どんな人とでも違和感なく入っていける。会社の異業種交流は似た者同士交流の域を出ない。

**井上** 会社関係と違って、さまざまな人がいて、その中でお互いの良さを見つけていく。それが今は少なくなってる。真面目な人が増えるのはいいけど、柔らかい感覚を持った人が交じってほしいな。そうすると良さが出てくるよね。

**濱田** 33 万人いたスカウト人口が 4 分の 1 になって、ボーイスカウトを取り巻く環境も変わってきた。



神奈川連盟 BP 祭 (1983 年)

**木村** 子どもの価値観が多様化してきたこと。昭和 58 年 33 万人がピーク。入団面接で親が手伝わないと断られた時代だった。競争率 2 倍。それとキャンプがボーイスカウトの専売特許でなくなった。

**北條** ブームだった。キャンプはボーイスカウトしかなかった。でもブームでなくて、ボーイスカウトの存在感を示したいよね。

**木村** 第 3 次キャンプブームに乗りきってないな。ボーイのキャンプは古臭く見える。教育目的だから。友だちと何かを学ぶとかじゃなくて、楽しむキャンプに変わる必要がある。

**井上** 子どもの楽しさ優先か、こうなってほし

いというあるべき姿優先か。ボーイスカウトは言葉が足りないっていうか、指導方法が古いのかも。立ちかまど、A テントも、みんなで力を合わせて時間内で作るというプロジェクトだと理解させたら、ゲーム感覚で楽しめるんだと思う。

**木村** 川崎地区を元気にするためには、バンカラとマジメをうまく融合することが大事だね。

**井上** 先輩から後輩へ教える手段が技術。技術に縛られるのではなく、スキルだけに目がいくのではない。教育的な道具だってことなんだよ。やってくうちに技術が目的化してしまうのは、本筋からはずれているんだ。指導者側もついそうなりやすい。

**森本** スキルを学ぶのが目的ではなく、あくまでツール。何かあった時に対応する力が大事で、それが「そなえよつねに」につながっていく。

**濱田** 最後に。なんでずっと続けてきたんだろう？

**井上** 人にやらされることが好きなことに最近気がついた (笑)。

**林** 恩返しということかな。次に伝えたい。

**境** リーダーになるのは、お世話になった「恩返し」がきっかけだったよね。

**北條** 30 代、40 代は恩返し、50 代は自分の楽しみ。楽しいから続けられる。

**木村** 楽しいから。仲間がいるから楽しい。

**栗田** 楽しいし、楽しくなければいけないね。

**北村** 大変だったけど、楽しかった。

**渋谷** 仲間との活動。どうやって楽しむかが大事。



**森本** 笑顔が作れる場所だから。仕事だって笑顔がないと続かない。ボーイも同じだと思う。

**濱田** 会社を休んでボーイスカウトをやれ、と近江さんに言われた。ボーイスカウトの支障にならないように働けて（笑）。計画書、野帳のつけ方、テントの張り方、ボーイの経験が自分の素になっている。ボーイをやってなければ、リタイアした時に仲間ってどれだけいるのか

なと思う。いくらお金を出しても仲間は作れない。本気でそう思う。川崎の仲間を大事にしていきたい。

今日はみなさん、忙しい中を集まってくださって、ありがとう。70 周年のテーマ「つながるつなげる」にふさわしい座談会になったと思います。これからも力をあわせて地区を盛り上げていきましょう。



# 川崎地区創立70周年記念表彰

令和4年2月6日実施

## (1)「感謝状」表彰者

- ・長年に渡り、団又は地区に対し、財政的・物的支援、集会場の提供、スカウト募集活動に御協力を頂いている個人、団体及び法人
- ・長年に渡り、交流を続けている県外、国外のスカウト隊・連盟

	表彰区分	表彰者・名称	推薦団	支援期間 (年)	主な表彰事由
1	その他	平間こども文化センター	川崎第26団	52	集会場・野営場の提供、スカウト募集活動
2	個人	河崎 久	川崎第39団	40	集会場・野営場の提供
3	個人	関口 真昭	川崎第39団	40	集会場・野営場の提供
4	個人	大久保 弘美	川崎第39団	20	集会場・野営場の提供、物的支援
5	個人	佐藤 泰典	川崎第39団	15	スカウト募集活動
6	法人	南嶺山 香林寺	川崎第43団	50	集会場・野営場の提供
7	法人	こうりんじ幼稚園	川崎第43団	30	集会場・野営場の提供
8	法人	ちよがおか幼稚園	川崎第43団	30	集会場・野営場の提供
9	法人	天狗ロッヂ	川崎第43団	30	集会場・野営場の提供
10	個人	高橋 和雄	川崎第46団	46	集会場・野営場の提供
11	個人	長田 均彦	川崎第46団	38	スカウト教育
12	個人	後藤 輝一	川崎第46団	34	スカウト教育
13	個人	関口 靖邦	川崎第53団	40	集会場・野営場の提供
14	個人	小島 澄人	川崎第53団	40	集会場・野営場の提供、スカウト募集活動
15	法人	月読神社	川崎第53団	40	スカウト育成
16	個人	古城戸 隆一	川崎第53団	20	財政的支援
17	法人	若宮八幡宮	川崎第56団	10	集会場・野営場の提供、財政的支援
18	団体	川崎田島ライオンズクラブ	川崎第56団	10	財政的支援
19	個人	藤岡 栄	川崎第57団	50	財政的支援
20	団体	モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合	川崎第57団	25	財政的支援、スカウト募集活動
21	その他	川崎市黒川青少年野外活動センター	川崎第43団・地区	30	集会場・野営場の提供
22	法人	特定非営利活動法人 国際自然大学校	地区	25	集会場・野営場の提供
23	その他	川崎市青少年の家	地区	33	集会場・野営場の提供
24	その他	川崎市八ヶ岳少年自然の家	地区	31	集会場・野営場の提供
25	その他	川崎市国際交流センター	地区	27	集会場・野営場の提供
26	団体	日本ボーイスカウト川崎地区賛助会	地区	37	財政的支援
27	個人	渡邊 雅司	地区	7	安全研修会の特別講師(弁護士)
28	団体	Baltimore Area Council B.S.A	地区	36	長年にわたり ボルチモア交流事業を支援
29	団体	BALTIMORE KAWASAKI SISTER CITY COMMITTEE	地区	36	
30	団体	Baltimore Area Council B.S.A Crew 3776	地区	36	
31	法人	聖マリアンナ医科大学	地区	5	医療支援
32	個人	Dr.Hiroshi Nakazawa Baltimore Kawasaki Sister City Committee	地区	36	医療支援・ BK姉妹都市委員会顧問
33	個人	Howard Rutherford Baltimore Area Council B.S.A	地区	33	交流派遣支援
34	個人	Dan Young Committee Chairman,Crew 3776	地区	17	交流派遣支援

	表彰区分	表彰者・名称	推薦団	支援期間 (年)	主な表彰事由
35	個人	Greg Oates Assistant Advisor,Crew 3776	地区	14	交流派遣支援
36	個人	Satoko Kajima Best Assistant Advisor,Crew 3776	地区	14	交流派遣支援
37	個人	Yoshinobu Shioda BK姉妹都市委員会 名誉代表	地区	11	交流派遣支援
38	個人	Marilyn Cox Assistant Advisor,Crew 3776	地区	6	交流派遣支援
39	個人	Mike Neuman Assistant Advisor,Crew 3776	地区	6	交流派遣支援
40	個人	Todd Emmons Advisor,Crew 3776	地区	5	交流派遣支援
41	個人	長谷川 静子	地区	8	交流派遣支援(看護師)
42	個人	聖マリアンナ医科大学 薬理学教授 松本 直樹	地区	6	交流派遣支援
43	個人	鴨川市立国保病院 病院長 医師 小山 照幸	地区	6	交流派遣支援
44	個人	西角 雅子	地区	7	交流派遣支援(通訳)

## (2)「永年奉仕章」表彰者

基準:30 年以上に渡って、スカウト活動に奉仕をいただいている育成会員、団委員を含む指導者  
(日本連盟功労章「かつこう章」、「たか章」及び「県連特別有功章」の受章者を除く)

	所属	役務	氏名	年数
1	川崎第26団	副団委員長	丸山 幸二郎	37
2	川崎第26団	CS隊長	峠木 秀文	37
3	川崎第39団	団委員長	河崎 栄作	36
4	川崎第39団	RS副長	林 剛一郎	36
5	川崎第39団	CS副長	岩渕 康之	35
6	川崎第39団	CS隊長	井上 景	34
7	川崎第39団	VS隊長	中村 英次	33
8	川崎第39団	BS副長	井上 麻里	31
9	川崎第39団	育成会長	関口 真昭	30
10	川崎第56団	団委員	吉沢 和雄	67
11	川崎第56団	団委員	伊藤 弘昭	65
12	川崎第56団	副団委員長	堂本 暁生	42
13	川崎第56団	BVS副長	山口 将史	42
14	川崎第56団	RS隊長	池村 重信	40
15	川崎第56団	団委員	早坂 保	40
16	川崎第56団	団委員	浪川 幸雄	38
17	川崎第56団	団委員	小宮 清一郎	37
18	川崎第56団	VS副長	千葉 勝弘	33
19	川崎第56団	BS副長	根本 直行	33
20	川崎第56団	BVS隊長	池田 司	31
21	川崎第56団	VS隊長	田口 祐司	31
22	川崎第56団	CS隊長	竹内 一泰	30
23	地区	事務長	森本 正則	31



# テーマ

## つながる つなげる 今までも これからも

これは70周年準備委員会で意見を集約し、70周年特別委員会で調整の上決定いたしました。  
川崎地区が今日まで辿って来た道のりに思いを馳せ、諸先輩方のご苦勞ご功績に感謝し、  
これからも良き伝統を継承して行くのだという思いを籠めたものです。

# シンボルマーク

新型コロナウイルス感染症の感染が広がり、スカウト活動に制限がある中、多くのスカウトやリーダーからシンボルマーク案を出していただきました。  
テーマの“つながり”をそれぞれの感性で表現していただきました。  
多くの候補の中から、厳正な審査のもと選ばれたのは、川崎39団カブ隊／湯浅 楠乃羽  
(ゆあさ なおの) スカウトの作品。  
70周年のシンボルとして、記念ワッペンや記念品のデザインに使われました。

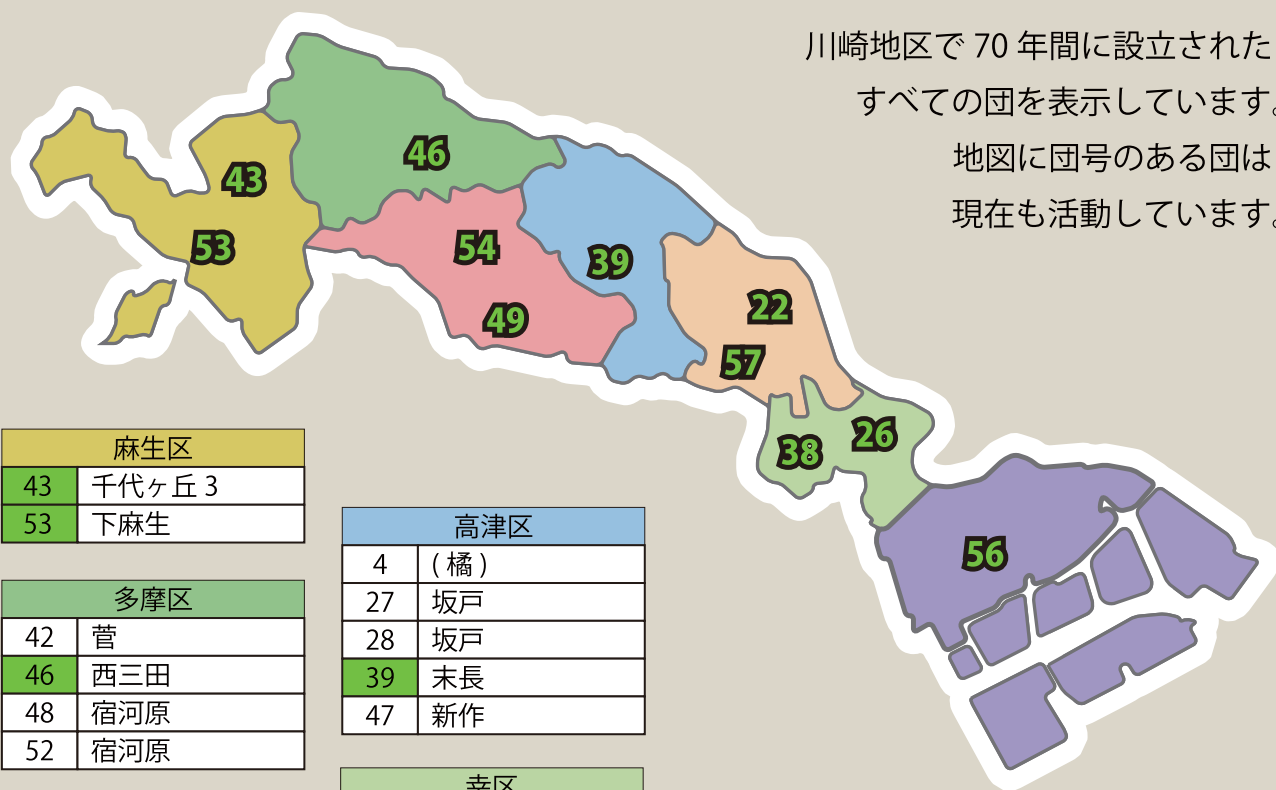
川崎39団カブ隊  
湯浅 楠乃羽



みなさん、ご応募ありがとうございました。

# 川崎地区の団紹介

川崎地区で 70 年間に設立された  
すべての団を表示しています。  
地図に団号のある団は  
現在も活動しています。



麻生区	
43	千代ヶ丘 3
53	下麻生

多摩区	
42	菅
46	西三田
48	宿河原
52	宿河原

宮前区	
49	鷺沼
51	菅生
54	平

中原区	
1	木月伊勢町
2	小杉御殿町
5	新城
8	上小田中 (後期)
13	中原
18	上小田中
19	上小田中
20	上小田中

高津区	
4	( 橘 )
27	坂戸
28	坂戸
39	末長
47	新作

幸区	
14	南幸町 2
26	古市場
37	小向仲野町
38	南加瀬
44	塚越

(22)	新丸子東 (前期)
22	今井南町
31	下沼部
(36)	新丸子町
36	丸子通
40	木月
45	上平間
55	井田中ノ町
57	木月 1

川崎区			
3	大島町 1	23	東渡田
6	南渡田	24	江川町
7	南渡田	25	桜本町
(8)	南渡田	29	宮前町
9	南渡田	30	大島 4
10	南渡田	32	東門前
11	大島 1	33	( 地区青年隊 )
12	渡田 1	34	千鳥町
15	貝塚	35	宮前町
16	貝塚	41	浜町
17	小田	50	宮本町
21	大師中町	56	大島 2

## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 川崎第22団

団委員長：鈴木 貞弘  
育成会長：長谷川 喜也  
団連絡所：杉浦 正明  
主な活動地域：中原区・武蔵小杉周辺

### 団の創世期と現在

副団委員長 杉浦正明

弊団が現在のカトリック中原教会に団本部を置き設立したのは1979年9月。実は最初の22団は、さらにその21年前の1958年、新丸子周辺の地域団として団委員長 小林福三、BS隊長 佐川直道、指導者・団員11名、スカウト18名で創立している。この初期22団は7年ほど活動したのちに休止したようだ。佐川以下リーダー・スカウト25名は、近隣の川崎第36団に移籍している。



初代団委員長 佐川直道

これよりも更に前の1953年、川崎区のカトリック貝塚教会に川崎第15隊が設立された。隊長 木村二郎、BS隊長 遊佐庸一。当時、貝塚教会の主任司祭だった米国出身の



エリック神父



エリック・タンペ神父は、少年時代にスカウト経験があり、地域の青少年育成に役立だてようと設立に協力したものと思われる。この川崎第15隊は数年で活動を停止した。

佐川は、その後も精力的にスカウト活動を継続し、1979～1981年に地区委員長を務めている。恐らく、学生時代に自分が発団した22団をもう一度復活させたいという思いと、そのころ中原教会の主任司祭だったエリック神父と出会い、互いのスカウト活動の経験と失敗を踏まえ、合同で団をつくろうということになったものと想像する。佐川が初代の団委



カブ隊隊長 福島晃

員長、エリック神父が指導司祭、信徒会長の明石憲章が育成会長となり、団員9名、カブ隊隊長 福島晃。リーダー5名、中原教会と鹿島田教会の信者の子供、近隣の社宅の子供など、カブスカウト18名により新生22団が復活した。

このような経緯で団を復活後、幸いにも今日まで40年以上の活動を継続している。2021年12月現在、団委員長 鈴木貞弘、ビーバー隊からローバー隊までスカウト55名、指導者26名、団員6名、育成会役員9名で構成している。



日常の活動は、教会の園庭、信徒会館などの建物を活動場所とし、同敷地内に倉庫2棟を置き、教会から多くの支援と密接な関係で活動している。

ところが、昨年来のコロナ禍により、このように恵まれた施設での活動が制限されているため、中原平和公園をはじめ近隣の公園などの野外施設を主に利用している。

対外的な活動では、川崎地区の様々な行事への参加をはじめ、JCCS（カトリックスカウト）横浜教区支部の構成団として、年一度の合同ラリー、全国キャンポリーなど、友好団との合同活動と多面的活動を展開している。

毎年年末に実施している募金の一部から車椅子購入、地域の福祉協議会に寄贈している。これはスカウトに見える形で募金の成果とするもので、今年でちょうど22台目の寄贈を実現している。

今後とも地区内で唯一のカトリック団として、多方面でユニークかつ充実した活動を祈念する。

弥栄



聖堂での上進式



JCCSラリー



隊キャンプ



新年餅つき



車椅子寄贈



2021年・クリスマス会にて

## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 川崎第26団

団委員長：窪田 隆  
育成会長：金井 弘年  
団連絡所：佐藤 周一  
主な活動地域：幸区南河原、古市場、古川、塚越、平間

団委員長 窪田 隆

三指

川崎地区創立70周年、おめでとうございます。

### 団の歴史

団発足以来今年は発団62年と成りますが、決して順風満帆では有りませんでした。発団当初は子供達も多く、子供の遊ぶ環境も今迄とは大きく違っていたため、ボーイスカウトに入団する子供たちは年々増え続けました。1969年（昭和44年）には26団から分封して川崎第45団が発足しました。26団、45団が共に協力し合い発展してまいりましたが、子供の少子化が進むこと、野球、サッカー等の選択肢が増えたことも有り、スカウト数も徐々に

減少し団存続の危機にもなっていました。川崎地区としても同様の団が多い事から抜本策として団統合の計画が出されました。その結果川崎第26団と川崎第45団が2014年（平成26年）に統合することとなりました。50数年前に戻ったようなものです。その後は各隊リーダーの努力と保護者の努力によりスカウトも徐々に増え続け、以前のような活気の有る、楽しいスカウティングが出来る川崎第26団に戻りつつあります。

### 現状とこれから

スカウト数が増えてきたこと、新しいリーダーが増えてきたこと、保護者の協力が得られる事がこれからの川崎第26団発展の源となりました。保護者のボーイスカウト講習会への参加、リーダーのWB研修所への参加、各種講習会への積極的な参加が増えてきたことでリーダー、保護者間での競争意識が見えてきました。このことはスカウト達にも良い影響

となること間違いなしです。ビーバースカウトの増、カブスカウトの増がボーイスカウトの増に繋がり、ベンチャースカウトの増となります。現在はローバースカウトが登録されておきませんが、2023年（令和5年）にはローバースカウトが誕生する予定です。川崎第26団益々の発展が見えてきました。





三指

川崎地区創立70周年、おめでとうございます。

昭和35年に発団したボーイスカウト川崎第26団は、令和2年に60周年を迎えることができました。

一時期はスカウトの数が伸び悩むこともありましたが、リーダー・保護者で地道に加入促進活動を行い、令和3年度の登録スカウトではビーバーからベンチャーまで、37人まで増やすことができました。もちろん、地区のなかではいまだ小粒の団ですが、逆にいえば、まだまだ伸びしろがあると考えています。

当団だけではないですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、夏季キャンプを中止せざるを得なかったなど、本来のスカウトらしい活動が大きく制限される状況が続きました。何ととっても、スカウトたちが笑顔で活動する機会を十分に用意できなかったことは残念でなりません。自然の中で学ぶのがスカウトの基本とはいえ、今後のプログラムのあり方を大きく考えさせられる出来事でもありました。集会だけで終わるのではなく、保護者と協力し家庭でのスカウティングを支援することを、もっと進めていくことが課題です。

ただ悪い話ばかりではなく、最近は体験者の数も増えています。令和3年11月にビーバー・カブ合同で行った「焼き芋と染物体験」では、未就学児も含め30人ほどの体験者を迎え、盛況のうちに終えることができました。うれしい悲鳴をあげながらの集会でしたが、ただ喜ぶだけでなく、数多くの体験者への限られた人員での対応の難しさも浮き彫りになりました。むろん、体験者全員が入隊するわけではありませんし、初参加者が多いなかで完璧な進行ができるわけではありませんが、プログラムを練りこむ必要性を感じさせられました。

反省点もありましたが、スカウトと体験者がそろって楽しそうに笑いあっている姿を見ると、当団のスカウト活動のひとつの成功例だと感じることができました。

コロナによりまだまだ難しい状況にありますが、それでも今、当団にはいい流れがきています。この機を逃さず、関係者で協力しながら、スカウトの笑顔を広げる活動を続けていきます。





# 日本ボーイスカウト川崎地区

川崎第 **38** 団

団委員長：田島 宣彦  
 育成会長：中野 聡  
 団連絡所：松嶋 健治  
 主な活動地域：南加瀬・夢見ヶ崎動物公園・ふるさと公園

38



**祝 70 周年**

38 団の  
 スカウトより  
 川崎のスカウトの  
 皆さんへ  
 愛をこめて







準備隊発足



1966.4.10 発団



1970年 5NJ



1975.4.1 カブ隊発隊



1997年  
30周年記念



2021年  
田島団委員長  
ほか章受章

川崎第 38 団は昭和 40 年に当時 18 歳の少年と 4 人の小学生によって はじめられました。その後 近所の 大人に指導者をお願いし昭和 42 年 正式に初期登録を認められました。 全国的にも珍しい、子供たちにより 組成された団です。これからも スカウトたちが主体となる団と して、活動して参ります。

2017 年 50 周年記念





## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 川崎第 39 団

団委員長：河崎 栄作  
 育成会長：関口 真昭  
 団連絡所：佐藤 泰典  
 主な活動地域：溝の口周辺、宇奈根、団ハウス（末長）ほか



2019年3月



2018年8月



2020年7月



2019年3月



2019年5月

川崎市高津区を中心に活動する

## ボーイスカウト川崎第 39 団



2019年8月

私たちボーイスカウト川崎第39団は、川崎市高津区で活動する唯一の団です。愛称を『橘隊(たちばなたい)』と称していますが、みなさんからは団号の《39》から“サンキュー”と呼ばれています。

活動場所は、川崎市高津区末長にある集会場(団ハウス)や多摩川河川敷のキャンプ場、溝の口周辺が中心。多彩なプログラムを展開しています。

私たちの団の自慢は、このキャンプ場と団ハウスがあること。これは、関係のみなさま方のご理解の賜です。そして、指導者の大半が“サンキュー育ち”ということ。発団から今日までを見続けている人、スカウトから続けている人などなど。これからも『サンキューファミリー』として、明るく楽しく、活発な活動をしていきたいと思ひます。



団ハウス



宇奈根キャンプ場

- 名称:日本ボーイスカウト川崎第39団
- 発団:1965年(昭和40年)
- 団所在地:川崎市高津区溝口
- 主な活動場所:溝の口周辺、宇奈根キャンプ場、団ハウス(末長)
- 登録人数:86名(2021年4月現在)





<https:kawasaki39.jpn.org>

ボーイスカウト39

検索

e-mail [info@39kawasaki.sakura.ne.jp](mailto:info@39kawasaki.sakura.ne.jp)





## 日本ボーイスカウト川崎地区

川崎第 **43** 団

団委員長：塩野 浩史  
育成会長：小山 新生  
団連絡所：渡辺 悦男  
主な活動地域：新百合ヶ丘駅周辺・黒川・四ツ田緑地など

つながる。つなげる。  
43団は「団結力」で未来へ進みます。



川崎地区70周年のスローガン「つながる つなげる 今までも これからも」をテーマに、王禅寺四ツ田緑地に集合して「ダ・ヴィンチの橋」を作りました。



## ■団の沿革

1968（昭和43）年、川崎第39団ボーイ隊、カブ隊の第2隊として百合丘に誕生。翌年4月に分封し、正式に川崎第43団としてスタートしました。やがて小田急線新百合ヶ丘駅ができ、発展するこの地域とともに団も大きく成長してきました。2018年の発団50周年を機に塩野団委員長が9代目の団委員長に就任。塩野団委員長は43団のスカウト出身で、OB・OGから初めての団委員長誕生となりました。43団にはかつて団ハウスと団サイトがありましたが、団ハウスは18年前に、団サイトは20年前に土地をお借りしていた方に返却。団ハウスがなくなるとスカウトが減るのではないかと心配しましたが、団のみなさんの努力によってスカウト数は減るどころか徐々に増え、今では100名を超えるスカウトを擁する全国でも有数の規模の団になっています。

## ■スカウト活動

ビーバー隊からローバー隊まで活発に活動しています。近隣にはまだ緑が多く、丹沢などへのアクセスもよいので、自然と触れ合う活動が多いのが特徴です。ビーバー隊、カブ隊はハイキングや登山、ボーイ隊は年2回（秋は30km、春は50km）を歩くオーバーナイトハイクやカヌーなど、地の利を生かしたプログラムを展開。ベンチャー隊に上がると自転車で行き来して富士登山をしたり、自転車で日本縦断をしたり、戸隠で雪中キャンプをやったりとスケールアップした活動を展開しています。各隊、例年8月中旬に夏キャンプ、1月にスキーキャンプを実施。また、川崎地区で実施している米国ボルチモア市のスカウトとの交流プログラムに多くのスカウトが参加し、国際交流を深めています。

## ■団の特色

43団には出身スカウトのOB・OG会（福田紀彦市長もOBです）の他に「よんさんゆりの会」と「ハナミズキの会」という43団に在籍したスカウトの保護者の方のOB・OG会があります。今でも親睦を深め、団へ物心ともにさまざまなご援助をいただいています。また43団には隊をサポートする保護者のまとめ役である「父母キャップ」、団や隊の活動を支援する収益事業を行なう「プロジェクト」など、団オリジナルの仕組みがあります。いつの時代も変わらないスカウト、リーダー、団委員、育成会員の“団結力”が43団の自慢です。

## ■地域との連携

地元の香林寺に団倉庫の土地をお借りし、付属の幼稚園を会議や集会に使わせていただいております。除夜の鐘つきやお祭りの時に奉仕をさせていただいています。また、黒川青少年野外活動センターには多くの活動でたいへんお世話になっており、おもちつきなど同センターの主催行事のお手伝いや電車山と王禅寺四ツ田緑地を含む同センターの整備奉仕をさせていただいています。麻生区の区民まつり、地域のお祭りやこども文化センターでの奉仕など、さまざまなかたちで地域と連携しています。



## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 川崎第46団

団委員長：久保井 基隆

育成会長：荒川 泰一

団連絡所：西谷 誠介

主な活動地域：東三田にある団ハウス、三田第4公園など

### 【沿革】

当団は1971年夏、奇しくも昭和46年に多摩の丘、三田の地に川崎第43団のカブ隊第二隊として産声をあげました。昨年には発団50周年を迎えました。コロナ禍で団キャンプをはじめ、いろいろな行事が延期となっていますが、コロナ収束の暁には諸先輩の皆さまもお招きして開催する予定としています。

### 【団の拠点と活動地域】

- ・団の拠点は、多摩区東三田にある「団ハウス」となります。昭和58年に旧牛乳消費者の会の敷地建物を当団を含む4団体で共同利用することを条件に川崎市より借受しました。
- ・平成11年に改築を行い、現在の団ハウスとなっています。
- ・この団ハウスを拠点に近隣の三田第4公園や西三田幼稚園、生田緑地などで四季に応じたゲームや餅つきなどのイベントを行っています。

### 【団歌とシンボルマーク】

- ・団歌：「夜明けの星」

発団5周年を記念して作られました。当時なんと歌手の田中星児さんが団歌を歌っているカセットテープが記念品として配られました。

- ・シンボルマーク：「5重の杉の木を見下ろす夜明けの星」

5重の杉の木は、ビーバー隊からローバー隊までの各隊を表しています。団が大きくなり隊が増えるごとにシンボルマークも成長していきました。もちろん、星は団歌にある「夜明けの星」を表しています。



**夜明けの星**

ボーイスカウト川崎第46団 団歌

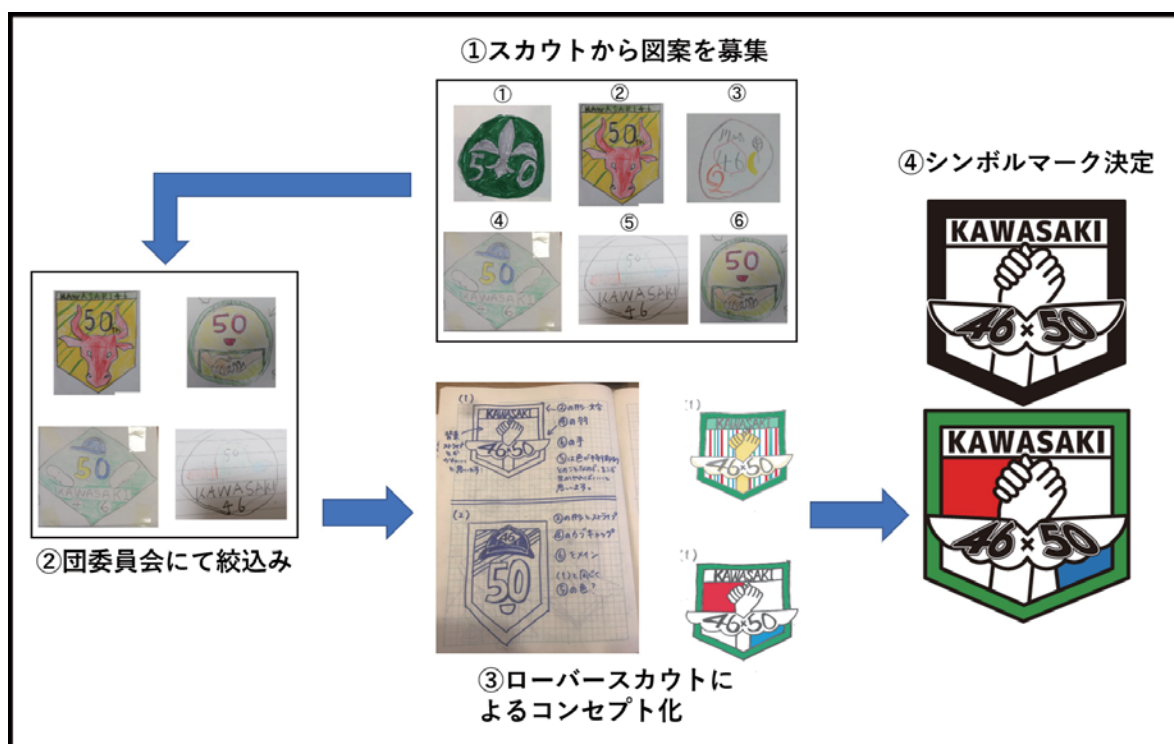
作詞 若本孝仁  
平松仙吉  
作曲 中村勝彦

堂々と

# 【団50周年シンボルマーク】

50周年のシンボルマークです。

スカウト達から図案を募集し、団委員会で絞込みました。結局、絞り切る事が出来ず困っていたらローバースカウトがそれを1つに合体、まとめてくれました。誰か一人の図案では無く、みんなで作った良いシンボルマークが出来たと思います。これをワッペンにして団集会では着用します。






## 日本ボーイスカウト川崎地区

川崎第 **49** 団

団委員長：山川 信一  
 育成会長：小山 晴郎  
 団連絡所：廣田 洋子  
 主な活動地域：鷺沼公園・菅生緑地・宮崎第4公園





1975年 蔵敷で活動していた、今は無き川崎47団から分峰し49団は誕生した。2025年には50星霜を迎えることになるが、その前年2024年、団号にちなみ49周年を記念する特別な活動を予定している。それまでにはコロナ過が収束していることを強く期待するのだが。

2021年初期登録時加盟員数85名。川崎地区4番目の団として、少人数ではあるが、49ファミリーはアットホームで元気はつらつなスカウティングを展開している。もちろん今後とも。

49 発団40周年記念  
団キャンプ



2020年に45周年を迎えた49団では、記念のTシャツを製作。団のメンバーによる公募の中からデザインが決定しました。









## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 川崎第 53 団

団 委 員 長：水島 一誠  
育 成 会 長：小島 澄人  
団 連 絡 所：阿部 真也  
主な活動地域：柿生・新百合ヶ丘

川崎地区創立70周年、心からお祝い申し上げます。私ども川崎第53団も昭和55年に川崎第43団から分封し、今年の6月13日を以って創立40周年を迎えました。



当団は柿生と新百合ヶ丘の中間、麻生川沿いにある団ハウスを拠点として活動しております。団ハウスは関口前団委員長の農地に団全員で建てたもので、35年余が経過しておりますが、当団の誇りと自負しております。団ハウスは電気、水は引いておらず、トイレは仮設等、正に野外活動の原点さながらです。活動の一環として、団ハウスの一角にある畑で、じゃが芋、さつま芋の植え付け、収穫、収穫した芋でカレーや豚汁を作り、皆で食べて盛り上がります。更には、一泊キャンプ、キャンプファイヤー等沢山のイベントを団ハウスの敷地内で行っております。





年末には月読神社でボーイスカウト隊が篝火奉仕を昭和58年から続けております。  
また、平成6年から団主催のスキーキャンプを行っており、スカウトの楽しみの一つ  
となっております。



団としては、麻生区民祭、福祉祭、幼稚園でのデモンストレーションなど、地域の活動にスカウト共々、保護者会の協力を得て、積極的に参加しております。  
現在、スカウトの減少が懸念されておりますが、当団はスカウト数の増を維持しております。  
今後とも地域との連携を密にしながら、柿生・新百合ヶ丘の地に根差した活動を展開していきたいと考えております。





## 日本ボーイスカウト川崎地区

# 54 川崎第54団

団委員長：木村 耕三  
 育成会長：手塚 功  
 団連絡所：木内 格志  
 主な活動地域：宮前区、高津区、多摩区

### 団の特色

当54団は昭和60年10月11日に正式に発団しました。初団当時から活動場所を篤志家の方に提供いただき、恵まれた環境で発団することができました。47団から分封したため小所帯のスタートでしたが、それだけに「at home」をモットーに和気あいあいの雰囲気で一致団結することができました。2021年には37年目を迎えました。が、発団当時の「at home」が伝統として継続され、お陰様でスカウトも大所帯の団に成長することができました。

### 10周年記念団キャンプ



### 10周年記念誌



### 沿革

--- 年号 ---	----- 活 動 内 容 -----
昭和60(1985)年 10月	川崎地区54番目の団として発足 (スカウト19名、リーダー8名)
平成元(1989)年	発団5周年記念式典と 記念団キャンプ(尾白の森)
平成 2(1990)年	ビーバー隊発隊
平成 3(1991)年	父母の会発足
平成 7(1995)年	発団10周年記念式典と記念誌、 記念団キャンプ(伊豆大川端) ベンチャー試行隊発隊 第10回日本ジャンボリー参加 (妙高高原)
平成 6(1994)年	第11回日本ジャンボリー参加 (大分久住高原)
平成13(2001)年	登録人数100名突破。104名 発団15周年記念団キャンプ (百軒茶屋)
平成17(2005)年	登録数124名で川崎地区 1 位 発団20周年記念団キャンプ開催 (西湖)
平成21(2009)年	スカウティング誌に「ニッポン 全国元気団」として紹介される
平成23(2011)年	発団25周年記念団キャンプ開催 (山梨県小菅村)
平成28(2016)年	登録スカウト数100人突破 発団30周年記念団キャンプ開催 津原キャンプ場 記念式典開催、記念誌発行、 団ソング『はばたけ54』制定
平成30(2018)年	登録人数185名を達成

### 20周年記念団キャンプ



### 25周年記念団キャンプ



### 30周年記念式典







いつも元気！54カブ隊！



## 川崎第54団 団ソング

平の丘に 光はあふれ  
今日も明るく 仲間とともに  
スキルを磨き いざ野に踏み出せ  
備えよ常に 川崎 54

宮前の 幸につつまれ  
世代を超えて 集いし我ら  
自分を磨き 世界にはばたけ  
名誉を胸に 川崎 54



野外に飛び出て活動する  
ボーイ隊



みんなでなかよく、自然を楽しむ  
54ビーバー隊！



PADDLE YOUR OWN CANO  
～自分のカヌーは自分で漕げ～  
ベンチャー隊



ローバーリング  
楽しもう皆で！



## 日本ボーイスカウト川崎地区

川崎第 **56** 団

団委員長：濱田 雅弘  
 育成会長：田中 勇人  
 団連絡所：高柳 英樹（川崎市川崎区桜本）  
 主な活動地域：川崎区（大島第1公園中心に区内各地）



平成26年(2014年)4月1日 発団

令和3年(2021年)12月5日 団集会



### 【団の目指す姿】

「チーフでつなぐ団家族」

～団家族は一人のスカウトのために、  
 一人のスカウトは団家族のために～



### 【団チーフ】

★地の色：ライトピンク。団カラーを「桃色」とし、これを団チーフの地色とする。

川崎区は現在の桃の基である「伝十郎桃」発祥の地である。B-Pがボーイスカウト運動をスタートした時期、川崎区には桃・梨などの果樹園が広がっていた。B-Pの求めるスカウティングを目指し発団した56団にとって、『温故知新』は座右の銘ともいえるべき言葉であり、常に原点に帰る姿勢の象徴として伝十郎桃の色を団カラーとする。

★マーク：淡路結びを用い、緑・紺・赤の3色で堅く結ばれている姿を表している。

緑はボーイ隊、紺はベンチャー隊、赤はローバー隊を象徴する。「スカウティングはボーイになってからが楽しい」を目指す団の姿勢を表現し、ビーバー、カブにとって「あこがれの存在」となる決意を図案に込める。

★文字の色：臙脂色（えんじいろ）

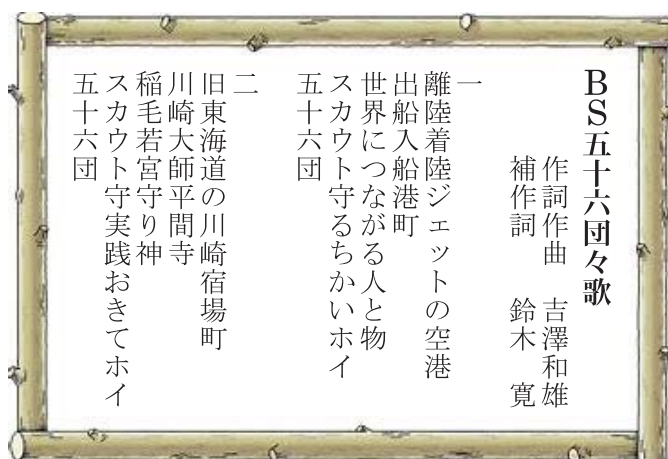
黒みをおびた深く艶やかな紅色で、各隊の隊カラーを合わせた色として団家族の融合と団結を表す。





## 【年間の主な活動】

入隊・上進式（4月）  
川崎大師降誕祭奉仕（5月）  
育成会総会（6月）  
若宮神社連合渡御（8月）  
夏期活動（8月）  
市民まつりブース出展（11月）  
新年初顔合わせ（1月）  
GS合同スキー（2月）



## 日本ボーイスカウト川崎地区

川崎第 **57** 団

団委員長：赤澤 学  
 育成会長：内田 治彦  
 団連絡所：川崎市中原区木月1-5-15  
 主な活動地域：中原区 元住吉駅を最寄りとする地域



57団ネッチデザイン

ビーバー	12名
カブ	18名
ボーイ	12名
ベンチャー	8名
ローバー	5名

57団は牡丹紅色のスカーフがトレードマーク。平成26年（2014年）7月13日に発団した新しい団ですが、実は昭和41年（1966年）発団の40団とそこから分団した55団が統合されてできた団です。長年にわたり地元根付いているので旧40団のスカウトから団委員長や指導者になり50年以上も団の活動を応援してくれる方もいます。

発団当初ビーバーやカブだったスカウトが2018年の日本スカウトジャンボリー（石川県珠洲市）で多くの貴重な体験をして一回り逞しいボーイやベンチャーになりました。カブ隊は地区の「C1カーレース」で2017年から個人・チーム共に3連勝という快挙をなしとげました。ローバースカウトも指導者や指導者補助になり各隊のスカウト達の頼もしい先輩として活躍しています。団農園ではビーバー隊、カブ隊が無農薬でジャガイモをはじめ様々な野菜や果物を栽培し収穫するまでの苦労と楽しさを経験することができます。

各隊が地域奉仕、農作業、募金活動、登山、ハイキング、社会見学、キャンプなどの野外活動や、工作や計画書作成などの屋内活動を通して、人として大切なさまざまな事を学び身につけています。活動の様子はホームページやSNSで公開して広報にも努めています。

従来のスカウト活動だけでなく新しいプログラムも取り入れるなど変化を恐れず楽しみながらスカウトと共に成長し続ける川崎第57団です。

### 主な活動場所

☆長寿保育園



☆住吉神社



☆国際交流センター



☆団農園





- 1月 かがり火奉仕(BS・VS・RS) 初詣・もちつき(団行事) 成人式奉仕(VS・RS)
- 2月 スキー訓練(団) 社会見学(CS)
- 3月 上進式(団) オーバーナイトハイク(BS) ジャガイモ植付け(BVS, CS) 青少年フェスティバル
- 4月 島探検(BVS) ハイキング・一泊訓練(CS) さくらまつり(地区奉仕)
- 5月 訓練キャンプ(BS, VS) ビーバー隊旗作り(BVS) 一泊訓練(CS) みなとまつり奉仕(VS・RS)  
スカウトフェスティバル(団)
- 6月 白梅隊集会・一泊野外訓練(BS) 多摩川清掃・ビーバー祭り(BVS) C1カーレース(CS)
- 7月 一泊訓練(BS) ジャガイモ収穫(BVS, CS) キャンプ準備
- 8月 夏キャンプ(団) スケート訓練(CS) ボルチモア交流
- 9月 社会見学・サイクリング(CS) 地区ラリー(地区)
- 10月 自転車整理奉仕(BS, VS) 募金活動(地区) 町探検(BVS) 区民祭(地区)
- 11月 ハイキング(BS) 登山(CS)
- 12月 クリスマス会(団) 歳末募金・地域清掃(地区)



2020年～：2020年2月末から新型コロナウイルスの影響で、突然の学校一斉休校や緊急事態宣言がでるなど突然世界が一変してしまいました。先の見えない自粛期間が続くなか、活動ができない約2カ月間は団の会報誌『57団だより』を4回作成して、長い緊急事態宣言のなか頑張っているスカウト達の様子を共有してスカウト達との繋がりを大切にしました。そして指導者や保護者、団委員の協力でリモートでの活動や会議ができるようになりスカウトとの交流ができるようになりました。活動再開後はボーイ隊のソロテントの購入や団をあげてコロナ対策を行いながら活動をしています。

このような状況でも嬉しいこともありました。2021年度は例年より多い15名の新規入隊者があり、このような時だからこそボーイスカウトが求められていると感じました。





# 川崎スカウトクラブ



会 長：谷本 通安  
幹 事 長：渡部 公  
会 員 数：21名

## ■スカウトクラブの発足

「地区・団等で活躍したOBが集える場を作ってもらいたい」故渡邊宗男氏（前賛助会会長）から要望があり、同じ時期に地区活性化のため検討されていた[アクションプラン]に「OBクラブ設立」案があったため、地区内有志でOBクラブ設立発起人会を立ち上げて準備を重ねて、平成21年(2009)6月、「川崎スカウトクラブ」として活動を開始しました。経験を生かした大人のスカウティングを楽しみながら社会貢献を目指して活動を続けています。

## ■主な活動

### ・奉仕活動

毎年実施されている(2年間はコロナ禍で中止)「多摩川クリーンアップ作戦」「かわさき市民祭り」の他に「川崎フロンターレ[カブの日] ロープワーク担当」「子どもの権利条約フォーラム2021inかわさき」案内・設営等奉仕活動、指導者勉強会講師として支援、等の奉仕を実施してきました。

### ・多摩川に架かる橋の調査

川崎地区60周年記念事業「ウォーク多摩川60」では多摩川に架かっている83橋の現地調査を実施して報告書(写真集)を提出しました。その後、更に詳しく架橋前の渡しと橋の関係、橋の由来等の調査を継続して[橋から端まで]ー多摩川の橋を訪ねてー(全120頁)を平成25年1月に出版しました。川崎市教育委員会から「郷土史の学習参考書にしたい」との要請があり市立中学校全校、私立中学校全校、市立図書館に配布するために80部を贈呈しました。現在も中学校図書室、市立図書館で閲覧することができる上、日本連盟“スカウトミュージアム”でも閲覧できます。

### ・収穫祭“チャックワゴンの風になつて”

チャックワゴンとは、西部劇でおなじみの調理用幌馬車です。食の恵みに感謝して収穫祭を催し、会員それぞれが得意の野外料理を作り楽しむ会を、黒川野外活動センターで行っています。

### ・ハイキング

不定期ながら年間3～4回のハイキングで「川崎再発見」シリーズ、「街道を歩く」シリーズとして歩いてきました。川崎市内には「東海道」「大山街道」「鎌倉街道」「津久井道」「府中街道」の5街道が通っているので“端から歩いてみよう”と計画して「大山街道」(矢倉沢往還)ー赤坂見附から大山阿夫利神社下社まで72Kmー、「鎌倉街道下道」ー東京駅から鎌倉「鶴岡八幡宮」73kmー、「津久井道」(津久井往還)ー三軒茶屋から津久井湖46Kmー(コロナ禍により一部カット)を踏破しました。今後も目的を持って歩き続ける計画です。

### ・機関紙「杖」発行

故渡邊宗男氏から「川崎地区の活動記録を残して欲しい」との要望から機関紙を発行することにして「杖」(スカウト杖に因む)を平成23年(2011)7月創刊しました。年間3～4回発行して10年間で第37号までになりました。「スカウトクラブで機関紙の継続発行は全国でも例がない」との評価もあり、これを励みにして今後も発行を続けて川崎地区の記録を残す活動を続けて参ります。

### ・親睦旅行

創立以来、毎年テーマを決めて1泊2日の親睦旅行を実施して楽しんできました。県内外の名所旧跡見学や、ホテルを見るため新潟県十日町市へも行ってきました。



創立10周年記念式(令和元年9月15日)



「大山街道を歩く」ーコマ



「収穫祭・チャックワゴンの風にのって」(令和3年11月)



「鎌倉街道下道を歩く」鶴岡八幡宮(平成30年2月)



「橋から端まで」平成25年1月発行



## 総務委員会

委員長 鈴木 貞弘

総務委員会は 2011 年度、それまで部門制を敷いていた地区委員会の組織が各機能を担当する委員会からなる新体制へ移行するのに伴い、組織拡充委員会と財務委員会から成っていた総務部門から独立して生まれ、早いもので 10 年あまりが経過しました。当初はそれまでの組織拡充・登録・広報・Web と言った主要 4 分野を各担当が個々に担っていましたが、2016 年度より「組織拡充担当」の部分を発展的に解消し、①地区組織の発展・強化、に加えて②地区全体の運営の下支え、および③当委員会内の各担当（登録・広報・Web）間の連携促進に向けた「横串機能」、として委員全員で運営する「総務」をめざした体制に変更しました。また委員は地区に所属する全ての団から選出して戴き、各団との連絡・連携がスムーズに行われ、また各団の生の声を出来るだけ反映できるような構成を目指しており、この部分は各団のご協力のもと、次第に整ってきました。

年間の主な活動としては、1 月のニューイヤーパーティーの企画・運営から始まって新年度登録の業務遂行、青少年フェスティバルでの育連ブースの運営、広報・組拡勉強会の企画・運営などの他に、日頃の登録実務、地区ホームページの運営管理等があります。またこれ以外に地区や県連の記念行事のサポートなども行っています。最近では長年の懸案だった地区ホームページの改訂を行いました。これは近年利用拡大が著しいスマホ等を活用して個々のコンテンツをアップし易くし、地区全体で運営出来るものを目指しました。これからも個人情報保護の流れに配慮しながら、オープンなものにして行きたいと考えています。

今後は広報等の個々の機能においても、部分的にでも各団からの参加者を交えて運営し、地区と各団との距離を縮め、共に発展させていく、ということを目指していきたいと思っていますので引き続きご協力、よろしくお願い致します。

（文 磯部 英二）



（2019 年 AKSF）



# スカウト支援委員会

委員長 林 剛一郎

スカウト支援委員会は、その名の通り、地区内のスカウトの活動を支援することを目的に、事業を企画・運営しています。

スカウト支援委員会内には、地区ラリーや奉仕活動の取りまとめを行う「全体行事部門」と地区内で実施するスカウト向けの活動の企画・運営を行う「スカウト部門」の2部門があります。

2010年度までは、野営行事委員会、ベンチャー委員会、進歩委員会が現在のスカウト支援委員会の担当する事業を担当していましたが、神奈川連盟の委員会の再編に伴って合併。2020年度からは進歩部門を別の委員会として分離し、現在の形になっています。

## ■全体行事部門

2010年度まで野営行事委員会として展開してきた事業を継続して実施。川崎地区唯一の全体行事「川崎地区スカウトラリー」の企画・運営の主体部門となっています。そのほか、地域の行事の奉仕活動の取りまとめを行っています。

## 【川崎地区スカウトラリー】

基本的に4年間に3回、9～10月に実施している川崎地区唯一の全体行事。近年は、各団の企画によるゲームやクラフトのコーナーを会場内に設置し、組やグループごとに回る内容がメイン。BSについては、課題ハイキングやオリエンテーリングを実施しています。過去には運動会のような内容で実施したことも…。

## 【川崎地区 B-P 祭】

4年に1回、「川崎地区スカウトラリー」がない年次の2月に市内のホールで実施。B-Pの功績やボーイスカウトの成り立ちなどをスライドなどで紹介。近年は、団ごとのコンテストを実施。新ユニフォームコンテストやソングコンテストなどを行っています。

## 【地域奉仕活動】

1月にとどろきアリーナで行われる成人の日を祝うつどいの運営協力、3月に行われる川崎市主催の青少年フェスティバル会場係、5月の「ザ・よこはまパレード」の沿道奉仕などの地域奉仕活動の案内と取りまとめを担当しています。各奉仕活動には多くのスカウト・リーダーに参加いただいております。

## ■スカウト部門

各隊レベルで行われる地区行事の企画・運営を担当。団をまたぐスカウト活動を支援し、団との連携で活発なスカウト活動の支援を行っています。また、地区内のRSの活動のベースとしての機能も目指しています。

## 【地域活動への案内】

川崎市や育成連盟が主催する行事への委員の派遣。主にVS・RSが対象になります。成人式関係の実行委員会、青少年フェスティバル実行委員会、中高生リーダー勉強会企画委員など。

## 【ビーバーまつり】

毎年6月に行われる「ビーバーまつり」。地区内のBVSが集まって実施される運動会形式のゲーム集会です。各隊の隊長の企画・運営によって実施されています。委員会としては、企画のサポート、会場の選定、機材の準備などを担当。会場の都合や新型コロナウイルスの影響で3年ほど中断しています。



## 【スカウトフォーラム】

地区内のベンチャースカウトが集まり、一つのテーマについて議論をするプログラム。その中から代表を選び、神奈川連盟のスカウトフォーラムに参加。その後の選考次第では、神奈川連盟を代表して日本連盟のスカウトフォーラムに参加することもありました。

「他人の話を聞き理解すること」、「自分の考えを整理して相手に伝える」ことの難しさを知る良い機会となっています。

## 【ベンチャー大集会】

GATCが行われない年次を実施。GATCを補完するプログラム。1999年より「ベンチャーのベンチャーによるベンチャーのためのプログラム」をテーマにスタート。毎回さまざまな内容で実施しています。

### 【GATC(Golden Ax Training Course)】

VS の合同隊。隔年で実施されています。活動期間は概ね 9 月からの半年間。各団から合計 20 名程度のスカウトが集まって活動します。普段、団では実施しにくいプログラムをメインに実施しています。技能面の習得も目的の一つですが、RS 活動にもつながる仲間の育成も大きな目標です。2021 年度は、第 27 期がプログラムを展開中。70 周年記念式典ではメインスタッフを務めています。

神奈川連盟のシニア(現在のベンチャー)の集合訓練としてスタートしたこのプログラムですが、GATC として残っているのは川崎地区のみです。



### 【技能章勉強会】

過去には、各種技能章に対応した勉強会を行っていましたが、進歩制度の大幅な改定に伴い、「技能章勉強会」としての事業は現在実施していません。ただし、準章の進級に必要な「パイオニアリング章」については「白梅隊」と「GATC」の中で実施。各団では実施が難しい課目を中心に展開しています。

### 【白梅隊】

長年実施されている BS の合同隊。始まりは 1958 年。歴史あるプログラムです。当初は、春休みを利用して固定の訓練キャンプを実施していましたが、近年の進歩制度や指導者の構成の変化に対応し、9～10 月の連休を利用した移動野営(一泊)をメインにプログラムを展開しています。GATC とともに団を越えた仲間づくりの一助となっています。近年は 20 名程度の参加があります。2021 年度は、第 49 期が実施されました。新型コロナウイルスの影響で、大幅に日程の変更がありましたが無事にプログラムを終了しています。2010 年度までは進歩委員会が担当でしたが、現在はスカウト部門が担当。



### 【ローバーイベント】

RS による RS のためのプログラム。地区内の RS から上がった企画を審査し、都度実施するもの。過去にはスキー旅行やキャンプなどを実施。今後の活性化が望まれる事業です。



## 進歩委員会

委員長 渋谷健太郎

進歩委員会は、スカウトと直接やり取りのある委員会の一つで、2021年度からスカウト支援委員会の進歩担当部門から独立して委員会として活動しています。

主な活動内容は、菊スカウト章、隼スカウト章、富士スカウト章の地区面接会の実施のほか、スカウトの進歩に関する行事の企画・運営を行っています。

平成 29(2017)年度から新しい進級制度が始まり、ボーイスカウトとベンチャースカウトの進級制度が一本化され、初級スカウトから一つ一つのステップをクリアして、到達点である富士スカウト章を目指す制度になりました。選択課目のターゲットバッジが廃止され、技能章に一本化され、進級課目と連動して取得を要するものや隊長の認定で取得できる技能章が追加され、普段の活動の積み重ねにより進歩進級を目指していく内容となっています。

スカウトハンドブックも大幅に改訂され、令和元(2019)年 10 月にベーシック、令和 3(2020)年 2 月にアドバンスが発刊されました。2020 年度からはコロナ禍において、活動の工夫が求められました。また、オンラインを活用した勉強会や班会議の実施、委員会としてはスカウトの面接会もオンラインで開催しています。

令和 4(2022)年度からは、さらに複数人をメンバーとして迎え、スカウトが充実した活動ができるよう、また指導者が進歩進級に連動した活動を実施できるよう支援して参ります。スカウトがこれらの経験を活かして後輩スカウトに技能や心構えを伝えていくこと、そして社会にはばたくことを目指し、70 周年を機に次の 10 年に向けて大いに前進して参りましょう。



オンライン開催の面接会風景



# 国際委員会

## International Committee

委員長 西角 恵輔

国際委員会の主な活動は、地区のスカウト、父母、指導者にボーイスカウトにおける国際交流の意義と楽しさを理解いただき、実際に参加頂くことにあります。ボーイスカウト活動は全世界に共通な理念と枠組みを利用した教育運動であり、世界に触れることでボーイスカウトの活動意義は、何倍、何十倍にも広がり、「よりよい社会人の育成」という目標に貢献できます。

川崎地区は先達の先見性と努力のおかげで、

「ボルチモア-川崎スカウト交流」を35年以上も前に開始して、年々双方で交流派遣に参加する優秀なスカウトを輩出して来ました。またそこでできた人的な交流の輪は、スカウトのみならず、ホストファミリーや指導者、支援者など、両市を跨った強い絆に繋がり、末長い文化交流の礎になっています。また団単位でなく地区でのスカウト活動の絆、ボーイスカウトだけでなく、同じ理念で活動するガールスカウトを含めた国際交流活動の絆に繋がっております。



今後も国際委員会では、ボルチモア市とのスカウト交流、派遣事業および受け入れ事業を成功裡に実行することを最大の使命としながら、コロナ禍で生まれたバーチャル交流など様々な国際交流の形を取り入れて、国際交流をより身近に、沢山の機会を提供できるように、活動を企画・運営して行きます。

スカウト活動の形は変化をしても、変わらないスカウト理念と相手の立場に立つおもてなしの精神を大切にしながら、未来のスカウト達がボルチモアへ訪問し視野を広げることができるよう、ホストファミリーとしてスカウトを迎えて、友情を育むことができるよう運営して参ります。



以上を末長く持続してゆくには、国際委員会だけでなく、川崎地区指導者、保護者、医療サポートや通訳など地域の支援者の皆様の協力、ボルチモア市における地区指導者、保護者、姉妹都市委員会など

支援者の協力が不可欠であります。日頃の皆様のご支援に多大なる感謝を申し上げますと同時に、継続的なご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

#### 【国際委員会メンバー】



#### Baltimore-Kawasaki Scout Exchange

##### 川崎地区シンボルマーク

##### シンボルマークワッペン



##### 派遣隊 OB/OG メンバーシップワッペン





## 指導者養成委員会

委員長 曾根 純一

私たち指導者養成委員会は、ボーイスカウト講習会(年/3回)、安全研修会(年/2回)、ボーイスカウトスキルサポートセミナー(年/2回)の開設業務として、講習会で使用する会場の確保、開催要項の作成、参加者の受付、講習会で使用する資料の準備と会場の設営を担当しています。

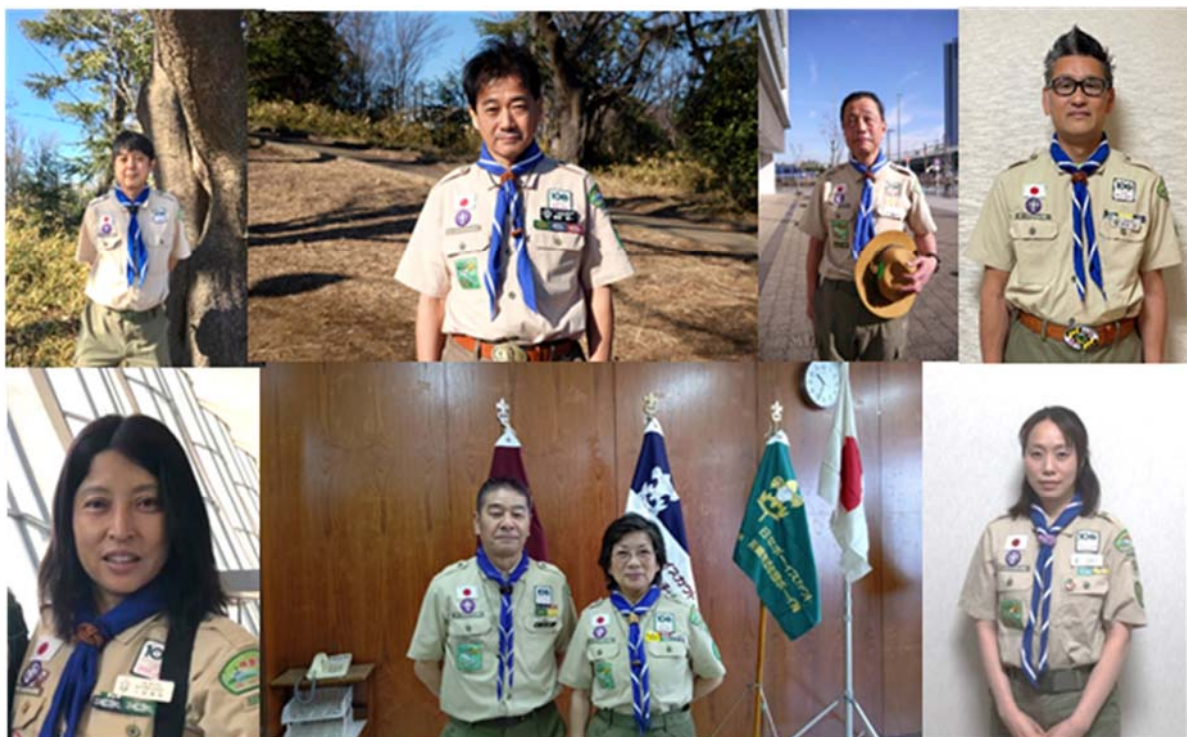
令和2年、3年度は新型コロナウイルス禍の影響を受け、スカウト活動が実施できなくなる事態となりました。

そのような中、指導者養成事業は日本連盟のガイドライン、神奈川連盟、川崎地区の考え方に

基づき対応し、参加者、講師、関係者の皆さまにとって安心・安全な運営を行いました。

安全研修会はWeb講習会として、本来の目的が達成できるよう、展開方法を工夫し開催いたしました。

私たち指導者養成委員会は『つながる つなげる 今までも これからも』の基、スカウト教育の促進につなげていくよう、コミッショナー、トレーニングチームと連携し指導者養成事業に取り組んで参りますので、これからもご支援ご協力をお願い致します。





# 安全委員会

委員長 池村 重信

## 【安全委員会の主な活動】

### 救護所の開設

地区ラリー、ビーバー祭りで救護所を開設し、人が人や急病等事故の発生から処理までの支援を行い、その際に VS の救護章取得の為奉仕を募りサポート体制を整え参加したスカウトが安全で楽しい事業となるように今後も努めたいと思います。

### セーフ・フロム・ハームセミナーの促進

平成 28 年度より日本連盟の指導で始まったセーフ・フロム・ハームの理解促進に支援しています。

川崎地区も平成 29 年度よりセーフ・フロム・ハームセミナーを開催し『思いやりの心を育む教育』を理解して頂き今後の活動に活かすことを目的として『傷害・危害を受ける事のない安全・安心な状態』を指導者が築き上げてスカウト、保護者が安心してスカウト活動に参加出来る様促進に努めています。現在川崎地区のセーフ・フロム・ハームセミナー参加者の履修率は約 60%となっています。また、指導者及び RS のセーフ・フロム・ハーム登録前研修の受講にも支援しています。



### 『ビッグレスキューかながわ』他防災訓練の奉仕

関東大震災の時期に合わせ神奈川県内の各地で開催される『ビッグレスキューかながわ』の奉仕に参加し災害時に活かせる救援活動の実践訓練として奉仕を募り県連安全委員会が主体となり炊き出し訓練を実施しています。他団体の救援活動や消防署・自衛隊・米軍などが参加し普段触れる事が出来ない救助活動の様子も見学が出来、奉仕に参加した意義を感じ取る事が出来ます。

### 今後について

2020 年度から新型コロナウイルス感染の影響で主な活動に影響もありましたが、この先収束に向かえば過去に開催したターゲットバッジ『救護』取得勉強会の開催等スカウト活動に大切な事業も展開出来る様に各団の皆様へ支援していきますので宜しくお願いします。



## トレーニングチーム

主幹 曾根 純一

全ての隊指導者の皆さま、団指導者の皆さま。  
平素よりスカウト活動にご尽力いただきありがとうございます。

すべてはスカウトのために！！ スカウト教育法  
8つの要素の一つとして“成人の支援”があります。

川崎地区トレーニングチームは、各団の隊指導者、団指導者からなり、現在、主幹、副主幹、指導要員 14 名の計 16 名で活動しています。

活動の内容としては、ボーイスカウト講習会、ボーイスカウトスキルサポートセミナー、安全研修会、セーフフロムホームセミナー、WB事前課題勉強会の実行部隊として活動しています。

ボーイスカウト講習会では、参加者の方々にスカウト活動の内容をわかりやすく、スカウト教育の原理と基本的な方法を正しく知っていただけるよう

お伝えし、スカウト活動へのご支援をお願いしています。

また、日頃の活動で必要となる、知識・技能の習得、向上を目的に安全研修会、ボーイスカウトスキルサポートセミナー、セーフフロムホームセミナーを実施しています。

トレーニングチームは今後も、コミッショナーグループ、指導者養成委員会、安全委員会と連携して、情熱的な指導者の発掘と各団の指導者に対し支援を続けてまいりたいと考えています。

今日まで70年という長い歴史、その中で一步一步指導者養成活動を進めることが出来たのも、ひとえに諸先輩方々のご支援と奉仕の賜物と心からと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

主 幹	曾根 純一	(第 49 団)	副 主 幹	木村 寿宏	(第 54 団)
指導要員	岩田 泰	(第 38 団)	指導要員	北條 賢一	(第 39 団)
指導要員	久保井 基隆	(第 46 団)	指導要員	北村 岳人	(第 46 団)
指導要員	渋谷 健太郎	(第 46 団)	指導要員	山川 信一	(第 49 団)
指導要員	水島 一誠	(第 53 団)	指導要員	黒田 信	(第 54 団)
指導要員	香焼 真人	(第 54 団)	指導要員	池村 重信	(第 56 団)
指導要員	黒澤 美喜子	(第 56 団)	指導要員	鈴木 實	(第 56 団)
指導要員	栗田 哲郎	(第 57 団)	指導要員	境 紳隆	(第 57 団)

# 70 周年特別委員会

委員長 池村 重信

ボーイスカウト川崎地区創立 70 周年おめでとうございます。人に例えれば古希となり『人生七十五古来稀なり(70 年生きる人は古くから稀である)』に由来すると言われています。これまで川崎地区の長い歴史を築かれたのは地区の飛躍と発展を願って過去に開催された記念事業にも御尽力を頂いた諸先輩方による努力の賜物と思います。

私達70周年特別委員会も諸先輩方から引き継ぐ形で70周年記念事業の開催へ準備を進める事になり各団からの精鋭が結集しました。当初は2020年度開催に向けた準備をしていましたが、ご承知の通り新型コロナウイルス感染拡大に伴い2021年度へ延期となりました。そして、委員会のメンバーと開催に向けた検討を重ね以下の事業を展開する事になりました。

## 70 周年記念事業の紹介

### テーマ『つなげる つながる 今までも これからも』

- ① 記念マーク(ワッペン)の作製 制服に着装  
70 周年特別委員会
- ② スカウトフェスタ開催 2021年10月3日(日) こどもの国  
スカウト支援委員会 林委員長  
井上副委員長・各団実行委員
- ③ 記念式典 一部 主催者挨拶・来賓紹介及び挨拶・表彰他  
北村コミッショナー・大坪副コミッショナー・コミッショナーG、  
総務委員会 鈴木委員長
- ④ 記念式典 二部 アトラクション・各団出演コーナー他  
スカウト支援委員会 林委員長・井上副委員長  
指導者養成委員会 曾根委員長・各団実行委員  
\*③④の開催は2021年2月6日(日) エポック中原
- ⑤ 記念誌の編纂  
境 編纂部長・総務委員会 渡辺委員・各団実行委員
- ⑥ 記念品の作製 加盟員に配布・・・70 周年特別委員会



スカウトフェスタはSDGs(持続可能な開発目標)をテーマに各団から提出された企画を各団によってプログラムを展開し、記念式典は一部で来賓紹介・挨拶、表彰他、二部は各団ビデオ紹介、ゲーム等それぞれスカウトが唯一参加できる事業として70周年を盛り上げる為開催予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け残念ながら参加者の安全を優先し中止となってしまいました。それぞれの事業に御協力を頂いた各団実行委員の皆様には大変感謝しております。有難うございました。

他の事業として、記念マークでは各団からの募集で31作品のデザインを寄せて頂き有難うございました。その中で川崎第39団CS隊 湯浅 楠乃羽(ゆあさ ののは)さんが最優秀作品として採用され加盟員の制服にワッペンとして装着されました。

記念誌の編纂に関わった委員の方々はお祝いのメッセージや各団の紹介ページ、70年の歴史を振り返る資料集め、『われらが青春時代の話しよう』のテーマで座談会を企画し開催した事も含め編纂にご努力を頂いた事と思います。記念品の作製に委員会のメンバーで検討し、70周年のシンボルマークを取り入れて実用性ある物が出来上がりました。

この度の70周年特別委員会は予期せぬ影響で全事業の開催が出来ない状況に巻き込まれましたが、この先の未来に向けた良い課題とポジティブに捉え80周年では倍増された内容で川崎地区が更なる飛躍と発展する事を希望し80周年が成功する事を祈ります。尚、今回70周年特別委員会のメンバーとして御尽力頂きました皆様本当に有難うございました。心より感謝申し上げます。



# コミッショナーグループ

地区コミッショナー 北村 岳人

スカウト運動は、BPが考案したプログラムから出発し、約100年の間、今日まで世界の国々で展開されてきました。

「スカウト運動を伝承する」のがコミッショナーとされています。

私たちの誰もが、幸せな人生を送りたいと思い願うためのヒントをBPは最後のメッセージで「幸福を得る本当の道は、この世の中を一人ひとりが受け継いだ時より、少しでも良くするよう努力すること」と述べています。

全ての隊・団指導者は、スカウト教育の根幹である「人格・健康・技能・奉仕」の4本柱を通じて、日本や世界が今よりも少しでも良くなるよう、日々の研鑽を続けていこうではありませんか！

役 務	氏 名	担当部門	担当団
地区コミッショナー	北村 岳人	RS	54
地区副コミッショナー	香焼 真人	BVS	43・49・56
地区副コミッショナー	大坪 邦裕	CS	22・53・57
地区副コミッショナー	木村 寿宏	BS	
地区副コミッショナー	栗田 哲郎	VS	
団担当コミッショナー	水島 一誠	団	26・38・39・46

## 【コミッショナーの任務】

仕事は多岐に渡り、主なものは以下です。

- ①スカウト運動の啓発と推進
- ②団・隊のスカウト運動の目的達成に向けた活動  
援助・指導・助言  
○団・隊訪問  
○ラウンドテーブルの主宰  
○セーフ・フロム・ハーム研修  
○日本連盟、県連盟、地区の活動方針、各種情報の伝達、理解の促進  
○地区のスカウト活動状況、要望事項に関する情報集約及び県連盟への伝達
- ③地区委員会や地区協議会に対する指導・助言
- ④地区内の人材開発・活用、研修の提供  
○地区トレーニングチームの統括  
○基礎訓練課程(WB研・団研)・上級訓練課程(WB実・団実)への参加促進と支援
- ⑤団・隊への支援に向けた各種運営委員会の活動に対する援助・指導・助言
- ⑥スカウト活動の支援(面接、海外派遣)
- ⑦加盟登録審査(継続登録審査)
- ⑧地区名誉会議の開催(各種表彰推薦)



# 川崎地区の記録

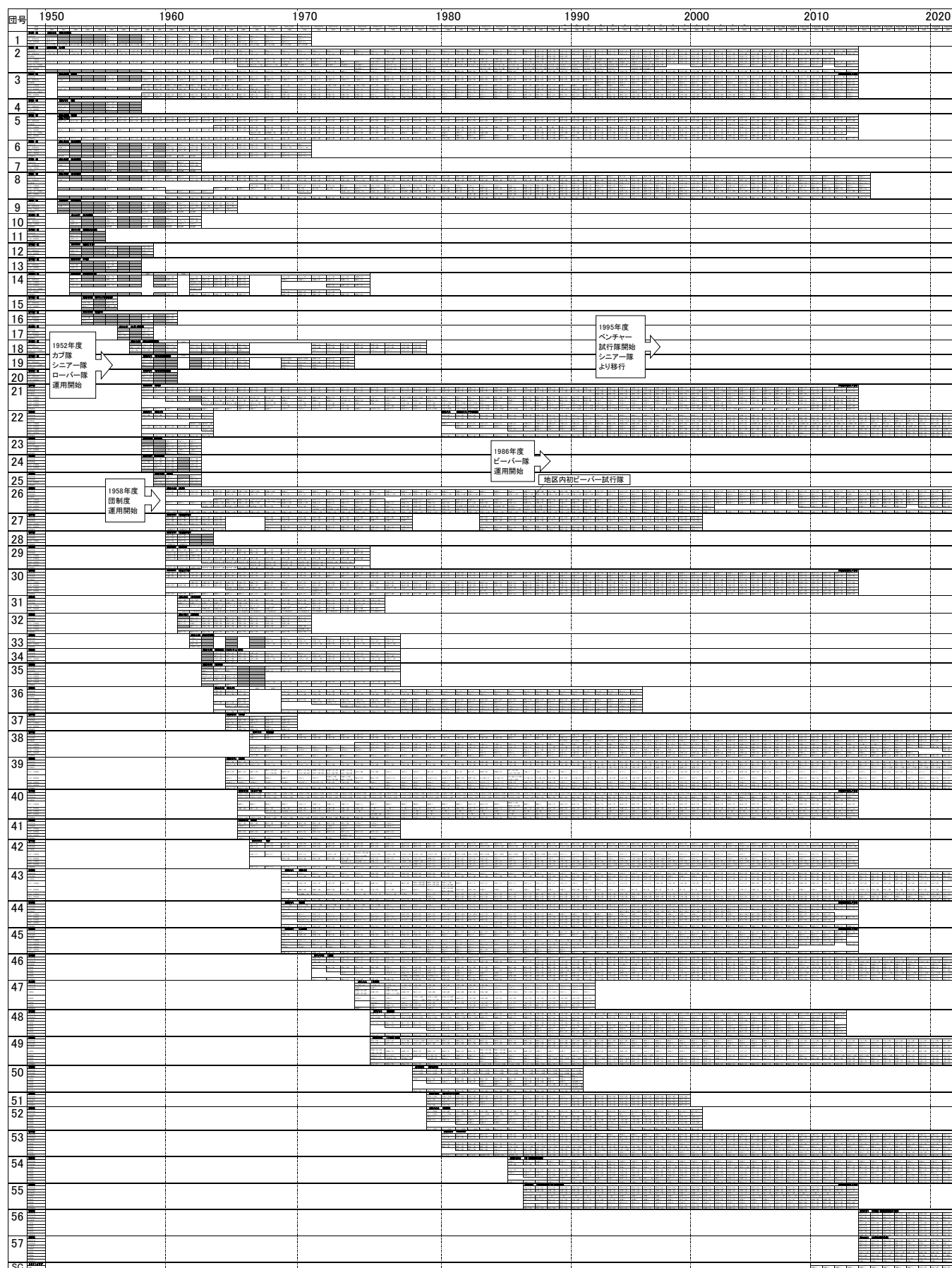


## 川崎地区構成団・初期登録一覧

隊	初期登録日	所在地等	隊・団委員長	隊長
1隊	1950/3/9	新日本学園	島田 公子	BS/島田 武三
2隊	1950/5/24	小杉地区	小林 英男	BS/米田 正文
3隊	1951/3/20	田島地区	小清水 黄二	BS/柏倉 秀和
4隊	1951/4/1	橋地区	岩沢 栄治	BS/金子 実
5隊	1951/7/13	新城地区	塩原 三男	BS/赤羽 理一
6隊	1951/9/15	日本鋼管渡田工場	斉藤 平六	BS/斉藤 平六
7隊	1951/9/27	日本鋼管渡田工場	斉藤 平六	BS/斉藤 平六
8隊	1951/9/27	日本鋼管渡田工場	斉藤 平六	BS/斉藤 平六
9隊	1951/12/27	日本鋼管渡田工場	斉藤 平六	BS/斉藤 平六
10隊	1951/12/27	日本鋼管渡田工場	斉藤 平六	BS/斉藤 平六
11隊	1951/11/28	大島1丁目	野田 藤吉	BS/荻野 正行
12隊	1951/12/14	渡田1丁目	村越 源造	BS/寺本 博
13隊	1952/6/27	上丸子山王町	小沢 資敏	BS/石原 広巳
14隊	1952/6/27	南幸町2丁目	篠崎 真作	BS/天野 春男
15隊	1953/5/30	貝塚カトリック教会	木村 二郎	BS/遊佐 庸一
16隊	1954/5/20	貝塚・清証寺	川村 英耀	BS/菅井 仙三
17隊	1956/11/27	小田・浅田地区	田中 明	BS/芝山 善和
18隊	1957/4/25	中原・富士通	渡辺 勇三郎	SS/山岸 光雄
団	規約改正により隊制度から団制度に改正(1958/2/28)			
19団	1958/6/4	中原・富士通	渡辺 勇三郎	
20団	1958/6/4	中原・富士通	渡辺 勇三郎	RS/平川 栄吉
21団	1958/5/8	大師地区	杉山 武	CS/杉山 晃
22団	1958/5/1	新丸子地区	小林 福三	BS/佐川 直道
(復団)	1980/4/1	カトリック中原教会	佐川 直道	CS/福島 晃
23団	1958/6/18	姥ヶ森	小林 福三	CS/青木 芳夫, BS/青木 芳夫
24団	1958/10/7	大師殿町	石井 龍雄	CS/辺見 久吉
25団	1959/7/21	桜本地区	鈴木 精	BS/村田 信次
26団	1960/4/18	古川町・ひかり幼稚園	吉田 尚弘	BS/鹿俣 忠
27団	1960/9/17	三豊製作所	沼田 恵範	SS/高橋 正弘
28団	1960/9/17	三豊製作所	沼田 智秀	SS/高西 広登
29団	1960/10/22	宮前町地区	緒方 鉄雄	CS/久保内 三郎, BS/長谷川 雅秀
30団	1960/10/22	大島町地区	小幡 佐助	BS/山岸 梅茂
31団	1961/6/8	NEC玉川工場	高橋 昇	SS/佐々木 孝夫
32団	1961/12/1	大師東門前	和田 文男	CS/藤井 信光
33団	1962/4/20	(地区青年隊)	小林 英男	RS/柏倉 秀和
34団	1963/1/26	昭和油化川崎工場	北原 晴征	RS/吉沢 和雄
35団	1963/8/20	宮前地区	楠原 守	CS/渡辺 公, BS/長谷川 雅秀, SS/伊藤 昭之
36団	1961/6/10	中原・丸子通	近藤 俊朗	BS/鈴木 良雄
(復団)	1970/12/20	中原・丸子通	山口 安雄	CS/金子 徹也
37団	1965/5/27	小向仲野町地区	山口 譲	CS/崎詰 信友, BS/星野 陽一
38団	1967/4/1	南加瀬地区	深瀬 泰三	BS/大谷 重久
39団	1965/9/11	末永地区	長谷川 雅秀	CS/橋本 広茂, BS/渡辺 公
40団	1966/6/20	木月四丁目	古尾谷 盛太郎	CS/藤岡 栄, BS/加藤 高義
41団	1966/9/10	浜町地区	石和田 正	BS/塚本 敬治
42団	1967/6/14	稲田・菅地区	中村 恒夫	CS/向井 和仁
43団	1969/4/1	百合ヶ丘地区	平川 栄吉	CS/山口 光雄, BS/篠崎 正義
44団	1969/4/1	塚越地区	市川 嘉孝	CS/成川 誠, BS/石井 章夫
45団	1969/4/1	上平間地区	伊藤 恒助	CS/宮本 百子, BS/渡辺 博
46団	1971/7/13	三田地区	古舘 太郎	CS/谷 純一
47団	1974/4/1	下作延地区	後藤 茂	CS1/高橋 建治, CS2/近藤 邦男, BS/中馬 宏
48団	1975/4/1	宿河原地区	金田 幸之助	CS/河合 武夫
49団	1975/6/10	下作延・土橋	倉又 良行	CS/高橋 建治
50団	1978/3/5	稲毛神社(川崎区)	市川 緋佐麿	CS/矢島 忠一
51団	1978/11/12	聖マリアンナ医大	矢後 長純	RS/星 栄一
52団	1979/6/16	多摩区宿河原	村上 善四郎	CS/清水 賢三, BS/佐藤 文夫
53団	1980/6/3	柿生幼稚園	永見 次男	CS/村田 和男, BS/諏佐 一義
54団	1985/10/11	平(宮前区)	貝塚 義勝	CS/山田 光男, BS/大塚 清
55団	1986/4/1	井田中ノ町	長瀬 政義	CS/町田 良治, BS/曾山 仁之
56団	2014/4/1	川崎区	水野 英明	BVS/池田 司, CS/竹内 一泰, BS/若月 周司, VS/田口 祐司, RS/荻原 雅博
57団	2014/4/1	中原区	増田 裕之	BVS/栗田 哲郎, CS/山口 岳人, BS/出射 二三男, VS/緒方 千歳, RS/小出 辰市



## 川崎地区70周年・団隊登録状況一覧図



# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（1）

この少史は、スカウトが参加した大会等を中心に各年度の主要行事、各団の発団記事などを選別まとめたものです。  
今回収集した全史データは、地区のホームページに掲載予定です。

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和25年 (1950)</b>	
3/9	川崎第1隊初期登録
5/24	川崎第2隊初期登録
<b>昭和26年 (1951)</b>	
3/2	地区委員会結成パレード
3/20	川崎第3隊初期登録
4/1	川崎第4隊初期登録
7/13	川崎第5隊初期登録
8/4～9	第3回全国野営大会
9/15	川崎第6隊初期登録
9/27	川崎第7隊初期登録
9/27	川崎第8隊初期登録
11/21	地区委員会結成・役員選出
11/28	川崎第11隊分封(川崎第3隊より)
12/27	川崎第9隊初期登録
12/27	川崎第10隊初期登録
12/14	川崎第12隊初期登録
<b>昭和27年 (1952)</b>	
6/27	川崎第13隊初期登録
6/27	川崎第14隊初期登録
8/8～10	第2回神奈川県連盟野営大会
10/26	川崎地区創立2周年記念祭(技能大会)
<b>昭和28年 (1953)</b>	
5/30	川崎第15隊初期登録
8/7～9	第3回神奈川県連盟野営大会
10/17～18	川崎地区創立3周年記念大会
<b>昭和29年 (1954)</b>	
5/20	川崎第16隊初期登録
8/1～5	川崎地区第1回合同野営大会
10/18	川崎地区創立4周年記念祭
<b>昭和30年 (1955)</b>	
2/20	第1回B-P祭
8/20～23	川崎地区第2回合同野営大会
10/23	川崎地区創立5周年記念祭
<b>昭和31年 (1956)</b>	
8/3～7	第1回日本ジャンボリー
10/20	川崎地区創立6周年記念式
11/27	川崎第17隊初期登録
<b>昭和32年 (1957)</b>	
4/25	川崎第18隊初期登録
8/2～5	第3回川崎地区合同野営大会
9/7	中華民国童子軍(台湾ボーイスカウト)来川
10/20	川崎地区創立7周年記念式
<b>昭和33年 (1958)</b>	
2/28	日本連盟総会にて団制度制定
4/14	川崎地区総会
5/8	川崎第21団初期登録
5/1	川崎第22団初期登録
6/4	川崎第19団初期登録
6/4	川崎第20団初期登録
6/18	川崎第23団初期登録
10/7	川崎第24団初期登録
10/19	川崎地区創立8周年記念式
<b>昭和34年 (1959)</b>	
4月	神奈川連盟・初代連盟長に小清水氏就任
7/21	川崎第25団初期登録
7/17～26	第10回世界ジャンボリー・地区スカウト初参加
8/2～10	第2回日本ジャンボリー
10/18	川崎地区創立9周年記念式

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和35年 (1960)</b>	
4/3	地区年次総会
4/18	川崎第26団初期登録
7/3	地区創立10周年記念向野営大会
8/12～15	川崎地区創立10周年記念・合同野営大会
9/17	川崎第27団初期登録
9/17	川崎第28団初期登録
10/22	川崎第29団初期登録
10/22	川崎第30団初期登録
10/30	川崎地区創立10周年記念大会
<b>昭和36年 (1961)</b>	
3/12	B-P祭
3/26	カボラリー(CS・BSスカウト通信訓練)
4/9	地区年次総会
6/8	川崎第31団初期登録
8/4～7	県連主催・神奈川県キャンボリー
8/13～15	第2回GB訓練
10/8	第1回カブラリー
11/5	川崎地区創立11周年記念式
12/1	川崎第32団初期登録
<b>昭和37年 (1962)</b>	
3/10～11	第1回年長スカウト白梅隊訓練会
3/17～18	第5回少年スカウト白梅隊訓練会
3/20	B-P祭
4/8	地区年次総会
4/20	川崎第33団初期登録
6/3	第2回カブラリー
6/16～17	オーバーナイトハイク
8/3～8	第4回アジアジャンボリー
9/29～30	第2回CB訓練会
11/3	第3回カブラリー
<b>昭和38年 (1963)</b>	
1/13	スカウト新年ラリー(ゲーム大会)
1/26	川崎第34団青年隊・隊審査
4/7	地区年次総会
8/9～12	野営大会
8/16～19	第4回GB訓練
8/20	川崎第35団初期登録
10/20	第4回カブラリー
11/17	川崎地区協議会創立13周年記念式
<b>昭和39年 (1964)</b>	
2/23	B-P祭
3/15～16	白梅隊訓練会
4/11	地区年次総会
6/10	川崎第36団・初期登録
8/7～10	野営大会
8/22～25	第5回班長特別訓練会
11/1	全国カブラリー関東大会
<b>昭和40年 (1965)</b>	
2/7	地区大会(B-P祭・地区創立14周年記念祭)
3/20～21	少年白梅隊訓練会
4/18	地区年次総会
5/2	関東ブロック・カブラリー大会
5/27	川崎第37団初期登録
8/6～9	地区15周年記念野営大会
9/11	川崎第39団初期登録
10/24	川崎地区創立15周年記念祭式
11/3	第5回カブラリー
11/21	神奈川連盟15周年記念大会

# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（2）

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和41年 (1966)</b>	
2/26～27	白梅隊訓練会
4/10	地区年次総会
5/5	日本連盟『無名の戦士』碑贈呈式
5/21～22	第5回GB訓練会
5/22	第4回関東カブラリー大会
6/12	航海実科訓練・特別参加
6/20	川崎第40団初期登録
8/4～9	第4回日本ジャンボリー
8/18～21	野営大会
9/10	川崎第41団初期登録
10/23	川崎地区協議会創立16周年記念祭式
<b>昭和42年 (1967)</b>	
4/1	川崎第38団初期登録
4/2	第5回関東カブラリー
4/9	地区年次総会
6/14	川崎第42団初期登録
8/10～13	地区野営大会
10/22	川崎地区協議会創立17周年記念祭式
11/3	第6回カブラリー
<b>昭和43年 (1968)</b>	
4/14	地区年次総会
5/5	川崎市青少年団体助成会発会式
8/14～18	県キャンボリー(合同野営)大会
9/21～22	BS隊班長特別訓練
10/26～27	地区18周年記念行事(オーバーナイトハイク)
10/27	川崎地区協議会創立18周年記念式
11/10	第7回カブラリー
<b>昭和44年 (1969)</b>	
3/22～23	白梅隊訓練会
4/1	川崎第43団初期登録
4/1	川崎第44団初期登録
4/1	川崎第45団初期登録
4/26	地区年次総会
7/25～31	地区野営大会(分散方式)
8/2～11	地区創立20周年記念行事沖縄キャンプ大会
10/11～12	GB訓練会
11/8	川崎地区協議会創立19周年記念式
12/20	川崎第36団・初期登録(復団)
<b>昭和45年 (1970)</b>	
3/14～15	白梅隊訓練会
4/12	地区年次総会
8/5～10	第5回日本ジャンボリー
10/1～6	川崎地区協議会創立20周年記念スカウト展
10/11	川崎地区協議会創立20周年記念式典
11/8	第8回カブラリー
11/21～23	GB訓練
12/25	故 長谷川雅秀 地区コミッショナー 逝去
<b>昭和46年 (1971)</b>	
2/21	B-P祭
4/18	地区年次総会
7/13	川崎第46団初期登録
7/25～31	地区野営(分散方式)
8/2～9	第13回世界ジャンボリー
10/24	川崎地区協議会創立21周年記念式
11/3	第9回カブラリー
12/4～5	GB訓練会

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和47年 (1972)</b>	
1/14～16	RS冬季キャンプ訓練会
2/20	B-P祭
3/18～20	白梅隊訓練会
4/2	川崎第46団BS隊初隊審査
4/16	地区年次総会
8/5～6	関東カブラリー
8/18～21	地区野営大会
10/22	地区創立22周年記念祭
11/5	第10回カブラリー
<b>昭和48年 (1973)</b>	
1/20～21	GB訓練
3/29～1	白梅隊訓練会
4/15	地区年次総会
8/10～13	地区野営大会
10/21	地区記念祭(第23回)
11/3	第11回カブラリー
<b>昭和49年 (1974)</b>	
3/29～1	白梅隊
4/1	川崎第47団初期登録
4/14	地区年次総会
8/1～6	第6回日本ジャンボリー
11/2～3	地区ラリー
11/8	第11回・地区カブラリー
<b>昭和50年 (1975)</b>	
2/22	B-P祭
3/16	GB訓練
3/27～31	白梅隊
4/1	川崎第48団初期登録
4/6	地区年次総会
6/10	川崎第49団初期登録
7/6	故 小清水黄二 名誉地区協議会長 告別式
11/2	地区ラリー
<b>昭和51年 (1976)</b>	
2/22	B-P祭
3/28～31	白梅隊訓練会
4/18	地区年次総会
8/6～9	地区野営大会
10/30	青少年育成連盟創立30周年記念式典
11/23	地区記念祭(24回)
<b>昭和52年 (1977)</b>	
2/20	B-P祭
4/17	地区年次総会
5/29	GATC発隊式
8/4～8	第9回神奈川県キャンボリー(9KC)
<b>昭和53年 (1978)</b>	
2/19	B-P祭
3/5	川崎第50団・初期登録
3/27～30	白梅隊
4/16	地区年次総会
8/4～8	第7回日本ジャンボリー(7NJ)
9/3	地区ラリー
10/22	地区記念祭・ラブリバー奉仕
11/3	県連カブラリー



# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（3）

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和54年（1979）</b>	
3/18	B-P祭
4/15	地区総会
6/16	川崎第52団・初期登録
8/26	G.A.T.C発隊式
11/3	地区ラリー、キャップハンディ活動
12/9	川崎第51団・初期登録
<b>昭和55年（1980）</b>	
3/16	B-P祭
3/27～31	白梅隊訓練会
4/1	川崎第22団・初期登録(復団)
4/13	地区総会
6/3	川崎第53団・初期登録
8/2～6	地区創立30周年記念野営大会
11/9	川崎第53団発団式
<b>昭和56年（1981）</b>	
1/18	地区創立30周年記念式典
3/26～30	白梅隊
4/19	地区総会
5/10	GATC発隊
10/25	CS地区20周年記念行事
10/25	GATC解隊
<b>昭和57年（1982）</b>	
2/28	ウォークメンズラリー
4/11	地区年次総会
5/1～3	白梅隊キャンプ
8/2～6	第8回日本ジャンボリー
9/4～5	第2回チャレンジラリー
12/11	地区30周年記念誌発行
<b>昭和58年（1983）</b>	
2/20	県連B-P祭
3/26	日米フレンドシップパトローリー
3/30～4/3	白梅隊キャンプ
4/17	地区年次総会
6/5	スカウトバンドの集い
8/24	臨時地区総会
9/4	チャレンジラリー
9/4	川崎第8期GATC発隊式
<b>昭和59年（1984）</b>	
3/24～27	白梅隊キャンプ
3/25	川崎第8回GATC解隊式
3/30～4/1	日米フレンドシップパトローリー
4/15	地区総会
7/27～8/4	第1回シニア大会(日本ベンチャー84)
9/9	地区ラリー(インデアンズラリー)
<b>昭和60年（1985）</b>	
3/28～31	白梅隊全体キャンプ
3/29～31	日米フレンドシップパトローリー
3/26～4/4	洋上スカウティング・神奈川の船
4/14	地区総会
4/28	GATC結隊式
7/7	賛助会設立総会
7/19～8/1	第1回ボルチモア交流派遣隊訪米
7/28～8/5	GATC北海道第4回シニア大会参加
9/15～16	川崎地区創立35周年記念ラリー
10/11	川崎第54団・初期登録
11/24	県連カブラリー

年 月 日	活 動 内 容
<b>昭和61年（1986）</b>	
3/27～30	白梅隊訓練キャンプ
4/1	川崎第55団・初期登録
4/13	地区総会
7/27～8/14	第2回ボルチモア交流派遣隊来日
8/2～6	第9回日本ジャンボリー(9NJ)
9/14	地区ラリー(インデアンズラリー)
10/30	第1回BSアゼリアカップゴルフ大会
11/1～3	AKSC
<b>昭和62年（1987）</b>	
2/21	'87ビッグバンドDEダンス
3/22	青少年育成連盟40周年記念式典
3/26～29	白梅隊訓練キャンプ
4/19	地区総会
5/31	GATC結隊式
6/6	GATC 1泊キャンプ
7/18～8/2	第3回ボルチモア交流派遣隊訪米
11/14～15	GATCオーバーナイトハイク
11/21～22	第2回AKSC
<b>昭和63年（1988）</b>	
1/17	臨時地区総会
2/7	地区B-P祭
2/27	第2回ビッグバンドDEダンス
3/6	白梅隊結隊式・隊集会
3/26～29	白梅隊訓練キャンプ
4/17	地区総会
7/23～8/7	第4回ボルチモア交流派遣隊来日
7/25	地区相談役秋山六郎氏葬儀
7/29～8/5	第2回日本ベンチャー大会(2NV)
9/11	地区ラリー
10/9～10	第3回AKSC・野営法研修会
<b>昭和64年・平成元年（1989）</b>	
2/25	第3回ビッグバンドDEダンス
3/5	白梅隊結隊式・隊集会
3/25～28	白梅隊訓練キャンプ
3/31～4/2	日米フレンドシップパトローリー
4/16	地区総会
5/7	GATC第11期結隊式
7/19～8/6	第5回ボルチモア交流派遣隊訪米
8/3～7	第10回神奈川キャンボリー(10KC)
9/17	地区ラリー
10/28～29	第4回AKSC
11/4～5	GATC第11期解隊式
<b>平成2年（1990）</b>	
2/24	第4回ビッグバンドDEダンス
3/24～27	白梅隊訓練キャンプ
3/24～27	日米フレンドシップパトローリー
4/15	地区総会
7/8	ビーバー祭り
7/30～8/13	第6回ボルチモア交流派遣隊来日
8/3～7	第10回日本ジャンボリー(10NJ)
8/25～26	カラーチーム編成集会
9/24	地区創立40周年記念地区ラリー
10/28	県連1級スカウト大会
11/17～18	第5回AKSC

# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（4）

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成3年（1991）</b>	
2/?	地区40周年記念誌発行
2/17	地区創立40周年記念式典
2/23	賛助会主催ダンスパーティー
3/30～4/2	白梅隊キャンプ
4/14	地区総会
6/2	GATC12期結隊式
7/7	地区ビーバー祭り
7/24～8/10	第7回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/29	地区ラリー
11/16～17	第6回AKSC
11/17	GATC第12期解隊式
11/20	地区相談役馬場義二郎氏死去
<b>平成4年（1992）</b>	
2/29	ダンスパーティー
3/28～31	白梅隊キャンプ
4/12	地区総会
4/23	平成9年（1997）
7/5	第3回ビーバー祭り
7/19	県連1級スカウト大会
7/26～8/9	第8回ボルチモア交流派遣隊来日
9/27	地区ラリー
11/22～23	第7回AKSC
<b>平成5年（1993）</b>	
2/7	白梅隊結隊式,事前集会
3/26～29	白梅隊キャンプ
4/18	地区年次総会
6/13	GATC結隊式
6/27	ビーバー祭
7/17	GATC第13期 訓練キャンプ
7/21～8/8	第9回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/26	地区ラリー
11/21	第8回AKSC
11/22	GATC解隊式
<b>平成6年（1994）</b>	
2/6	白梅結隊式
3/31～4/3	白梅隊キャンプ
4/17	地区年次総会
6/26	ビーバー祭り
7/24～8/6	第10回ボルチモア交流派遣隊来日
8/3～7	第11回日本ジャンボリー
9/18	地区ラリー
<b>平成7年（1995）</b>	
4/16	地区年次総会
6/18	GATC第14期結隊式
6/25	ビーバーフェスティバル
7/22～8/9	第11回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/24	平成7年度地区記念祭・地区ラリー
11/3	県連スカウトフェスタ'95
11/18～19	第10回AKSC
<b>平成8年（1996）</b>	
3/17	GATC解隊式
3/28～31	第25期白梅隊訓練キャンプ
4/14	地区年次総会
7/7	ビーバーフェスティバル
7/22～8/11	第12回ボルチモア交流派遣隊来日
9/29	平成8年度地区記念祭・地区ラリー
11/30～12/1	第11回AKSC

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成9年（1997）</b>	
2/22	育成連盟50周年記念式典
3/27～30	第26期白梅隊訓練キャンプ
4/20	地区年次総会
6/29	ビーバー祭り
8/7～12	第11回神奈川キャンボリー
9/19	GATC結隊式
9/13	地区ラリー・地区記念祭
11/29～30	第12回AKSC
12/29～	GATCアドベンチャーキャンプ
<b>平成10年（1998）</b>	
2/8	第27期白梅隊結隊式
4/19	地区年次総会
6/28	第9回ビーバー祭り
8/3～7	第12回日本ジャンボリー(12NJ)
8/20	地区ラリー・地区記念祭
11/15	ベンチャーイベント料理コンテスト
11/28～29	第13回AKSC
12/8	故 柏倉秀和 地区副協議会長 逝去
<b>平成11年（1999）</b>	
1/9～10	第28期白梅隊結隊式及び第1回事前集会
3/26～29	第28期白梅隊キャンプ
4/18	地区年次総会
6/27	ビーバー祭り(第10回)
7/21	ボルチモア交流事業再開打合せ
9/18	県連50周年記念式典
9/19	地区ラリー・地区記念祭(平成11年度)
10/1	川崎地区ホームページ開設
10/16～3/26	GATC(16期)
10/17	ビーバーカブラリー(県連50周年記念事業)
10/31	箱根合同班ハイイク(県連50周年記念事業)
11/7	県連50周年植林協力活動参加
11/20～21	AKSC(第14回)
12/18～19	GATCオーバーナイトハイイク
<b>平成12年（2000）</b>	
1/8～9	第29期白梅隊結隊式,隊集会(第1回)
2/11～13	GATC隊キャンプ
3/12	地区50周年記念植樹除幕式
3/25～28	白梅隊キャンプ(第29期)
4/16	GATC川崎16期解隊式
4/16	地区年次総会
6/18	ビーバー祭り(第11回)
7/29～3/4	第5回日本ベンチャー大会
8/9～13	50周年記念キャンボリー
11/12	川崎地区50周年記念式典
11/19	川崎地区50周年記念祝賀会
12/?	地区50周年記念誌発行
<b>平成13年（2001）</b>	
1/7～8	第30期白梅隊結隊式及び第1回集会
2/4	AKSC(第15回)
3/24～27	第30期白梅隊隊キャンプ
3/30～4/1	日米フレンドシップパトローリー大会(第27回)
4/15	地区年次総会
5/26～27	GATC（第17期）
6/24	ビーバー祭り(売店)
7/21～8/4	第13回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/23	地区ラリー
11/24～25	AKSC（第16回）

# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（5）

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成14年 (2002)</b>	
4/14	地区年次総会
6/30	ビーバー祭り(第13回)
7/7	第18回AKSC
7/20～8/4	第14回ボルチモア交流派遣隊来日
8/2～8	第13回日本ジャンボリー
10/20	山田先生を送る会
<b>平成15年 (2003)</b>	
1/12～13	第32期白梅隊結隊式及び隊集会(第1回)
3/9	B-P祭
3/27～30	第32期白梅隊隊キャンプ
4/20	地区年次総会
5/24	GATC川崎第18期・結隊式
6/14～15	GATC川崎第18期 基礎キャンプ
6/29	ビーバー祭り(第14回)
7/20～21	GATC川崎第18期 基礎キャンプ
8/29～31	GATC川崎第18期 アドベンチャーキャンプ
9/28	川崎縦断スカウトラリー
10/11～13	GATC・伊豆大島遠征
11/2	第18回AKSC
11/25	GATC川崎第18期 解隊式
<b>平成16年 (2004)</b>	
3/26～29	第33期白梅隊隊キャンプ
4/11	地区年次総会
6/27	ビーバーまつり
7/16～8/2	第15回ボルチモア交流派遣隊来日
8/2～7	第6回 日本ベンチャー大会(6NV)
9/19	かわさき縦断スカウトラリー 2004
11/20～21	第19回 AKSC
<b>平成17年 (2005)</b>	
2/6	第34期白梅隊結隊式・隊集会
3/26～29	第34期白梅隊 隊キャンプ
4/10	地区年次総会
5/8	技能オリンピック
5/28～29	GATC 第19期 結隊式
6/26	ビーバー祭り
7/23～8/9	第16回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/19	川崎縦断スカウトラリー
10/16	川崎第48団発団記念式典
11/3	県ラリー
11/19～20	AKSC 第20回
<b>平成18年 (2006)</b>	
1/28～29	白梅隊結隊式 第35期
1/28	第35期白梅隊結隊式、第1回隊集会
3/25～28	第35期白梅隊隊キャンプ
4/16	地区年次総会
6/25	ビーバー祭り
7/22～8/5	第17回ボルチモア交流派遣隊来日
8/1～8	第14回日本ジャンボリー
11/19	技能オリンピック
12/3	育連60周年記念祭

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成19年 (2007)</b>	
2/12	B-P祭
2/24～25	AKSC 第21回
3/24～27	白梅隊(第37期) 隊キャンプ
4/15	地区年次総会
6/10	地区技能オリンピック2007
6/24	ビーバーまつり
7/22～8/5	第18回ボルチモア交流派遣隊訪米
8/24	故 小嶋国晃 地区コミッショナー 逝去
9/23	スカウトラリー2007
9/23～24	GATC川崎第20期結隊式
11/18	地区技能オリンピック2007
11/25	県連スカウトスキルオリンピック
12/29～30	GATC川崎第20期オーバナイトハイク
<b>平成20年 (2008)</b>	
1/13	第37期白梅隊結隊式
2/10～11	GATC川崎第20期PA・隊集会
3/27～30	第37期白梅隊隊キャンプ
3/28～30	GATC川崎第20期 めざせ!山中野営場
3/30	GATC川崎第20期解隊式
4/13	地区総会
6/29	ビーバー祭り
7/19～8/4	第19回ボルチモア交流派遣隊来日
11/16	地区ラリー
11/23	県連スカウトスキルオリンピック
<b>平成21年 (2009)</b>	
1/25	第38期白梅隊事結隊式
3/26～29	第38期白梅隊隊キャンプ
5/4～5	川崎ベンボリー
5/12	地区総会
6/28	ビーバー祭り
8/2～6	第12回神奈川キャンボリー
9/20	GATC川崎第21期 結隊式
9/27	地区ラリー
11/22	県連スカウトスキルオリンピック
<b>平成22年 (2010)</b>	
1/1～6	GATC川崎第21期 プロジェクト「スキーへ行き隊」
1/24	第39期白梅隊 結隊式
1/30～31	川崎ベンボリー2
2/21	GATC川崎第21期 プロジェクト「GATC大運動会」
3/20～21	GATC川崎第21期 解隊式
3/27～30	第39期白梅隊 隊キャンプ
4/11	地区総会
4/～	ウォーク多摩川60
6/27	ビーバーまつり
7/18～28	第20回ボルチモア交流派遣隊訪米
8/1～9	第15回 日本ジャンボリー
10/11	スカウトフェスティバル川崎60
11/21	県連スカウトスキルオリンピック
11/27	県連60周年記念式典
<b>平成23年 (2011)</b>	
1/30	第40期白梅隊結隊式
2/6	川崎地区創立60周年記念式典
3/26～29	第40期白梅隊キャンプ
4/10	地区総会
5/3～5	第40期白梅隊隊キャンプ
7/～8/	第21回ボルチモア交流派遣隊来日・延期
8/25～26	RS交流キャンプ
9/25	地区ラリー



# 川崎地区のあゆみ・1950～2022小史（6）

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成24年 (2012)</b>	
1/29	第41期白梅隊結隊式
2/6	地区60周年記念誌発行
2/19	県連スカウトフェスタ
3/24～27	第41期白梅隊隊キャンプ
4/15	地区総会
5/4～6	GATC川崎第22期 移動野営
5/6	GATC川崎第22期 解隊式
6/30	ビーバーまつり
7/20～8/6	第21回ボルチモア交流派遣隊来日
9/17	地区ラリー
12/22～23	ベンチャー大集会スポーツフェスタ2013
<b>平成25年 (2013)</b>	
2/9～10	白梅隊オーバーナイトハイキング
3/29～31	第42期白梅隊隊キャンプ
4/14	地区総会
6/30	ビーバーまつり
7/30～8/8	第16回日本ジャンボリー
8/2～16	第22回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/22～23	GATC川崎第23期結隊式
10/26～27	GATC川崎第23期隊集会(県連スカウトラリー奉仕)
10/27	県スカウトラリー
11/3～4	GATC川崎第23期PA
12/21～22	GATC川崎第23期オーバーナイトハイク
<b>平成26年 (2014)</b>	
2/1～2	GATC川崎第23期B-P祭参加(演劇、奉仕)
2/2	B-P祭
2/11	第43期白梅隊結隊式・第1回隊集会
3/21～22	GATC川崎第23期隊プロジェクト「交流会」
3/28～30	白梅隊キャンプ
4/1	川崎第56団初期登録(3団,21団,30団合併)
4/1	川崎第57団初期登録(40団,55団合併)
4/6	第43期白梅隊解隊式
4/13	地区総会
5/17	GATC川崎第23期解隊式
6/29	ビーバーまつり
7/19～8/4	第23回ボルチモア交流派遣隊来日
7/20	BK交流30周年記念式(来日)
9/28	地区ラリー
<b>平成27年 (2015)</b>	
4/12	地区総会
5/24	第44期白梅隊結隊式
6/28	ビーバーまつり
7/24～8/7	第24回ボルチモア交流派遣隊訪米
7/28～8	第23回世界スカウトジャンボリー
9/19	GATC川崎第24期結隊式
9/27	地区ラリー
<b>平成28年 (2016)</b>	
4/10	地区総会
6/26	ビーバーまつり
7/24～8/7	第25回ボルチモア交流派遣隊来日
9/25	地区ラリー
10/9～10	第45期白梅隊移動野営
<b>平成29年 (2017)</b>	
4/16	地区総会
5/28	第46期白梅隊結隊式・第1回隊集会
6/25	ビーバーまつり
7/16～17	第46期白梅隊第3回隊集会(移動野営)
7/28～8/12	第26回ボルチモア交流派遣隊訪米
9/16～17	GATC川崎第25期結隊式・第1回隊集会

年 月 日	活 動 内 容
<b>平成30年 (2018)</b>	
2/4	B-P祭
4/15	地区総会
5/4～6	GATC川崎第25期100kmハイキング
5/19～20	GATC川崎第25期解隊式
6/24	ビーバーまつり
7/21～8/5	第27回ボルチモア交流派遣隊来日
8/4～10	第17回 日本スカウトジャンボリー
9/1～2	第47期白梅隊結隊式
9/23	地区ラリー
9/23	地区記念式典・スカウト表彰
10/7～8	第47期白梅隊移動野営
10/21	第47期白梅隊解隊式
<b>平成31年・令和元年 (2019)</b>	
4/21	地区総会
7/13～14	県連70周年スカウトフェスタ
7/17～18	川崎地区ローバー交流キャンプ
7/20～8/4	第28回ボルチモア交流派遣隊訪米
8/31	第48期白梅隊結隊式
8/31	GATC川崎第26期結隊式
9/22	地区ラリー
9/22	地区記念式典
11/9～10	スカウターズフォーラム
11/23～24	第48期白梅隊移動野営
12/8	第48期白梅隊解隊式
12/21～22	GATC川崎第26期オーバーナイトハイク
<b>令和2年 (2020)</b>	
1/19	GATC川崎第26期隊集会
1/19	県連70周年記念式典
3/27～28	GATC川崎第26期隊集会
4/19	地区総会・書面開催
5/3	ザ・よこはまパーレード'沿道警備奉仕・中止
5/30	WEB全国大会・WEB開催
6/28	ビーバーまつり・中止
8/2	GATC川崎第26期隊集会
8/23	地区フォーラム
9/6	GATC川崎第26期解隊式
9/26～27	AKSF (All Kawasaki Scouters Forum)・中止
10/18	B-K Reunion WEB Chat・WEB開催
12/12	スカウト表彰、菊・隼・富士スカウト顕彰
12/17	地区70周年記念準備会・WEB会議
<b>令和3年 (2021)</b>	
1/11	成人の日を祝うつどい奉仕・中止
1/23	ニューイヤーパーティー・中止
2/7	70周年記念式典(延期)
3/14	青少年フェスティバル・中止
3/27	第1082回BS講習会
3/28	日本連盟・富士スカウト顕彰・WEB
4/18	地区総会(WEB併用)
10/4	70周年記念スカウトフェスタ(中止)
<b>令和4年 (2022)</b>	
2/6	70周年記念式典(中止)
3/15	70周年記念誌刊行

# 川崎地区 富士・隼・菊・授章スカウト一覧(1)

<b>昭和26年度 (1951)</b> (なし)
<b>昭和27年度 (1954)</b> (なし)
<b>昭和28年度 (1953)</b> (なし)
<b>昭和29年度 (1954)</b>
◆1級 (当時は地区認証)
第3隊 吉沢 和雄
第3隊 辻 清好
第3隊 石倉 勲
◆2級 (当時は地区認証)
第5隊 百木 幹雄
第5隊 高橋 達治
第16隊 中村 幸雄
第16隊 入倉 大東
第16隊 塩野 弘
第16隊 岩崎 宏
(以降、1級、2級省略)
<b>昭和30年度 (1955)</b> (資料欠損)
<b>昭和31年度 (1956)</b> (資料欠損)
<b>昭和32年度 (1957)</b> (資料欠損)
<b>昭和33年度 (1958)</b> (資料欠損)
<b>昭和34年度 (1959)</b> (資料欠損)
<b>昭和35年度 (1960)</b> (資料欠損)
<b>昭和36年度 (1961)</b>
◆富士章
第29団 福島 国洋 (隼菊・資料欠損)
<b>昭和37年度 (1962)</b> (資料欠損)
<b>昭和38年度 (1963)</b> (資料欠損)
<b>昭和39年度 (1964)</b> (資料欠損)
<b>昭和40年度 (1965)</b> (資料欠損)
<b>昭和41年度 (1966)</b>
◆富士章
第21団 佐久間 宣吉 (隼菊・資料欠損)
<b>昭和42年度 (1967)</b> (資料欠損)
<b>昭和43年度 (1968)</b> (資料欠損)
<b>昭和44年度 (1969)</b> (資料欠損)
<b>昭和45年度 (1970)</b> (資料欠損)
<b>昭和46年度 (1971)</b>
◆富士章
第26団 荒蒔 治夫 (隼菊・資料欠損)
<b>昭和47年度 (1972)</b> (資料欠損)
<b>昭和48年度 (1973)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第3団 又村 一男
第3団 浜田 雅弘
第3団 柴 修
第44団 石井 洋吾
第3団 奥村 昇
第3団 平原 道夫
◆菊章 (※授章順不定)
第3団 又村 清
第3団 大橋 信明

第3団 堂本 暁生
第3団 小幡 敏行
第3団 東 敬一
第26団 塚田 悦充
第26団 木本 隆
第39団 松岡 秀樹
第42団 岡本 金次郎
第42団 増田 雅智
第42団 原田 津一
第42団 中村 敦
<b>昭和49年度 (1974)</b>
◆富士章
第3団 柴 修
◆菊章 (※授章順不定)
第3団 早坂 保
第3団 猪亦 喜代志
第3団 杉山 昌文
第3団 坂谷 幸彦
<b>昭和50年度 (1975)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第3団 又村 清
第3団 堂本 暁生
第3団 大橋 信明
第3団 二見 由記英
第3団 東 敬一
第5団 金田 幸男
第5団 市川 王信
第5団 柏木 純一
第47団 三田 邦彦
◆菊章
第42団 田中 利明
<b>昭和51年度 (1976)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第42団 増田 雅智
第42団 岡本 金次郎
第42団 中村 敦
◆菊章 (※授章順不定)
第21団 福田 朗雄
第40団 菅原 淳
第40団 杉村 靖雄
第40団 松坂 純一
第21団 宮本 隆明
第21団 小泉 忠己
第21団 今川 英夫
第3団 広田 昌久
第39団 星野 文彦
第36団 河合 成治
<b>昭和52年度 (1977)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第3団 柏倉 敏和
第3団 早坂 保
第3団 杉山 昌文
第3団 池村 重信
第3団 広田 亘
第47団 後藤 明
第47団 瀬古 和宏
第47団 前垣 嘉一
第47団 古賀 慎治
第45団 小池 和夫
◆菊章 (※授章順不定)
第39団 黒川 保之
第42団 青山 泰之
第42団 石塚 茂
第42団 高塚 敏弘
第42団 秋葉 清
第49団 柴田 茂
第49団 松田 直行
第40団 三沢 周太郎
第40団 松岡 邦忠
<b>昭和53年度 (1978)</b>
◆富士章
第42団 中村 敦

第45団 小池 和夫
◆隼章 (※授章順不定)
第36団 河合 成治
第36団 広田 昌久
第36団 堂本 幸男
第36団 早坂 要
第36団 名和 国光
第21団 宮本 隆明
第21団 小泉 忠己
第21団 須山 和士郎
第42団 永野 直樹
第42団 山本 雅治
第26団 坂本 賢司
第26団 八巻 昭二
第26団 熊坂 芳明
第5団 太田 裕次
第5団 坂斉 清
第40団 曾山 仁之
第47団 吉田 唯男
第47団 山沢 慎吾
第21団 柿沢 幸治
第5団 斉藤 浩一
第40団 菅原 淳
第45団 白井 利明
第40団 三沢 周太郎
第40団 松坂 純一
第40団 杉村 靖雄
第39団 星野 文彦
第39団 遠藤 昌宏
◆菊章 (※授章順不定)
第26団 柿沢 真人
第3団 栗栖 一義
第3団 堂本 昌宏
第3団 片岡 清彦
第47団 鈴木 円
第3団 山沢 幹彦
第47団 小宮 一耕
第47団 木村 秀樹
第47団 中馬 将夫
第47団 安立 行孝
第21団 福田 安孝
第21団 寺田 浩之
第47団 稲垣 巖
第46団 長谷川 賢
第2団 安藤 和重
第39団 山本 嘉一
第46団 山室 和也
第46団 矢後 史彦
第46団 吉兼 俊雅
第46団 川合 真人
第46団 上田 一成
第46団 西脇 哲
第45団 袖山 俊明
第45団 袖山 信幸
第46団 幡野 晋
第47団 瀬古 敏行
第43団 高橋 大裕
第40団 荒木 英一
第47団 神田 幸一
第40団 相沢 克明
第8団 増田 勝彦
第40団 宮田 繁郎
第3団 鈴木 俊介
第3団 佐藤 修
第39団 宇田川 一宏
第21団 横山 誠
第39団 柳瀬 信之
第21団 中村 博宜
第46団 清水 行夫
<b>昭和54年度 (1979)</b>
◆富士章
第36団 河合 成治

第40団 曾山 仁之
第42団 永野 直樹
◆隼章 (※授章順不定)
第39団 平野 光一
第5団 杉山 剛
第5団 田口 巖
◆菊章
第48団 河合 秀典
第39団 野口 学
第39団 毛木 徹
第39団 沢田 秀幸
第42団 宇田川 歩
第42団 宮崎 和久
第39団 戸田 然
第40団 仁川 進
第40団 笠原 誠司
第40団 折居 良一郎
第49団 田中 淳吾
第49団 五十嵐 光慶
第49団 寺島 浩
第49団 下山田 弘太郎
第52団 稲田 薫光
第39団 小野寺 和成
第39団 柏倉 伸司
第46団 前垣 泰延
第48団 正地 雅明
第46団 西岡 亨
第48団 松田 裕之
第46団 田中 晃
<b>昭和55年度 (1980)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第39団 佐藤 修
第39団 堂本 昌宏
第5団 遠藤 広一
第5団 村野 晋
第39団 毛木 徹
第39団 河崎 栄作
第39団 薮島 尚
◆菊章 (※授章順不定)
第39団 小宮 登
第45団 藤田 禎康
第36団 大屋 崇
第36団 片岡 洋
第36団 片沼 隆
第40団 菊池 英樹
第36団 芳賀 薫
第40団 金高 憲博
第42団 小泉 真佐夫
第40団 吉次 幸治
第42団 伊勢 秀一
第44団 森本 一則
第42団 斉藤 正樹
第42団 島津 俊治
第46団 小笹 伸治
第44団 神山 秀一
第46団 遠藤 栄
第48団 高橋 成五
第46団 平山 昭宏
第48団 篠田 直樹
第48団 境 正剛
第39団 孝之
第36団 熊谷 浩二
第46団 西岡 克泰
第38団 梅田 靖得
第53団 海老沢 慶人
第46団 高木 康行
第39団 北條 賢一
第43団 中村 晋一
第42団 田代 智幸
第46団 萩原 攻太郎

<b>昭和56年度 (1981)</b>
◆隼章 (※授章順不定)
第39団 高橋 繁
第38団 尾形 光宏
第39団 小池 敏明
第40団 宮田 繁郎
第44団 長野 康之
第46団 前垣 泰延
第46団 矢後 史彦
第47団 遠藤 佳壮
第47団 山本 賢一
第47団 稲垣 巖
第53団 海老沢 慶人
◆菊章 (※授章順不定)
第39団 鈴木 善則
第39団 高木 雄一郎
第39団 根本 直行
第5団 林 剛一郎
第8団 中島 郎
第8団 萩原 伸欣
第36団 安藤 嘉浩
第40団 高林 泰彦
第40団 根岸 幸夫
第40団 富岡 和也
第40団 牧岡 史郎
第40団 高林 敏彦
第40団 千葉 紀彦
第46団 後藤 寿彦
第46団 金井 良之
第48団 徳永 恵輔
第48団 菅井 正己
第48団 太田 道隆
第52団 清水 守
第52団 楠 哲士
第53団 諏佐 孝和
第53団 藤本 賢司
<b>昭和57年度 (1982)</b>
◆富士章
第40団 宮田 繁郎
第46団 矢後 史彦
◆隼章 (※授章順不定)
第39団 野口 学
第39団 柏倉 伸司
第39団 小宮 登
第36団 熊谷 浩一
第36団 芳賀 薫
第36団 大屋 崇
第36団 石田 彰一
第39団 北條 賢一
第39団 柳瀬 則孝
第43団 中村 晋一
第44団 森本 一則
第46団 萩原 攻太郎
第48団 篠田 直樹
第48団 河合 秀典
第49団 寺田 充利
第49団 清水 雄二
第49団 晴披 彰義
◆菊章 (※授章順不定)
第39団 潮田 輝行
第39団 片岡 功
第39団 高木 賢司
第39団 山中 義幸
第39団 高野 倉 健
第39団 池田 司
第5団 岩渕 康之
第21団 滝沢 智昭
第21団 高橋 信康
第26団 増田 昌彦
第26団 石毛 勉
第36団 常盤 顕一
第36団 畑中 隆

第38団 木村 大一郎
第38団 山上 正芳
第38団 柴 克己
第39団 中村 英次
第39団 川口 智義
第39団 青山 慎吾
第39団 長井 崇彦
第40団 栗田 哲朗
第40団 斉藤 彰一
第40団 井野 裕章
第40団 川住 隆
第40団 奥田 豊
第40団 斉藤 敦弘
第43団 浅井 信夫
第46団 西村 勉
第52団 佐々木 稔
第52団 太田 綱吉
第53団 西川 健太郎
<b>昭和58年度 (1983)</b>
◆富士章
第46団 萩原 攻太郎
第43団 中村 晋一
第40団 仁川 進
第53団 海老沢 慶人
◆隼章 (※授章順不定)
第39団 根本 直行
第39団 鈴木 善則
第39団 高木 雄一郎
第5団 林 剛一郎
第5団 林 則雄
第40団 仁川 進
第52団 楠 哲士
第52団 清水 守
◆菊章 (※授章順不定)
第39団 田口 祐司
第39団 中村 浩次
第40団 林 義昭
第40団 仁川 洋二
第42団 青木 一夫
第42団 内田 明男
第43団 塩野 浩史
第43団 中村 智記
第43団 谷川 浩紀
第43団 鈴木 秀和
第43団 碓井 健
第43団 石川 英輔
第44団 齊木 克之
第44団 坂上 尚仁
第46団 西村 昇
第46団 秋田 芳男
第46団 宮内 盛一
第46団 岩田 智明
第46団 高木 聡弥
第46団 河辺 信吾
第46団 城戸 研自
第46団 池野 和憲
第46団 遠藤 剛
第47団 諸富 政史
第47団 緑川 玉彦
第47団 早稲 健一
第47団 木村 寿宏
第47団 保坂 記生
第47団 高田 圭祐
第48団 鈴木 章司
第48団 花形 晋
第48団 宮田 武士
第48団 秋山 弘吉
第50団 渡辺 章
第52団 工藤 紀道
第52団 井上 賢一
第52団 鈴木 力
第52団 堰合 悟

# 川崎地区 富士・隼・菊・授章スカウト一覧(2)

(昭和58年度続き)  
第52団 太田 裕康  
第53団 関 孝弘  
第53団 梶 裕一

## 昭和59年度(1984)

### ◆富士章

第3団 高木 雄一郎  
第5団 林 剛一郎  
第3団 根本 直行

### ◆隼章(※授章順不定)

第3団 高木 賢司  
第30団 千葉 勝弘  
第36団 畑中 隆  
第39団 井上 景  
第39団 森谷 英治  
第39団 川越 孝次  
第39団 遠藤 尚利  
第39団 鴨志田 浩  
第43団 浅井 信夫

### ◆菊章(※授章順不定)

第36団 畑中 堅也  
第36団 山口 裕介  
第36団 金広 勝徳  
第38団 嶋田 朋征  
第38団 下楠 菌 建  
第38団 鈴木 淳也  
第39団 沼崎 匡一  
第43団 小川 勝也  
第43団 菅野 健一  
第43団 山田 太  
第44団 渡辺 弘明  
第44団 森本 正則  
第46団 矢後 資彦  
第46団 後藤 研次  
第46団 高橋 満  
第46団 長崎 敏洋  
第46団 登野井 聡樹  
第47団 諸富 謙治  
第47団 秋永 純一  
第48団 前山 裕志  
第48団 久保田 優  
第48団 末永 公一  
第48団 藤田 直樹  
第48団 浅尾 一夫  
第48団 花形 匡  
第48団 大津 和義  
第52団 清水 彰  
第52団 草野 孝行  
第52団 福室 琢也  
第53団 久田 茂樹  
第53団 諏佐 昭

## 昭和60年度(1985)

### ◆富士章

第3団 高木 賢治  
第52団 清水 守  
第52団 楠 哲士  
第5団 岩淵 康之

### ◆隼章(※授章順不定)

第3団 池田 司  
第3団 田口 祐司  
第3団 山中 善幸  
第3団 高野倉 健  
第5団 岩淵 康之  
第8団 桑原 裕幸  
第38団 嶋田 紀吉  
第38団 栄 克己  
第38団 木村 大一郎  
第39団 中村 英次  
第39団 川越 浩之  
第39団 沼崎 匡一  
第43団 鈴木 秀和  
第43団 中村 智記

第48団 花形 晋  
第48団 鈴木 章司  
第48団 秋山 弘吉  
第52団 佐々木 稔  
第52団 諸富 政史

### ◆菊章(※授章順不定)

第3団 佐藤 秀和  
第3団 森 信人  
第3団 平 進一  
第21団 高橋 勝己  
第21団 成田 晃一  
第26団 小倉 晋  
第26団 増田 亘宏  
第38団 高谷 幸典  
第38団 黒木 秀雄  
第38団 斉藤 博文  
第43団 中村 富光  
第43団 福田 稔  
第43団 太田 達也  
第43団 福岡 高  
第43団 碓井 康  
第43団 羽田 直樹  
第46団 稼勢 秀信  
第46団 井出 英輔  
第46団 京塚 昇久  
第46団 原田 健  
第46団 西山 俊之  
第46団 尾形 竜太  
第46団 河辺 厚志  
第46団 岩田 伸昭  
第47団 荒井 新也  
第47団 若月 崇  
第47団 吉田 稔  
第49団 橋本 博光  
第49団 中村 信博  
第49団 寺沢 剛  
第52団 中村 政宏  
第52団 小西 裕一  
第52団 城所 正典  
第52団 木村 浩成  
第52団 本間 隆  
第52団 羽原 英明  
第52団 小原 孝  
第52団 竹原 弘明  
第53団 関口 秀人  
第53団 久田 和男  
第53団 小坂 大樹  
第54団 石渡 崇元  
第54団 木村 貴忠  
第54団 大塚 哲也  
第54団 橋本 忠義  
第53団 日浦 洋

## 昭和61年度(1986)

### ◆富士章

第52団 佐々木 稔  
第3団 池田 司  
第3団 高野倉 健  
第50団 秋山 弘吉  
第38団 栄 克己  
◆隼章  
第53団 野坂 修  
第53団 梶 裕一  
第36団 畑中 堅也  
第47団 高田 圭祐  
第52団 太田 綱吉  
第53団 関 孝弘  
第46団 高木 聡弥  
第52団 清水 彰  
第46団 長崎 敏洋  
第49団 中原 克浩  
第43団 岡 弘幸  
第43団 山田 太

第43団 小川 勝也  
第40団 小瀬 学  
第40団 野村 和之  
第54団 木村 寿宏  
第49団 橋本 政景  
第44団 森本 正則  
第44団 坂上 尚仁

### ◆菊章

第46団 中山 弘幸  
第46団 秋田 恒夫  
第46団 北村 岳人  
第5団 山口 弘正  
第45団 田中 宏明  
第38団 斉藤 努  
第38団 高谷 和典  
第38団 折笠 彰  
第40団 佐藤 充利  
第40団 中西 達彦  
第40団 星野 智明  
第21団 中島 良介  
第39団 飯田 俊之  
第39団 水野 理  
第39団 成田 忍  
第39団 一瀬 貴儀  
第36団 石田 恒司  
第36団 伊東 壮一  
第22団 丹羽 孝至  
第22団 小島 純一  
第22団 森田 裕之  
第22団 城ヶ崎 吉博  
第22団 宮崎 仁志  
第43団 小川 智之  
第43団 佐藤 光洋  
第5団 武 慎一郎  
第46団 坂本 健太郎  
第52団 麻場 啓一郎

## 昭和62年度(1987)

### ◆富士章

第39団 沼崎 匡一  
第43団 山田 太  
◆隼章  
第30団 竹内 一泰  
第43団 中村 富光  
第43団 碓井 康  
第44団 渡辺 弘明  
第46団 矢後 資彦  
第48団 藤田 直樹

### ◆菊章

第3団 近江 和道  
第43団 福田 紀彦  
第49団 山下 裕士  
第49団 西森 誉浩  
第49団 菊池 清人  
第44団 足立 圭司  
第44団 高松 康也  
第30団 大村 正和  
第39団 毛利 真也  
第39団 加山 政弘  
第39団 和田 雄介  
第39団 大城 英夫  
第46団 小林 幹尚  
第46団 小島 剛  
第54団 大塚 準也  
第54団 八谷 純一  
第54団 海谷 尚司  
第54団 山田 俊文  
第36団 坂井 聡  
第38団 高橋 正生  
第38団 市島 暁  
第38団 伊関 賢吾  
第38団 樋浦 康晴  
第39団 鈴木 智丘

第39団 関口 良介  
第46団 東野 和哉  
第46団 山下 広一郎  
第46団 長田 英夫  
第43団 永松 泰成  
第43団 黒田 健太郎  
第43団 木村 卓央  
第40団 佐々井 徹也

## 昭和63年度(1988)

### ◆富士章

第43団 中村 富光  
第43団 碓井 康  
◆隼章  
第49団 寺沢 淳  
第49団 中原 亨二  
第49団 橋本 博光  
第39団 佐藤 秀和  
第39団 森 信人  
第39団 平 進一  
第21団 堀江 健太  
第21団 中島 良介  
第43団 安藤 徹治  
第26団 増田 亘宏  
第46団 原田 健  
第46団 稼勢 秀信  
第46団 坂本 健太郎  
第46団 北村 岳人

### ◆菊章

第21団 吉田 忠宏  
第21団 植木 領毅  
第46団 高橋 毅  
第46団 尾形 大介  
第46団 長崎 英真  
第46団 藤井 智久  
第46団 松井 孝之  
第22団 相場 傑  
第22団 荒井 純一  
第46団 井上 裕稔  
第49団 山下 哲治  
第49団 江藤 祥一  
第49団 師田 茂生  
第49団 高橋 洋平  
第49団 渡辺 亮  
第49団 田村 哲男  
第53団 内藤 秀明  
第53団 川上 裕和  
第8団 大内 茂輝  
第21団 小池 正澄  
第30団 信田 厚司  
第38団 松田 秀太郎  
第38団 見口 大介  
第43団 田島 雄一郎  
第43団 関川 悟郎  
第43団 梶川 竜太  
第43団 今春 大介  
第43団 岡安 大  
第53団 佐々木 卓也

## 平成元年度(1989)

### ◆富士章

第21団 中島 良介  
◆隼章(※授章順不定)  
第5団 武 慎一郎  
第22団 小川 雅弘  
第22団 城ヶ崎 吉博  
第22団 宮崎 仁志  
第22団 丹羽 孝至  
第38団 市島 暁  
第38団 折笠 彰  
第38団 伊関 賢吾  
第43団 黒田 健太郎  
第46団 小林 幹尚  
第46団 長田 英夫

第40団 佐々井 徹也  
◆菊章(※授章順不定)  
第22団 丹羽 哲也  
第26団 林 昌宏  
第26団 成川 充洋  
第26団 梅原 雅幸  
第26団 柳田 国男  
第26団 青沼 伸和  
第39団 内田 貴之  
第43団 松澤 公俊  
第43団 坂野 卓也  
第43団 中山 厚  
第43団 大塚 一樹  
第43団 岡安 岳  
第43団 鈴木 健  
第43団 小川 貴也  
第43団 御園生 悟志  
第46団 谷本 修一  
第46団 鈴木 純  
第46団 渡辺 泰洋  
第46団 宮内 格  
第46団 村上 永敏  
第46団 栄田 好宏  
第46団 佐竹 修明  
第46団 佐藤 勲  
第53団 関口 良太  
第53団 加藤 祐司  
第53団 小林 祐樹  
第54団 手塚 正和  
第54団 野島 幸治

## 平成2年度(1990)

### ◆富士章

第46団 小林 幹尚  
第55団 柳下 純一  
第38団 伊関 賢吾  
第38団 市島 暁  
第38団 折笠 彰  
第5団 武 慎一郎  
第46団 長田 英夫  
◆隼章(※授章順不定)  
第21団 小池 正澄  
第21団 吉田 忠宏  
第30団 大村 正和  
第38団 見口 大介  
第38団 松田 秀太郎  
第43団 岡安 大  
第43団 今春 大介  
第43団 梶川 竜太  
第43団 関川 悟郎  
第43団 田島 雄一郎  
第46団 藤井 智久  
第46団 長崎 英真  
第46団 尾形 大介  
第49団 高橋 洋平  
第49団 田村 哲男  
第49団 渡辺 亮  
第53団 中村 昌弘  
第53団 内藤 秀明  
第55団 平増 孝司  
第55団 柳下 純一  
第55団 富岡 賢二

### ◆菊章(※授章順不定)

第8団 境口 剛  
第21団 小池 正吾  
第26団 成川 博邦  
第49団 新田 洋  
第52団 伊東 浩介  
第52団 山田 健太郎  
第52団 加藤 良  
第52団 櫻井 浩介  
第54団 町田 泰成  
第54団 大串 竜雄

## 平成3年度(1991)

### ◆富士章

第46団 長崎 英真  
第21団 小池 正澄  
第21団 吉田 忠宏  
第53団 内藤 秀明  
◆隼章(※授章順不定)  
第39団 森本 健児  
第39団 強瀬 岐彦  
第39団 栄居 智之  
第39団 三原 義崇  
第43団 佐藤 直人  
第43団 鈴木 建厚  
第43団 中山 貴也  
第43団 小川 貴也  
第43団 大塚 一樹  
第43団 松沢 公俊  
第49団 新田 洋  
第53団 川上 裕和  
第54団 手塚 正和  
第55団 坂本 貴史

### ◆菊章(※授章順不定)

第40団 卯月 健史  
第40団 三原 伸  
第40団 下田 将史  
第46団 内山 高嗣  
第49団 高谷 淳  
第49団 中嶋 敬  
第52団 加藤 雅一  
第53団 川崎 幸雄  
第54団 小田 康之  
第54団 伊藤 智啓  
第54団 加藤 正久  
第55団 林 大輔  
第55団 山浦 聡  
第55団 小松 真也  
第55団 瀬下 将昭  
第55団 掛川 将基  
第55団 大越 賢太郎

## 平成4年度(1992)

### ◆富士章

第43団 小川 貴也  
第43団 中山 厚  
第43団 大塚 一樹  
第43団 松沢 公俊  
◆隼章(※授章順不定)  
第30団 富山 英司  
第46団 大野 剛  
第46団 稲葉 清典  
第48団 本間 真  
第52団 松浦 孝憲  
第52団 山香 浩一  
第52団 立花 塁  
第54団 小柳 悟  
第54団 相良 悠太

## 平成5年度(1993)

### ◆富士章

第49団 新田 洋  
◆隼章(※授章順不定)  
第8団 境口 剛  
第46団 内山 高嗣  
第49団 高谷 淳  
◆菊章(※授章順不定)  
第8団 瀧野 真悟  
第8団 多田 好伸  
第8団 小池 洋介  
第21団 萩原 崇  
第21団 長井 健  
第21団 緑川 智史  
第21団 福島 悟  
第46団 青柳 大  
第46団 小田 裕介



# 川崎地区 富士・隼・菊・授章スカウト一覧(3)

(平成5年度続き)

第46団 井上 洋志  
第48団 木村 貢大  
第48団 田口 秀樹  
第48団 本井 和美  
第48団 柴田 信寿  
第49団 境田 元気  
第49団 志村 優  
第49団 大竹 成星  
第49団 渡辺 拓也  
第52団 三浦 圭一  
第52団 野仲 将生  
第54団 寺岡 淳  
第54団 荒井 孝一  
第54団 佐藤 由範

## 平成6年度(1994)

◆隼章  
第55団 須藤 潔  
第55団 渡部 義明  
第55団 田鹿 光  
第40団 卯月 康史  
第40団 嵯峨野 憲作  
第40団 伊東 忠義  
第43団 鈴木 成明  
◆菊章  
第49団 眞桐 良輔  
第46団 渡辺 裕司  
第46団 渡辺 正洋  
第46団 稲葉 善典  
第46団 大野 元  
第30団 佐久間 智彦  
第30団 片山 多傑  
第30団 佐川 徳昭  
第49団 安藤 智浩  
第49団 大塚 剛弘  
第5団 朝比奈 正嗣  
第48団 新井 隆久  
第48団 斉藤 陽一  
第48団 大塚 健司  
第48団 押本 雅充

## 平成7年度(1995)

◆隼章  
第39団 上口 雄志  
第39団 蔵田 雄也  
◆菊章  
第38団 本多 充明  
第38団 菊池 浩介  
第40団 内田 光裕  
第40団 竹内 悠  
第53団 雨宮 大樹  
第8団 山口 祥平  
第39団 米倉 輝  
第53団 飯塚 硫  
第53団 田中 暁  
第49団 田母神 克好  
第49団 佐藤 隆志  
第49団 井上 忽吉

## 平成8年度(1996)

◆隼章  
第3団 兼平 雄一朗  
第52団 立花 壘  
第52団 野仲 将生  
第21団 長井 健  
◆菊章  
第53団 永井 雄一  
第53団 羽毛田 徹  
第21団 島 崇泰  
第21団 近藤 崇雅  
第30団 渡部 実  
第38団 本多 由和  
第38団 田島 和樹  
第52団 太田 好則

## 平成9年度(1997)

◆富士章  
第52団 野仲 将生  
◆菊章  
第38団 大津 宏行  
第38団 鈴木 夏奈子  
第54団 川辺 健一  
第30団 若月 周司  
第40団 山田 吉宏  
第53団 清水 康史

## 平成10年度(1998)

◆菊章  
第39団 米倉 聡  
第40団 金子 洋祐  
第54団 渡辺 祥吾  
第52団 山本 晋之介  
第52団 横山 和明  
第53団 宮浦 準  
第53団 宮下 雄光

## 平成11年度(1999)

◆菊章  
第53団 灰塚 剛博  
第3団 中田 隆太郎  
第22団 福島 厳夢  
第40団 大橋 峻平  
第40団 吉野 英治  
第55団 堀越 健太  
第55団 崔 七元  
第40団 野本 明  
第40団 有我 彦紀  
第5団 河野 正樹  
第5団 河原 秀彦

## 平成12年度(2000)

◆富士章  
第38団 服部 考浩  
◆菊章  
第43団 吉田 麻人  
第43団 西本 真伝  
第43団 渡辺 航平  
第43団 笹川 一喜  
第46団 江口 弘臣  
第46団 渋谷 航平  
第43団 三浦 久  
第54団 菊池 達也  
第46団 多賀 丈太  
第52団 橋 優輝  
第52団 横山 政明  
第54団 渡辺 裕也  
第39団 保坂 陽太  
第53団 宮下 佳征

(H12～H22は隼章廃止)

## 平成13年度(2001)

◆富士章  
第46団 渋谷 健太郎  
◆菊章  
第46団 高橋 優介  
第55団 島村 光太郎  
第55団 崔 七友  
第55団 設楽 理俊  
第38団 大津 香織  
第54団 坂本 啓介  
第21団 三沢 零  
第54団 斉藤 新作  
第54団 水野 泰武  
第40団 佐藤 大悟  
第40団 中橋 智貴  
第40団 高橋 良之  
第54団 松尾 洗甫  
第5団 山田 雄介

## 平成14年度(2002)

◆富士章  
第22団 福島 厳夢

第55団 堀越 健太

◆菊章  
第55団 丸山 昂晃  
第38団 小泉 諒治

## 平成15年度(2003)

◆菊章  
第40団 綾辺 優多  
第46団 相原 元輝  
第55団 菅野 裕  
第55団 中西 美弥  
第21団 渡邊 あず美  
第46団 多賀 史文  
第46団 高橋 直宏

## 平成16年度(2004)

◆富士章  
第43団 中野 雄策  
第43団 小山 真史

◆菊章  
第43団 小石 健太  
第55団 設楽 研司  
第55団 箱崎 萌

第21団 若林 綾香  
第40団 佐藤 佳佑  
第38団 田島 尚樹  
第48団 宮内 真咲  
第5団 石田 祥一  
第38団 川口 智大  
第39団 保阪 賢太  
第43団 辻井 克弥  
第48団 西原 亮  
第48団 西原 萌  
第53団 畑山 健太郎  
第53団 渡邊 輝明

## 平成17年度(2005)

◆菊章  
第46団 森 暢一朗  
第40団 増田 享志  
第40団 上坂 弦  
第53団 池原 聖  
第53団 富樫 俊貴  
第53団 鈴木 謙太  
第53団 松尾 修志

## 平成18年度(2006)

◆富士章  
第54団 坂本 啓介  
第46団 中川 元  
第38団 小泉 諒治  
◆菊章  
第3団 原 真美  
第46団 多賀 世帆  
第46団 田中 飛龍  
第46団 中島 帆大  
第46団 三浦 雅史  
第54団 陶山 直人  
第54団 鷹野原 誠  
第46団 久保井 紘貴  
第48団 丹羽 尋紀  
第48団 清水 稔  
第40団 綾辺 直也  
第8団 長谷川 知亮

## 平成19年度(2007)

◆菊章  
第3団 杉山 裕弥  
第53団 植田 裕吾  
第53団 植田 聖司  
第54団 村山 京佑  
第54団 柴原 啓太  
第54団 西谷 彩  
第38団 小泉 駿治  
第38団 柳下 明大  
第40団 水本 卓弥  
第40団 渡辺 翔太

## 平成20年度(2008)

◆菊章  
第26団 北 紘平  
第30団 山口 和音  
第30団 古賀 雄士郎  
第30団 関 健吾  
第54団 松尾 有祐  
第54団 遠藤 大介  
第54団 佐藤 岳志  
第21団 大町 一仁  
第21団 名波 真穂  
第21団 菅野 貴志  
第49団 中西 一準  
第5団 清水 綾花  
第39団 佐藤 萌  
第5団 山下 由梨乃  
第43団 三橋 響

## 平成21年度(2009)

◆富士章  
第43団 小石 健太

## ◆菊章

第46団 松村 はるか  
第54団 尾原 瑛莉  
第54団 渡部 莉菜  
第46団 森 基貴  
第54団 鷹野原 成美  
第39団 栗野 峻之  
第43団 西本 結和  
第40団 高木 彰  
第43団 小石 怜史  
第43団 安藤 翼

## 平成22年度(2010)

## ◆富士章

第3団 藤井 美帆  
第39団 窪田 美幸  
第39団 鈴木 美沙都  
◆菊章  
第43団 大和田 純平  
第54団 陶山 ちはる  
第54団 吉澤 瞭平  
第22団 岡崎 華子  
第22団 比留間 達郎  
第30団 高柳 圭助

## 平成23年度(2011)

## ◆富士章

第38団 那須野 和史  
第22団 都筑 祐貴  
第39団 小石 純平

## ◆菊章

第38団 大沼 楓  
第54団 小林 龍史  
第54団 柴原 涼太  
第54団 矢木 誠一郎  
第54団 新海 正太  
第22団 小林 陽  
第54団 須郷 秀雄  
第54団 飯塚 直樹  
第55団 高橋 稔太郎  
第39団 栗野 智紗子  
第43団 水落 綾華  
第43団 西角 哲  
第43団 田尻 郁哉

## 平成24年度(2012)

◆隼章  
第43団 小石 怜史  
第43団 大和田 純平  
第43団 盛一 佳菜子

## ◆菊章

第53団 今野 建  
第53団 豊田 隼平  
第53団 中村 幸之介  
第48団 江上 徹志

第43団 安藤 駿  
第49団 荻原 美づき  
第49団 山田 涼太  
第49団 田中 祐成  
第54団 北島 真悟  
第53団 山岸 洋樹  
第54団 黒田 杏子

## 平成25年度(2013)

## ◆富士章

第21団 名波 真穂  
第43団 小石 怜史  
第43団 盛一 佳菜子

## ◆菊章

第46団 高橋 主樹  
第46団 伊比 一生  
第53団 石井 俊介  
第53団 秋山 翔矢  
第22団 小林 智  
第22団 内田 大賀  
第46団 内田 晴日

## 平成26年度(2014)

## ◆富士章

第54団 新海 正太

## ◆隼章

第39団 細川 兼奨

## ◆菊章

第43団 西角 哲  
第46団 若島 拓海  
第49団 佐藤 圭祐  
第39団 林 拓希  
第53団 平光 敬  
第39団 竹川 飛祐

## 平成27年度(2015)

## ◆菊章

第39団 中嶋 玖瑠美  
第53団 菊池 智弘  
第43団 笹川 拓望  
第43団 鈴木 秀駿  
第39団 村上 真希  
第39団 滝沢 海偉  
第46団 伊藤 初美  
第46団 伊比 安里  
第54団 石川 恵菜  
第39団 鈴木 友梨  
第43団 西角 遥  
第49団 乙部 魁太郎  
第49団 宮本 丈太郎  
第53団 箱崎 雅治

## 平成28年度(2016)

## ◆富士章

第46団 江上 徹志  
第46団 高橋 主樹

## ◆隼章

第46団 高橋 主樹  
第46団 江上 徹志  
第56団 遊馬 未来  
第54団 中村 真央

## ◆菊章

第43団 塩野 倫太郎  
第22団 定兼 凛太郎  
第22団 浅田 大世  
第22団 山鹿 冬真  
第56団 足立 真美子  
第54団 平松 未帆  
第54団 大野 真依  
第54団 上町 剛志  
第43団 藤田 幸哉  
第43団 古井 柊多

## 平成29年度(2017)

## ◆富士章

第56団 遊馬 未来

◆隼章  
第53団 菊池 智弘  
第43団 林 瑞生  
第43団 種 ジェイミー  
第43団 斎藤 杏平  
第49団 佐藤 圭裕  
第39団 竹川 茜

## ◆菊章

第54団 小林 快  
第22団 小林 雅  
第46団 岩崎 俊彰  
第54団 上町 望美  
第46団 原田 愛莉

## 平成30年度(2018)

## ◆富士章

第53団 菊池 智弘

## ◆隼章

第54団 石川 恵菜  
第56団 足立 真美子  
第54団 平松 美帆

## ◆菊章

第49団 野田 将太郎  
第49団 佐藤 瑠海  
第43団 塩野 絢子  
第49団 新村 隼哉人  
第49団 鈴木 優真  
第46団 仲井 飛祐

## 平成31年度(2019)

## ◆富士章

第54団 平松 美帆  
第56団 足立 真美子

## ◆菊章

第46団 原田 莉子  
第22団 山鹿 湧真  
第49団 廣田 優梨  
第26団 濱崎 空  
第56団 泉山 健  
第53団 清宮 康介

## 令和2年度(2020)

## ◆隼章

第22団 江口 太晟

## ◆菊章

第46団 伊藤 帆孝  
第43団 大洞 桜子  
第54団 平松 毅士  
第54団 松嶋 洋介  
第54団 孫工 莉緒  
第43団 藤田 歌乃  
第43団 入倉 汐音

## 令和3年度(2021)

## ◆隼章

第22団 小林 雅

## ◆菊章

第46団 風呂田 結  
第49団 日野 涼介

(令和4年2月分まで)

**受章名簿・編集後記**  
この授章者名簿は、現存する資料の集大成として可能な限りの情報を集約した。昭和47年度以前の隼・菊受章者も、登録資料等では多数推測されたが確たる証拠欠如のため、その収録は断念した。  
各年度内の並び順は承認年月日を基本に並べている。不明の場合は順不定に掲載とした。  
(2022/3 記 杉浦正明)

# 歴代役員・コミッショナー・地区委員会一覧(1)

和暦 西暦年度	昭和25 1950	昭和26 1951	昭和27 1952	昭和28 1953	昭和29 1954	昭和30 1955	昭和31 1956	昭和32 1957	昭和33 1958	昭和34 1959	昭和35 1960	昭和36 1961
地区協議会長									小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二
地区副協議会長									篠崎 真作	篠崎 真作	鈴木 一男	鈴木 一男 児玉 一男
地区委員長	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小林 英男	小林 英男	小林 英男
副地区委員長	小林 英男	小林 英男 斎藤 平六	小林 英男 篠崎 真作	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男 鈴木 一男	鈴木 一男 児玉 一男	児玉 一男 石井 英雄	柏倉 秀和 高田 博正
事務長		塩原 三男	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	柏倉 秀和	久保内 三郎
地区会計											鈴木 精	鈴木 精
会計監査	この年代の資料欠損のため不明											
各種委員会委員長	この年代の資料欠損のため不明											
正コミッショナー		柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和		寺本博 高田 博正	寺本博 高田 博正	高田 博正 依田 功 神崎 栄一郎	高田 博正 依田 功 神崎 栄一郎	高田 博正 神崎 栄一郎	神崎 栄一郎 平川 栄吉
副コミッショナー												

和暦 西暦年度	昭和37 1962	昭和38 1963	昭和39 1964	昭和40 1965	昭和41 1966	昭和42 1967	昭和43 1968	昭和44 1969	昭和45 1970	昭和46 1971	昭和47 1972	昭和48 1973
名誉協議会長						小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二
顧問			鈴木 一夫 小林 英男 山田 利雄	鈴木 一夫 小林 英男 山田 利雄	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男	鈴木 一夫 小林 英男 石井 英夫
地区協議会長 (※)会長代行	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	小清水 黄二	宮川 貞治	宮川 貞治	宮川 貞治	宮川 貞治
地区副協議会長	鈴木 一男 児玉 一男	鈴木 一男 児玉 一男	鈴木 一男 児玉 一男	児玉 一男 小野 太郎 高田 博正	鈴木 一男 小林 英男 石井 英夫 小林 英男 小野 太郎	児玉 一男 石井 英夫	児玉 一男 石井 英夫	児玉 一男 石井 英夫	児玉 一男 石井 英夫 秋山 六郎	児玉 一男 石井 英夫 秋山 六郎	児玉 一男 秋山 六郎 石井 英夫	児玉 一男 秋山 六郎 古尾谷 盛太郎
地区委員長	柏倉 秀和	柏倉 秀和	高田 博正	高田 博正 山田 利雄	山田 利雄	高田 博正	高田 博正	高田 博正	高田 博正	高田 博正	高田 博正	高田 博正
副地区委員長	高田 博正	高田 博正 香掛 頼庸	小野 太郎 大橋 進	大橋 進 馬場 義三郎	高田 博正 柏倉 秀和	香掛 頼庸	香掛 頼庸	香掛 頼庸	大山 貞義	香掛 頼庸 吉沢 和雄	吉沢 和雄	吉沢 和雄 永見 次男
事務長	久保内 三郎	吉田 尚弘	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	中村 正義	中村 正義	岩崎 貞	岩崎 貞	岩崎 貞	馬場 義三郎	馬場 義三郎	馬場 義三郎
事務次長		吉田 尚弘	吉田 尚弘	香掛 頼庸	中村 正義	中村 正義	吉田 尚弘	吉田 尚弘	金子 徹也			
地区会計	村田 信次	村田 信次	村田 信次	吉田 尚弘	吉田 尚弘	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和	柏倉 秀和
会計監査		小野 太郎 渡辺 春吉	鈴木 精	村田 信次 小番 佐助	大橋 進 小番 佐助	大橋 進 小番 佐助	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	石和田 正 小番 佐助	石和田 正	石和田 正	石和田 正
組織拡張/組織拡充担当長	資料欠損のため不明			香掛 頼庸	資料欠損のため不明			香掛 頼庸	村山 一義	資料欠損のため不明		
財政委員長				石井 英夫				福田 富重	福田 富重			
野営行事委員長				吉沢 和雄				平川 栄吉	平川 栄吉			
進歩委員長進歩担当				岩崎 貞				吉沢 和雄	吉沢 和雄			
指導者養成委員長				佐川 直道				大山 貞義	大山 貞義			
健康安全/安全委員長				高橋 健司				馬場 義三郎	馬場 義三郎			
正コミッショナー	山田 利雄	山田 利雄	柏倉 秀和	柏倉 秀和	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	長谷川 雅秀	中村 正義	中村 正義	大山 貞義	大山 貞義
副コミッショナー	平川 栄吉 神崎 栄一郎	平川 栄吉 神崎 栄一郎	平川 栄吉	平川 栄吉 岩崎 貞	平川 栄吉 岩崎 貞 佐々木 孝夫	岩崎 貞 佐々木 孝夫 平川 栄吉	中村 正義 佐々木 孝夫	中村 正義 佐々木 孝夫	吉沢 和雄	岩崎 貞	橋本 広茂 鈴木 実	橋本 広茂 鈴木 実 佐々木 孝夫

和暦 西暦年度	昭和49 1974	昭和50 1975	昭和51 1976	昭和52 1977	昭和53 1978	昭和54 1979	昭和55 1980	昭和56 1981	昭和57 1982	昭和58 1983	昭和59 1984	昭和60 1985
名誉協議会長	小清水 黄二											
顧問	鈴木 一夫 小林 英男 石井 英夫 宮川 貞治	鈴木 一夫 小林 英男 石井 英夫 宮川 貞治	鈴木 一夫 小林 英男 石井 英夫 宮川 貞治	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男	小林 英男
相談役				鈴木 一夫 石井 英夫 宮川 貞治	鈴木 一夫 石井 英夫 宮川 貞治	石井 英夫 宮川 貞治	石井 英夫 宮川 貞治	石井 英夫 宮川 貞治	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫 秋山 六郎	石井 英夫 秋山 六郎
地区協議会長	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎
地区副協議会長	児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 柏倉 秀和
地区委員長	吉沢 和雄	吉沢 和雄	吉沢 和雄	岩崎 貞	岩崎 貞	金田 幸之助	屋 明貞	屋 明貞	屋 明貞	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫
副地区委員長	香掛 頼庸 永見 次男 岩崎 貞	香掛 頼庸 永見 次男 岩崎 貞	岩崎 貞 永見 次男 金田 幸之助	岩崎 貞 永見 次男 金田 幸之助	金田 幸之助 佐川 直道	屋 明貞 近江 廣之	屋 明貞 近江 廣之	屋 明貞 近江 廣之	屋 明貞 近江 廣之	河合 武夫 高橋 和雄 鈴木 実	河合 武夫 高橋 和雄 鈴木 実	河合 武夫 高橋 和雄
事務長	馬場 義三郎	馬場 義三郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	大橋 信太郎	屋 明貞	屋 明貞	屋 明貞
事務次長 (BS連絡所)		大橋 信太郎 小島 謙介	小島 謙介	夏井 賢 古橋 富美男	夏井 賢 古橋 富美男	夏井 賢 古橋 富美男	夏井 賢 古橋 富美男	夏井 賢 古橋 富美男	夏井 賢 古橋 富美男	井上 一彦 田島 康雄	町田 叡	石井 章夫
地区会計	柏倉 秀和	柏倉 秀和	渡辺 博	香掛 頼庸	香掛 頼庸	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	板谷 昭一	板谷 昭一	板谷 昭一
会計監査	石和田 正 藤野 孝	石和田 正 藤野 孝	石和田 正 場場 守啓 中村 郁夫	場場 守啓 中村 郁夫	場場 守啓 中村 郁夫	場場 守啓 香掛 頼庸	香掛 頼庸	香掛 頼庸	香掛 頼庸	香掛 頼庸 馬場 義三郎 金田 幸之助	香掛 頼庸 馬場 義三郎 石井 章夫	香掛 頼庸 馬場 義三郎
組織拡張委員長	(無記名)	近江 廣之	百木 幹夫	石井 章夫	石井 章夫	中村 郁夫	中村 郁夫	永見 次男	永見 次男	永見 次男	渡部 公	渡部 公
広報委員長広報担当						石井 章夫	石井 章夫	石井 章夫	石井 章夫	石井 章夫	井上一彦	井上一彦
財政委員長	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	伊奈 忍	伊奈 忍
野営行事委員長	原田 英雄	原田 英雄	鈴木 実	鈴木 実	鈴木 実	鈴木 実	鈴木 実	鈴木 実	鈴木 実	長谷川 博之	濱田 雅弘	濱田 雅弘
進歩委員長進歩担当	近江 廣之	石井 章夫	石井 章夫	中村 正義	中馬 宏	大谷 実	大谷 実	大西 弘昭	大西 弘昭	清水 賢三	清水 賢三	清水 賢三
SS特別委員長										鈴木 秀明	鈴木 秀明	鈴木 秀明
指導者養成委員長 (野営行事・国際部)	加藤 高義	中村 恒夫	中村 恒夫	中馬 宏	中村 正義	木村 喜市郎	馬場 義三郎	板谷 昭一	板谷 昭一	橋本 広茂	橋本 広茂	橋本 広茂
健康安全/安全委員長	塚本 啓治	中馬 宏	中馬 宏	星 栄一	星 栄一	星 栄一	得平 卓彦	吉田 統一	得平 卓彦	得平 卓彦	得平 卓彦	得平 卓彦
正コミッショナー	佐々木 孝夫	佐々木 孝夫	馬場 義三郎	馬場 義三郎	馬場 義三郎	橋本 広茂	橋本 広茂	橋本 広茂	橋本 広茂	佐川 直道	鈴木 実	鈴木 実
副コミッショナー	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	鈴木 実 芳賀 誠	鈴木 実 芳賀 誠 秋田 清	鈴木 実 芳賀 誠 秋田 清	鈴木 実 芳賀 誠 秋田 清	芳賀 誠 秋田 清	芳賀 誠 秋田 清 佐川 直道	芳賀 誠 秋田 清 田島 宜彦

# 歴代役員・コミッショナー・地区委員会一覧(2)

和暦 西暦年度	昭和61 1986	昭和62 1987	昭和63 1988	昭和64・平1 1989	平成2 1990	平成3 1991	平成4 1992	平成5 1993	平成6 1994	平成7 1995	平成8 1996	平成9 1997
名誉協議会長		古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎
先達			山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄
顧問	小林 英男	小林 英男	小林 英男	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫	石井 英夫
相談役	石井 英夫 秋山 六郎	石井 英夫 秋山 六郎	石井 英夫 秋山 六郎	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男	永見 次男
地区協議会長	古尾谷 盛太郎	児玉 一男	児玉 一男	児玉 一男	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則	堀田 利則
地区副協議会長	山田 利雄 児玉 一男 柏倉 秀和 永見 次男	山田 利雄 柏倉 秀和 堀田 利則 香掛 頼庸	柏倉 秀和 香掛 頼庸 馬場 義三郎	柏倉 秀和 香掛 頼庸 堀田 利則 馬場 義三郎 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫 小林 資明	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫 小林 資明
地区委員長	近江 廣之	近江 廣之	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫	坂谷 昭一	坂谷 昭一	坂谷 昭一	坂谷 昭一	星 明貞	星 明貞	星 明貞
副地区委員長	河合 武夫 高橋 和雄 橋本 広茂	河合 武夫 高橋 和雄 橋本 広茂	橋本 広茂 坂谷 昭一	坂谷 昭一 星 明貞 橋本 博	坂谷 昭一 星 明貞 小林 資明	星 明貞 小林 資明 大山 貞義	星 明貞 小林 資明 大山 貞義	星 明貞 小林 資明 大山 貞義	星 明貞 小林 資明 大山 貞義	小林 資明 花形 勝	鈴木 秀明 花形 勝 谷本 通安	鈴木 秀明 花形 勝 谷本 通安
事務局長	花形 勝	花形 勝	花形 勝	花形 勝	花形 勝	花形 勝	花形 勝	花形 勝	町田 徹	町田 徹	安藤 徹	安藤 徹
事務次長						丹羽 弘子	尾形 博子	尾形 博子	尾形 博子	町田 良治	町田 良治	町田 良治
地区会計	坂谷 昭一	坂谷 昭一	森本 武久	森本 武久	森本 武久	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三
会計監査	香掛 頼庸 馬場 義三郎	馬場 義三郎 渡辺 博	石井 章夫 近江 廣之	中村 光晴 堂本 辰治	堂本 辰治 大山 貞義	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久	堂本 辰治 森本 武久
組織拡張委員長	橋本 博	橋本 博	橋本 博	鈴木 秀明	鈴木 秀明	町田 徹	町田 徹	黒沢 明	黒沢 明	黒沢 明	黒沢 明	黒沢 明
広報委員長	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦	井上 一彦
情報化特別委員長												
財政委員長	伊奈 忍	伊奈 忍	伊奈 忍	伊奈 忍	小池 安義	小池 安義	小池 安義	小池 安義	小池 安義	小池 安義	小池 安義	小池 安義
野営行事委員長	濱田 雅弘	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	池村 重信	池村 重信	池村 重信
全体行事担当												
進歩委員長進歩担当	大谷 実	佐藤 英男	佐藤 英男	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	内田 治彦	内田 治彦	内田 治彦
SS特別/ベンチャー委員長	鈴木 秀明	大谷 実	大谷 実	大谷 実	大谷 実	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明
指導者養成委員長	渡部 公	渡部 公	渡部 公	町田 徹	町田 徹	安藤 徹	前山 幸雄	前山 幸雄	前山 幸雄	前山 幸雄	前山 幸雄	前山 幸雄
国際特別/国際委員長	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之
健康安全/安全委員長	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之
トレーニングチーム主幹	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫	星野 明夫
正コミッショナー	屋明 貞	屋明 貞	屋明 貞	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公	渡部 公
副コミッショナー	秋田 清 田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治

和暦 西暦年度	平成10 1998	平成11 1999	平成12 2000	平成13 2001	平成14 2002	平成15 2003	平成16 2004	平成17 2005	平成18 2006	平成19 2007	平成20 2008	平成21 2009
先達	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	山田 利雄	古尾谷 盛太郎	古尾谷 盛太郎	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男
顧問	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 児玉 一男	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 児玉 一男	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 渡辺 宗男	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則	古尾谷 盛太郎 石井 英夫 堀田 利則
相談役	永見 次男 香掛 頼庸 石井 章夫	永見 次男 香掛 頼庸 石井 章夫	永見 次男 香掛 頼庸 小林 資明	永見 次男 香掛 頼庸 小林 資明	永見 次男 香掛 頼庸 小林 資明	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞	永見 次男 香掛 頼庸 屋 明貞
地区協議会長	堀田 利則	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫	安藤 徹	安藤 徹	安藤 徹	安藤 徹	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三
地区副協議会長	柏倉 秀和 河合 武夫 小林 資明 屋 明貞	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義	星 明貞 小池 安義 安藤 徹 長瀬 政義
地区委員長	鈴木 秀明	鈴木 秀明	鈴木 秀明	渡部 公	渡部 公	堀内 敬一	堀内 敬一	堀内 敬一	堀内 敬一	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦
副地区委員長	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安	花形 勝 谷本 通安
(※2)県連等担当	梅原 英毅	梅原 英毅	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫	金子 正夫
事務局長	町田 良治 金子 正夫	町田 良治 金子 正夫	梅原 英毅 町田 良治	馬場 智美	馬場 智美	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明
事務次長												
(BS連絡所)												
地区会計	楠 明	楠 明	楠 明	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	佐藤 和代	楠 明
会計監査	小池 安義 森本 武久	森本 武久 渡辺 博	森本 武久 橋本 博	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	正地 義夫 萩原 伸咲	高安 征夫
組織拡張/組織拡充担当	前山 幸雄	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	萩原 泉	関口 靖邦
広報委員長/広報担当	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	渡辺 悦男
情報化特別委員長/Web担当	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	木村 修三	杉浦 正明
財政委員長	小池 安義	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	西 康之
野営行事委員長	池村 重信	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	境 紳隆
進歩委員長進歩担当	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明	大橋 信明
ベンチャー委員長	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明	水野 英明
指導者養成委員長	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一	小池 隆一
国際特別委員長/国際委員長	濱田 雅弘	濱田 雅弘	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生	堂本 曉生
健康安全/安全委員長	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保	早坂 保
トレーニングチーム主幹	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實	鈴木 實
正コミッショナー	安藤 徹	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦	田島 宜彦
副コミッショナー	小路 忠臣 田島 宜彦 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治	小路 忠臣 北村 妙子 内田 治彦 水島 一誠 雨宮 ヒサ子 井村 修治
団担当コミッショナー												



# 歴代役員・コミッショナー・地区委員会一覧(3)

和暦 西暦年度	平成22 2010	平成23 2011	平成24 2012	平成25 2013	平成26 2014	平成27 2015	平成28 2016	平成29 2017	平成30 2018	平31・令1 2019	令和2 2020	令和3 2021
先達	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	渡辺 宗男	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫	河合 武夫	
顧問	堀田 利則 河合 武夫 安藤 徹	堀田 利則 河合 武夫 安藤 徹	堀田 利則 河合 武夫 安藤 徹	堀田 利則 河合 武夫 安藤 徹 木村 耕三	河合 武夫 安藤 徹 木村 耕三	河合 武夫 安藤 徹 木村 耕三	河合 武夫 安藤 徹 木村 耕三	安藤 徹 木村 耕三 谷本 通安	安藤 徹 木村 耕三 谷本 通安	木村 耕三 谷本 通安	木村 耕三 谷本 通安	谷本 通安 小山 新生
相談役	永見 次男 長瀬 政義 小池 安義 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 長瀬 政義 小池 安義 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 長瀬 政義 小池 安義 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍 水島 一誠 橋本 広茂	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍 水島 一誠 橋本 広茂	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍 水島 一誠 橋本 広茂	永見 次男 近江 廣之 伊奈 忍 水島 一誠 橋本 広茂
地区協議会長 会長代行	木村 耕三	木村 耕三	木村 耕三	田島 宣彦 木村 耕三	谷本 通安 木村 耕三	谷本 通安 木村 耕三	谷本 通安 木村 耕三	小山 新生	小山 新生	小山 新生	小山 新生	境 神隆
地区副協議会長	谷本 通安 渡部 公 堀内 敬一 濱田 雅弘	谷本 通安 濱田 雅弘 田島 宣彦	谷本 通安 田島 宣彦 荻原 泉	谷本 通安 小山 新生 水島 一誠	小山 新生 水島 一誠 田島 宣彦	小山 新生 水島 一誠 田島 宣彦	小山 新生 水島 一誠 田島 宣彦	木村 耕三 濱田 雅弘 田島 宣彦	木村 耕三 濱田 雅弘	木村 耕三 濱田 雅弘 渡辺 悦男	木村 耕三 渡辺 悦男	木村 耕三 渡辺 悦男
地区委員長	田島 宣彦	荻原 泉	濱田 雅弘	濱田 雅弘	境 神隆	境 神隆	境 神隆	境 神隆	境 神隆	境 神隆	北條 賢一	北條 賢一
副地区委員長  (※2)県連等担当	水野 英明 北條 賢一 荻原 泉	水野 英明	阿部 真也 境 神隆 山川 信一	境 神隆 山川 信一 阿部 真也(※2)	濱田 雅弘 阿部 真也(※2)	濱田 雅弘 阿部 真也(※2)	濱田 雅弘 阿部 真也(※2)	北條 賢一 阿部 真也(※2)	北條 賢一 阿部 真也(※2)	北條 賢一 阿部 真也(※2)	境 神隆 濱田 雅弘 阿部 真也(※2)	阿部 真也 曾根 純一 濱田 雅弘
事務長	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則	森本 正則
事務次長	阿部 真也	阿部 真也	水野 英明									
地区会計	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	楠 明	井上 麻里	井上 麻里
会計次長								井上 麻里	井上 麻里	井上 麻里	楠 明	楠 明
会計監査	高安 征夫 関口 靖邦	高安 征夫 関口 靖邦	高安 征夫 関口 靖邦	高安 征夫 関口 靖邦	仁藤 祥仁 長田 均彦	仁藤 祥仁 長田 均彦	仁藤 祥仁 長田 均彦	仁藤 祥仁 長田 均彦	仁藤 祥仁 鈴木 實	仁藤 祥仁 鈴木 實	仁藤 祥仁 鈴木 實	仁藤 祥仁 鈴木 實
総務委員長		山川 信一	山川 信一	西谷 誠介			磯部 英二	磯部 英二	磯部 英二	磯部 英二	磯部 英二	鈴木 貞弘
組織拡張委員長/同担当長	水野 英明 / 兼			西谷 誠介	西谷 誠介	西谷 誠介						
広報委員長/広報担当	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	渡辺 悦男	磯部 英二 / 兼	渡辺 悦男
登録担当		阿部 真也	阿部 真也	阿部 真也	阿部 真也	阿部 真也	阿部 真也 / 兼	阿部 真也 / 兼	阿部 真也 / 兼	阿部 真也 / 兼	磯部 英二 / 兼	奥本 泰浩
情報化特別/Web担当	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	杉浦 正明	磯部 英二 / 兼	木内 格志
財政委員長	西 康之	西 康之	西 康之									
スカウト支援委員長		林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎	林 剛一郎
対外奉仕担当	荻原 泉 / 兼		井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景	井上 景
野営行事委員長	境 神隆											
全体行事担当		西谷 誠介	西谷 誠介	亀井 禎生	亀井 禎生	亀井 禎生	林 剛一郎 / 兼	林 剛一郎 / 兼	林 剛一郎 / 兼	林 剛一郎 / 兼	林 剛一郎 / 兼	林 剛一郎 / 兼
進歩委員長/進歩担当	岩永 成央	服部 考浩	服部 考浩	服部 考浩	服部 考浩	大和田 敦史	大和田 敦史	大和田 敦史	大和田 敦史	大和田 敦史	大和田 敦史	渋谷 健太郎
BS部門担当		岩永 成央	岩永 成央	岩永 成央	井上 景	井上 景						
VS部門担当	林 剛一郎	佐々木 卓也	佐々木 卓也	佐々木 卓也								
RS部門担当	北條 賢一 / 兼	早坂 保	早坂 保	井上 景								
指導者支援委員長	山川 信一	木村 寿宏	木村 寿宏									
指導者養成委員長		佐藤 彩	北村 岳人	北村 岳人	北村 岳人	北村 岳人	北村 岳人	曾根 純一	曾根 純一	曾根 純一	曾根 純一	曾根 純一
国際委員長	北條 賢一 / 兼	境 神隆	境 神隆	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	長谷川 博之	濱田 雅弘 / 兼	西角 恵輔	西角 恵輔	西角 恵輔	西角 恵輔
国際担当		竹内 一泰										
ボルチモア担当		田口 祐司										
健康安全委員長											池村 重信	池村 重信
災害支援チーム主幹	中島 良介	中島 良介	中島 良介	中島 良介	鈴木 和宏	池村 重信	池村 重信	池村 重信	池村 重信	池村 重信		
トレーニングチーム主幹	栗田 哲郎	田島 宣彦	田島 宣彦	堀内 敬一	堀内 敬一	田島 宣彦	田島 宣彦 / 兼	田島 宣彦 / 兼	木村 寿宏 / 兼	木村 寿宏 / 兼	木村 寿宏 / 兼	曾根 純一 / 兼
再興支援特別委員会				濱田 雅弘	濱田 雅弘	濱田 雅弘	濱田 雅弘 / 兼					
成人参画促進特別委員長										北條 賢一 / 兼	境 神隆 / 兼	北條 賢一 / 兼
70周年特別委員長										北條 賢一 / 兼	池村 重信 / 兼	池村 重信 / 兼
23WSJ				山川 信一	山川 信一	山川 信一						
16NJ/17NSJ				境 神隆					北條 賢一 / 兼			
正コミッショナー	水島 一誠	水島 一誠	水島 一誠	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	北條 賢一	安藤 聡	安藤 聡	安藤 聡	北村 岳人	北村 岳人
副コミッショナー	多賀 譲治 安藤 聡 栗田 哲郎 木村 寿宏	多賀 譲治 安藤 聡 栗田 哲郎	多賀 譲治 安藤 聡 栗田 哲郎 北條 賢一	安藤 聡 木村 寿宏 栗田 哲郎 多賀 譲治 堀内 敬一 後藤 輝一	安藤 聡 木村 寿宏 栗田 哲郎 久保井 基隆	安藤 聡 木村 寿宏 栗田 哲郎 久保井 基隆	安藤 聡 木村 寿宏 栗田 哲郎 久保井 基隆	木村 寿宏 久保井 基隆 栗田 哲郎	栗田 哲郎 木村 寿宏 北村 岳人	栗田 哲郎 木村 寿宏 北村 岳人	栗田 哲郎 木村 寿宏 香焼 真人	香焼 真人 大坪 邦裕 木村 寿宏 栗田 哲郎
団担当コミッショナー	百木 幹雄 後藤 輝一	百木 幹雄 後藤 輝一	百木 幹雄 後藤 輝一	百木 幹雄	百木 幹雄	百木 幹雄	百木 幹雄	百木 幹雄			水島 一誠	水島 一誠

## 編集後記

地区の70周年記念事業の一環として記念誌を編纂することになったとき、委員間で「今調べておけることは可能な限り調べましょう。私達の世代が抜けた後に調べるのは大変に難しくなりますから。」と申し合わせました。そこで、杉浦さん(22 団)を中心に過去の地区総会資料や各周年記念誌等できる限り広範囲の資料に当たり、情報蒐集に努めて戴きました。70周年記念誌では集めた資料の要となる部分を掲載しておりますが、ご紹介できなかった資料を含め集めた情報はデジタルデータ化して地区内で引き継いで行くことに致します。

執筆に関しましては、各団・各委員会等の皆様から多大なるご協力を戴きました。加えて、「今ここで川崎地区の歴史を纏めて残しておきたい」という熱意を以て、川崎スカウトクラブの渡部さんから長文のご寄稿を戴きました。ご自分の所属団のことでいろいろと知らなかったことが解り「へえ、そうだったのか」と、ポンと膝を打つ方が多数いらっしゃるに違いありません。

また、井上さん(39 団)には今回も表紙デザインやシンボルマーク紹介等で大変お世話になりました。大辻さん(49 団)には、各「団紹介」の編集に大変ご苦労戴きました。その他にも、座談会出席や資料蒐集・確認等で地区関係者各位には多大なるお力添えを頂戴いたしました。心より厚く感謝申し上げます。

末尾ながら、一年余の長きにわたる編纂作業にご尽力戴いた編纂担当実行委員の皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

70周年記念誌編纂担当長 境 紳隆

### 【編纂担当実行委員】

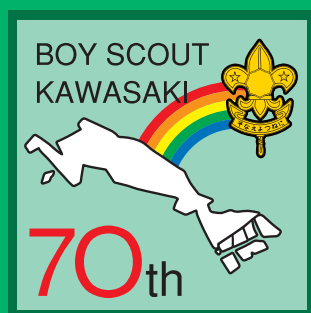
22 団	杉浦 正明
	鈴木 貞弘
26 団	窪田 隆
38 団	仁藤 祥仁
43 団	渡辺 悦男
46 団	久保井 基隆
49 団	大辻 敏之
54 団	木村 耕三
56 団	高柳 英樹
	竹ノ内 博美
57 団	境 紳隆
川崎地区	長谷川 博之
川崎スカウトクラブ	渡部 公

### 【執筆・編集・資料作製担当】

(複数人の投稿記事は、編集者を掲載)

ボーイスカウトのあゆみ	渡部 公
企業隊について	渡部 公
ジャンボリー	境 紳隆
白梅隊	境 紳隆
G A T C	境 紳隆
ボルチモア - 川崎スカウト交流	長谷川 博之
	濱田 雅弘
	堂本 暁生
地区賛助会	木村 耕三
	長谷川 博之
活動場所紹介	渡部 公
	境 紳隆
	杉浦 正明
座談会	渡辺 悦男
	竹ノ内 博美
70周年記念表彰	北村 岳人
表紙・シンボルマーク紹介他	井上 景
「団紹介」編集	大辻 敏之
「全団マップ」制作	杉浦 正明
川崎地区の記録	杉浦 正明
編集全般	杉浦 正明

発行 2022 年(令和 4 年) 3 月 15 日



ボーイスカウト川崎地区  
創立70周年記念